安中城Ⅰ・Ⅱ

―― 安中市文化センター駐車場建設事業・
安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

２０１１
群馬県安中市教育委員会

安中城Ⅰ・Ⅱ

―― 安中市文化センター駐車場建設事業・
安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

２０１１
群馬県安中市教育委員会

安中城Ⅰ・Ⅱ遠景（東上空より）

序

群馬県の南西部に位置する安中市は、奇峰妙義山、清流碓氷川等を有する自然豊かな市です。長野県との県境の山々に水源を持つ碓氷川、その支流である九十九川は、妙義山の北を並行するように東流し市の東端部付近で合流します。安中城は２本の河川に挟まれた段丘上に位置しています。

さて、ここに報告いたします「安中城Ⅰ・Ⅱ」は、安中市文化センター駐車場建設事業・安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴い調査されました。調査原因は異なりますが、両調査地が安中城縄張り内に隣接する一連の遺跡であること、開発主体が共に安中市教育委員会であることから、安中市文化センター駐車場建設事業に伴い調査したものを「安中城Ⅰ」、安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴い調査したものを「安中城Ⅱ」とし、本書において合わせて報告することに致しました。

安中城は、戦国時代末の16世紀半ばに安中忠政により築かれた城（中世安中城）です。この時の主郭部は、九十九川を眼下に臨む地（太郎兵衛屋敷）に位置していたと推測されています。その後安中城は一時廃城となりましたが、17世紀になり徳川氏の有力家臣である井伊直勝が滋賀県彦根より移封になり、中世安中城とは異なる地に城（近世安中城）を再建したと言われています。今回の調査地は、近世安中城の本丸付近と推定されます。

調査の結果、安中城Ⅰにおいては、中世から近世の所産と推定される大規模な堀・石組・土塁状遺構等が確認されました。安中城Ⅱにおいては、前出の時期の所産と推定される堀の他に、古代の集落が確認されました。どちらの遺跡も調査面積は決して広くはありません。また、安中城Ⅱについては、旧校舎の建設時に破壊された遺構も多く、遺存状況は良好とは言えません。しかし、安中城の本丸付近の発掘調査は今回が初めてであり、貴重なデーターの集積がなされたことも事実です。これらの資料が、郷土安中市の歴史解明の一助となることを願って止みません。

最後になりましたが、調査に参加された皆様、報告書刊行に至るまでご指導・ご協力をいただいた多くの方々に、厚く御礼申し上げ序と致します。

平成23年３月25日

安中市教育委員会
教育長　中澤　四郎

例　言

1　本書は、安中市文化センター駐車場建設事業・安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。前者に伴い調査を実施したものを安中城Ⅰ、後者に伴い調査を実施したものを安中城Ⅱと呼称している。

2　調査地は安中城Ⅰが群馬県安中市安中222-1、安中城Ⅱが群馬県安中市安中3-10-43他である。調査面積は安中城Ⅰが約240㎡、安中城Ⅱが約470㎡である。

3　安中城Ⅰは安中市文化センターの委託を受けて、安中城Ⅱは安中市教育委員会総務課の委託を受けて、安中市教育委員会学習の森が発掘調査を実施した。

4　確認調査については国庫補助金・県費補助金により実施した。本調査及び整理作業については、原因者である安中市教育委員会の負担により、安中市教育委員会学習の森が直営で実施した。

5　調査期間

安中城Ⅰ	○確認調査	平成21年度	平成21年５月14日～平成21年６月５日
	○整理作業	平成21～22年度	平成21年６月８日～23年１月31日まで断続的に実施
安中城Ⅱ	○発掘調査	平成21年度	平成21年７月17日～平成21年７月31日
	○整理作業	平成21～22年度	平成21年８月３日～23年１月31日まで断続的に実施

6　出土遺物・資料類は安中市教育委員会が保管している。

7　両遺跡とも、発掘調査・整理作業は壁伸明（安中市教育委員会学習の森文化財係主査）が担当した。

8　発掘調査に従事していただいたのは、次の方々である。（敬称略）

岩坂　康男　　鬼形　敦子　　小野　　毅　　須藤　利夫　　須藤　はるの　　高橋　修二
橋爪　千昭　　萩原　眞一　　林　知曠　　藤井　みゆき

9　両遺跡とも、基準杭測量は大成測量（株）に委託した。

10　遺構写真の撮影は壁が行った。遺跡の航空写真撮影は、両遺跡とも（株）テクノプラニングに委託した。掲載遺物の撮影は壁が行った。

11　整理作業の分担は以下のとおりである。

遺物接合・復元	小野　毅	須藤　利夫	須藤　はるの	多胡　わぐり
	橋爪　千昭			
遺物実測・拓本・トレース	鬼形　敦子	中里　徳子	藤井　みゆき	
遺構図作成	鬼形　敦子	中里　徳子	藤井　みゆき	
遺物観察・編集・執筆　他	壁　伸明			

12　遺物実測・トレース・遺物観察表作成の一部を（有）前橋文化財研究所に委託した。

13　発掘調査及び整理作業にあたっては、次の方々・機関よりご教示・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）

有山　径世　　柴田　洋孝　　高橋　清文　　谷藤　保彦　　大工原　豊　　三浦　京子
鈴木建設　（有）毛野考古学研究所

14　調査組織

安中市教育委員会事務局（平成21年度）

教育長	中澤　四郎
教育部長	本多　英夫
学習の森所長（参事）	小島　成公
文化財係長（課長補佐）	藤巻　正勝（事務総括）
主査	蜂須賀　まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁　伸明（調査担当）
主査（文化財保護主事）	千田　茂雄
主査（文化財保護主事）	深町　真
主査（文化財保護主事）	井上　慎也
主事補	小此木　克之

安中市教育委員会事務局（平成22年度）

教育長	中澤　四郎
教育部長	本多　英夫
学習の森所長	神宮　裕子
文化財係長（課長補佐）	藤巻　正勝（事務総括）
主査	蜂須賀　まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁　伸明（調査担当）
主査（文化財保護主事）	深町　真
主査（文化財保護主事）	井上　慎也
主事	小此木　克之
主事補	菅原　龍彦

凡　　例

1　各遺構図方位記号は国家座標の北を表している。座標系は国家座標第Ⅸである。

2　遺構断面図、等高線に付した数字は標高を表す。

3　遺構実測図の縮尺は1/60を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。

4　遺物実測図の縮尺は、縄文土器1/3、瓦・石臼1/6、その他1/4を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。

5　図中のスクリーントーン▒は焼土、▓は炭化材の範囲を示している。

6　縄文土器のうち、図中の土器断面に●を付してあるものは繊維土器を表している。

7　遺物の観察については縄文土器は文章で、それ以外は遺物観察表を用いて記した。遺物観察表内の（　）は推定値を、〈　〉は残存値を示している。

8　土層説明中の記号・略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：「新版標準土色帖」による。

色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）。

しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし

混入物の量　◎：大量（30～50%）　○：多量（15～25%）　△：少量（5～10%）　※：若干（1～3%）　×：なし

混入物　ＲＰ：ローム粒子（溶け込んだ状態）　ＲＢ：ロームブロック（固まりの状態）　ＹＰ：浅間板鼻黄色軽石

9　本文及び表中等で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いている。

浅間Ａ軽石：As-A　浅間Ｂ軽石：As-B　浅間Ｃ軽石：As-C　浅間板鼻黄色軽石層：As-YP

10　遺物分布図に用いた記号は以下のとおりである。

		10ｇ	100ｇ	1000ｇ
須恵器	坏・高坏系	□	□	□
須恵器	甕・壺系	○	○	○
須恵器	蓋	◇	◇	◇
布目瓦		△	△	△
土師器	坏・高坏系	■	■	■
土師器	甕・壺系	●	●	●

11　遺構図中の遺物に付した番号は、出土遺物図の遺物番号に対応している。

目　　次

序
例言
凡例
目次

第１章　経過 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理作業の経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　調査の方法 …… 5
　第１節　調査の方法 …… 5
　第２節　基本層序 …… 5

第４章　遺構と遺物 …… 5
　（安中城Ⅰ）
　第１節　概要 …… 5
　第２節　中世～近世 …… 5
　（安中城Ⅱ）
　第１節　概要 …… 15
　第２節　古代 …… 15
　　（１）竪穴住居址 …… 15
　　（２）土坑 …… 32
　第３節　中世～近世 …… 34
　　（１）溝 …… 34
　　（２）土坑 …… 35
　　（３）集石 …… 37
　第４節　遺構外出土遺物 …… 37

第５章　まとめ …… 39

写真図版
抄　　録

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡位置図 …… 3
第２図　安中城Ⅰ・Ⅱ調査区位置図 …… 4
第３図　基本土層模式図 …… 5
第４図　安中城Ⅰ全体図 …… 6
第５図　１号トレンチ実測図 …… 7
第６図　２号トレンチ実測図(1) …… 9
第７図　２号トレンチ実測図(2) …… 10
第８図　１号トレンチ出土遺物 …… 11
第９図　２号トレンチ出土遺物 …… 12
第10図　１号土坑・１号ピット実測図 …… 12
第11図　安中城Ⅱ全体図・グリッド設定図 …… 13
第12図　Ｈ１号住居址実測図 …… 15
第13図　Ｈ１号住居址出土遺物 …… 16
第14図　Ｈ２号住居址出土遺物 …… 17
第15図　Ｈ２号住居址実測図 …… 18
第16図　Ｈ３号住居址実測図(1) …… 18
第17図　Ｈ３号住居址実測図(2) …… 19
第18図　Ｈ３号住居址出土遺物 …… 19
第19図　Ｈ４号住居址実測図 …… 20
第20図　Ｈ４号住居址出土遺物 …… 21
第21図　Ｈ５号住居址実測図 …… 22
第22図　Ｈ５号住居址出土遺物 …… 22
第23図　Ｈ６号住居址実測図 …… 23
第24図　Ｈ６号住居址出土遺物(1) …… 23
第25図　Ｈ６号住居址出土遺物(2) …… 24
第26図　Ｈ７号住居址実測図(1) …… 24
第27図　Ｈ７号住居址実測図(2) …… 25
第28図　Ｈ７号住居址出土遺物 …… 25
第29図　Ｈ８号住居址実測図 …… 26
第30図　Ｈ８号住居址出土遺物 …… 26
第31図　Ｈ９号住居址実測図 …… 27
第32図　Ｈ９号住居址出土遺物 …… 27
第33図　Ｈ10号住居址実測図 …… 28
第34図　Ｈ10号住居址出土遺物 …… 28
第35図　Ｈ11号住居址実測図 …… 29
第36図　Ｈ12号住居址実測図(1) …… 29
第37図　Ｈ12号住居址実測図(2) …… 30
第38図　Ｈ12号住居址出土遺物 …… 30
第39図　Ｈ13号住居址実測図 …… 31
第40図　Ｈ13号住居址出土遺物 …… 32

第41図　２号土坑実測図 …… 33
第42図　２号土坑出土遺物 …… 33
第43図　６号土坑実測図 …… 33
第44図　６号土坑出土遺物 …… 33
第45図　１号溝実測図 …… 34
第46図　２号溝実測図 …… 35
第47図　１号土坑実測図 …… 35
第48図　３号土坑実測図 …… 36
第49図　４号土坑実測図 …… 36
第50図　５号土坑実測図 …… 36
第51図　１号・２号集石実測図 …… 37
第52図　１号集石出土遺物 …… 37
第53図　遺構外出土遺物 …… 38
第54図　中世掘切・近世本丸堀推定位置図 …… 40

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧 …… 4
第２表　１号トレンチ出土遺物観察表(1)…… 11
第３表　１号トレンチ出土遺物観察表(2)…… 12
第４表　２号トレンチ出土遺物観察表 …… 12
第５表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表 …… 17
第６表　Ｈ２号住居址出土遺物観察表 …… 18
第７表　Ｈ３号住居址出土遺物観察表 …… 20
第８表　Ｈ４号住居址出土遺物観察表 …… 21
第９表　Ｈ５号住居址出土遺物観察表 …… 22
第10表　Ｈ６号住居址出土遺物観察表 …… 24
第11表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表 …… 25
第12表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表(1)…… 26
第13表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表(2)…… 27
第14表　Ｈ９号住居址出土遺物観察表 …… 27
第15表　Ｈ10号住居址出土遺物観察表 …… 28
第16表　Ｈ12号住居址出土遺物観察表(1) …… 30
第17表　Ｈ12号住居址出土遺物観察表(2) …… 31
第18表　Ｈ13号住居址出土遺物観察表 …… 32
第19表　２号土坑出土遺物観察表…… 33
第20表　６号土坑出土遺物観察表…… 33
第21表　１号集石出土遺物観察表…… 37

写真図版目次

PL.　１　調査区全景
１号トレンチ掘削状況
１号トレンチで検出された堀
２号トレンチ石組と土塁状遺構
２号トレンチ土塁状遺構南壁セクション
PL.　２　調査区全景
Ｈ１号住居址遺物出土状況
Ｈ２号住居址遺物出土状況
Ｈ３号住居址遺物出土状況
Ｈ４号住居址遺物出土状況
PL.　３　Ｈ５号住居址遺物出土状況
Ｈ６号住居址完掘状況
Ｈ７号住居址遺物出土状況
Ｈ８号住居址遺物出土状況
Ｈ９号住居址遺物出土状況
Ｈ10号住居址完掘状況
Ｈ11号住居址完掘状況
Ｈ12号住居址遺物出土状況
PL.　４　Ｈ13号住居址遺物出土状況
１号・２号集石礫出土状況
１号土坑完掘状況
２号土坑遺物出土状況
４号土坑完掘状況
６号土坑完掘状況
１号溝セクション
２号溝完掘状況
PL.　５　１号・２号トレンチ出土遺物
Ｈ１号～Ｈ３号住居址出土遺物
PL.　６　Ｈ４号～Ｈ10号住居址出土遺物
PL.　７　Ｈ12号・Ｈ13号住居址出土遺物
土坑・集石出土遺物
遺構外出土遺物

第１章　経過

第１節　調査に至る経過

群馬県安中市は、奇峰妙義山・清流碓氷川等を有する風光明媚な地である。安中城は、碓氷川とその支流である九十九川とに挟まれたなだらかな段丘上に位置している。近世安中城の本丸址と推定される付近には、現在安中市文化センター（以下文化センター）と安中市立安中小学校（以下安中小学校）が建築されている。それぞれの調査経過は以下のとおりである。

（１）安中城Ⅰ（文化センター駐車場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査）

平成21年４月10日、文化センターより安中市教育委員会学習の森（以下学習の森）に、駐車場建設事業に係る埋蔵文化財に関しての照会があった。開発予定地周辺は、近世安中城の本丸付近と推定され、近年まで堀の形状が確認できた場所である。そのため、学習の森は４月24日付、確認調査が必要である旨を回答した。５月８日、文化センターより確認調査依頼書が提出された。これを受け、５月14日～６月４日確認調査を実施した。調査の結果、想定されたとおり安中城に関連すると考えられる堀が検出された。しかし、今回の駐車場造成工事内容が、土盛りを行うこと、舗装を行わず砂利敷きの駐車場であることから、確認された遺構は保護されるものと判断し本調査は実施しなかった。

（２）安中城Ⅱ（安中小学校校舎建て替え事業に伴う埋蔵文化財発掘調査）

平成21年７月１日、安中市教育委員会総務課（以下総務課）より学習の森へ、安中小学校校舎建て替え事業に係る埋蔵文化財について照会があった。開発予定地は現在校舎が建設されている場所であり、校舎建設時に遺構が破壊されている可能性が高いが、堀等の掘り込みの深い遺構の一部は遺存している可能性が考えられたため、学習の森は７月３日付確認調査が必要である旨を回答した。同日、総務課より確認調査依頼書が提出された。これを受け、７月９日～17日に確認調査を実施した。結果、遺存状況は不良であったが、古代の竪穴住居址群と中世～近世の溝２条等が確認された。総務課と学習の森の協議の結果、計画の変更は不可能であるという結論に達したため、発掘通知等の法的手続きを行いながら、引き続き７月31日まで本調査を実施し記録保存を図ることとした。

第２節　発掘作業の経過

（１）安中城Ⅰ

今回の開発地域に、安中城関連の堀が存在することは、安中城縄張り図と現在の地形を合わせ考えてみると、ほぼ確実であった。よって、調査の主眼は堀の規模と方向を確認することに置かれた。５月14日にバックフォーを搬入しトレンチの掘削を開始した。１号トレンチは堀の規模を確認するため、やや広い幅で、堀の底部まで完掘した。一方、２号トレンチは１号トレンチと合わせ、方向を確認するため、幅を狭くし堀の肩までの掘削とした。遺構の平面測量は平板測量を基本とし、スケールは堀1/40、全体図1/100とした。断面測量については原則1/20で行った。遺構の記録写真は、35㎜カラーフィルム・白黒フィルムで壁が撮影を行った。作業風景等も適宜撮影した。５月26日には航空写真撮影を実施した。全ての調査が終了した６月３日より埋め戻しを開始した。

（２）安中城Ⅱ

本遺跡は、試掘調査等より古代の集落遺跡と、中世～近世の城館址と想定されていた。本調査では、確認調査トレンチの遺構が検出された部分をバックフォーにより拡張した。表土掘削後、ジョレンによるプラン確認を行い、各遺構の精査を実施した。遺構の調査は安中城Ⅰに準じた方法で行った。各遺構の精査が終了した７月29日に航空写真撮影を実施した。その後バックフォーにより埋め戻し、７月31日現地調査を終了した。

第３節　整理作業の経過

整理作業は、発掘調査で得られた図面・写真・出土遺物を整理し、各遺構・遺物の状態が客観的に把握できるように資料化することを主目的として実施した。両遺跡とも、現地調査終了後、次のような方法で実施した。

出土遺物は全て水洗いを行い、小破片を除いて注記した。注記には下記のような略記号を使用した。
遺跡名　安中城Ⅰ→D27　安中城Ⅱ→D28、古代住居跡→H、溝→M、土坑→D、集石→S
接合・復元は可能な限り行った。接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂修復剤（バイサム）を用いたが、基本的には補強を目的としているため、必要最小限の復元にとどめている。
遺物の接合・復元と並行して、図面基礎整理・各種台帳整理・写真整理等も実施した。遺物実測・トレース・遺物観察・写真撮影は、原則直営で行ったが、土器・石器の一部を（有）前橋文化財研究所に委託した。遺構図・遺物実測図はイラストレーターでデジタルトレースを行い作業の効率化を図った。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

安中市は関東平野の周辺部である群馬県の南西部に位置している。長野県との県境付近に源を発する碓氷川と、その支流である九十九川は、並行するように市内を西より東方向へ流下する。それぞれの河川の両側には河岸段丘が発達し、河川に並走するように丘陵が延びている。本遺跡が位置するのは、碓氷川と九十九川に挟まれた中位段丘（安中面・原市面）東端部分であり、本遺跡の東で両河川は合流している。本遺跡地の北側には、九十九川との間に急峻な傾斜地が存在している。東側から南側にかけては、北側ほどではないが傾斜地が存在する。このように、遺跡地周辺は西側を除き、河川と傾斜地に囲まれた要害の地である。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺においては、安中城関連の遺跡以外にも、古墳～奈良・平安時代を中心に多くの遺跡が確認されている。それらの遺跡について各時代の概要を概観する（括弧内数字は第１表及び第１図に対応する）。
縄文時代では、植松・地尻遺跡（３）において、草創期と推定される有舌尖頭器と中期の土坑と遺物が確認されている。地尻遺跡（４）においても、中期の土坑と遺物が確認されている。また西町・谷津遺跡（６）では、遺構は確認されていないが、前期から後期の土器が出土している。確認されている遺構や遺物は多くはないが、本遺跡周辺には前期から後期にかけて小規模集落が営まれていた可能性が考えられる。
弥生時代では、植松・地尻遺跡において中期後半の住居址が確認されている。三本松遺跡（18）では中期前半の土器が出土している。また、中宿在家遺跡（13）では、遺物包含層中から後期の土器が出土している。さらに山峰遺跡（19）、下原・賽神遺跡（20）においては、後期から古墳時代初頭にかけての集落が確認されている。
古墳時代では、植松・地尻遺跡において集落が確認されている。また、古墳も安中４号墳・安中７号墳などが存在している。
奈良・平安時代では、地尻・地尻Ⅱ遺跡、地尻Ⅲ遺跡（５）、植松・地尻遺跡において集落が確認されている。また、碓氷川右岸の上位段丘上では、堀谷戸遺跡（17）、西殿遺跡（16）、下原・賽神遺跡において、当該期の集落が確認されている。
中世以降では、地尻・地尻Ⅱ遺跡、西町・谷津遺跡において安中城関連の堀が検出されている。

が近世安中城の推定範囲

1:25,000

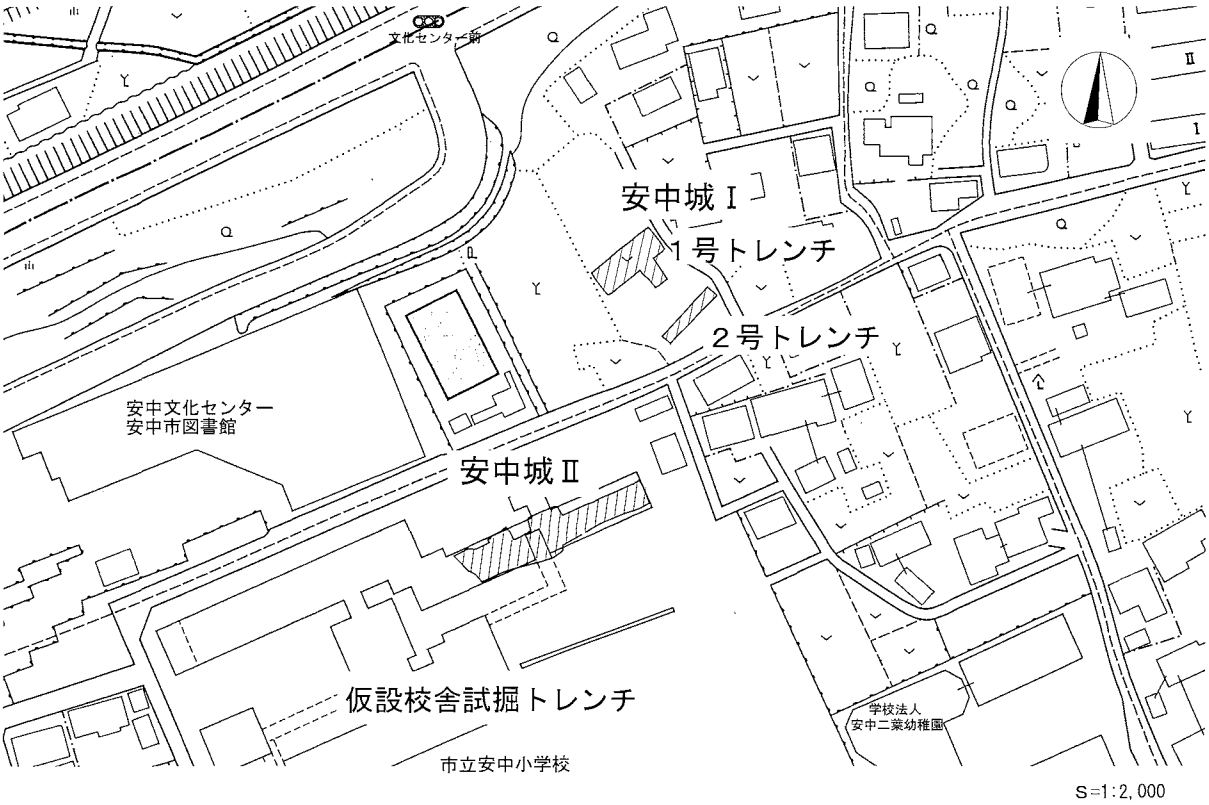
0　1500m

第１図　周辺の遺跡位置図

	遺跡名	旧石	縄文						弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終					
1	安中城Ⅰ																△	△	本書報告遺跡
2	安中城Ⅱ				※	※									◎	○	△	△	本書報告遺跡
3	植松・地尻		※			△			○				◎	○	◎	○			
4	地尻・地尻Ⅱ					△									○	○	△	△	安中城関連・館址
5	地尻Ⅲ														○	◎			集落
6	西町・谷津																△	△	安中城関連
7	上野尻														△	△	△		中世の大溝（水路）
8	高別当瓦塔出土地															※			
9	桃山瓦塔出土地															※			
10	大島田																	△	水田址
11	めおと塚古墳													◎					安中14号墳
12	悪途東					△								◎					古墳
13	中宿在家									※						○	◎	○	水田址・館址
14	中宿在家Ⅱ															○	◎	○	水田址・館址
15	野殿北屋敷																	◎	館址
16	西殿													○	○	○			集落
17	堀谷戸												○		◎	◎	△		集落
18	三本松								※										中期壺出土
19	山峰				○					○	○								集落
20	下原・賽神									○	○		○	○		○			集落

◎大規模な遺跡（集落・古墳等）　○中規模な遺跡（住居址・牧関連等）
△小規模な遺跡（土坑・溝等）　※遺物が出土した遺跡

第1表　周辺の遺跡一覧



第２図　安中城Ⅰ・Ⅱ調査区位置図

第３章　調査の方法

第１節　調査の方法

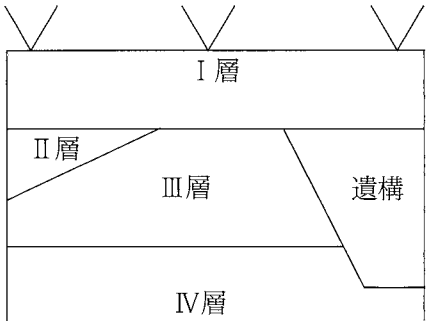
発掘調査の方法・手順はほぼ通例に準じているが、一部安中市教育委員会が実施している独自の方法を採用した。

バックフォーによる表土掘削後、ジョレンを用いて遺構確認を行った。グリッドについては、安中城Ⅰでは設定しなかった。安中城Ⅱでは、開発区域全域に一辺４ｍのグリッドを設定した。Ｘ＝37088、Ｙ＝-84156を北西隅に持つグリッドを１Ａグリッドとし、東方向へは数字で１・２・３・・・とし、南方向へはアルファベットでＡ・Ｂ・Ｃ・・・とし、組み合わせて表記した。また、各グリッドをさらにａ～ｄの４区に分割した（第11図参照)。検出された遺構については、遺構の内容に応じた精査を行い、土層断面・遺物出土状況・完掘状況を、カラーフィルム・モノクロフィルム（35㎜）で撮影した。住居址は「分層16分割法」により、層位毎に掘り下げ遺物を取り上げた。また、床面又は堀・溝底面直上より出土した遺物の一部は、その位置・高さを記録した。

出土遺物は、洗浄した後、出土位置等を注記した。注記された遺物について、器種分類及び計測・計量を行い、各種台帳を作成した。資料整理作業全般及び報告書作成には、積極的にパソコンを使用し、図版の作成・データ処理等を行った。

第２節　基本層序

安中城Ⅰでは、通常周辺地域で確認できるＡs-Ａ・Ａs-Ｂ混土層や一次堆積層は殆ど確認されなかった。表土の黒色土を一度掘削し、客土をしているものと思われる。安中城Ⅱは旧校舎が建設されていた場所であり、やはりＡs-Ａ・Ａs-Ｂ混土層や一次堆積層は確認されなかった。また、旧校舎基礎部分及びその周辺部の地山は大きく壊されており、場所により土層状況は異なる。遺構の確認は、基本的にはⅢ層上面で行ったが、場所によっては基礎のコンクリートや攪乱の土砂などを取り除いた面が確認面となっている。



第Ⅰ層　暗褐色土　客土。Ａs-Ａ・瓦礫等が混入する場合もある。
第Ⅱ層　黒褐色土　部分的に遺存する。Ａs-Ｂより下位の土層。
第Ⅲ層　暗褐色土　ローム土への漸移層。
第Ⅳ層　黄褐色土　やや粘性を持つローム土。

第３図　基本土層模式図

第４章　遺構と遺物

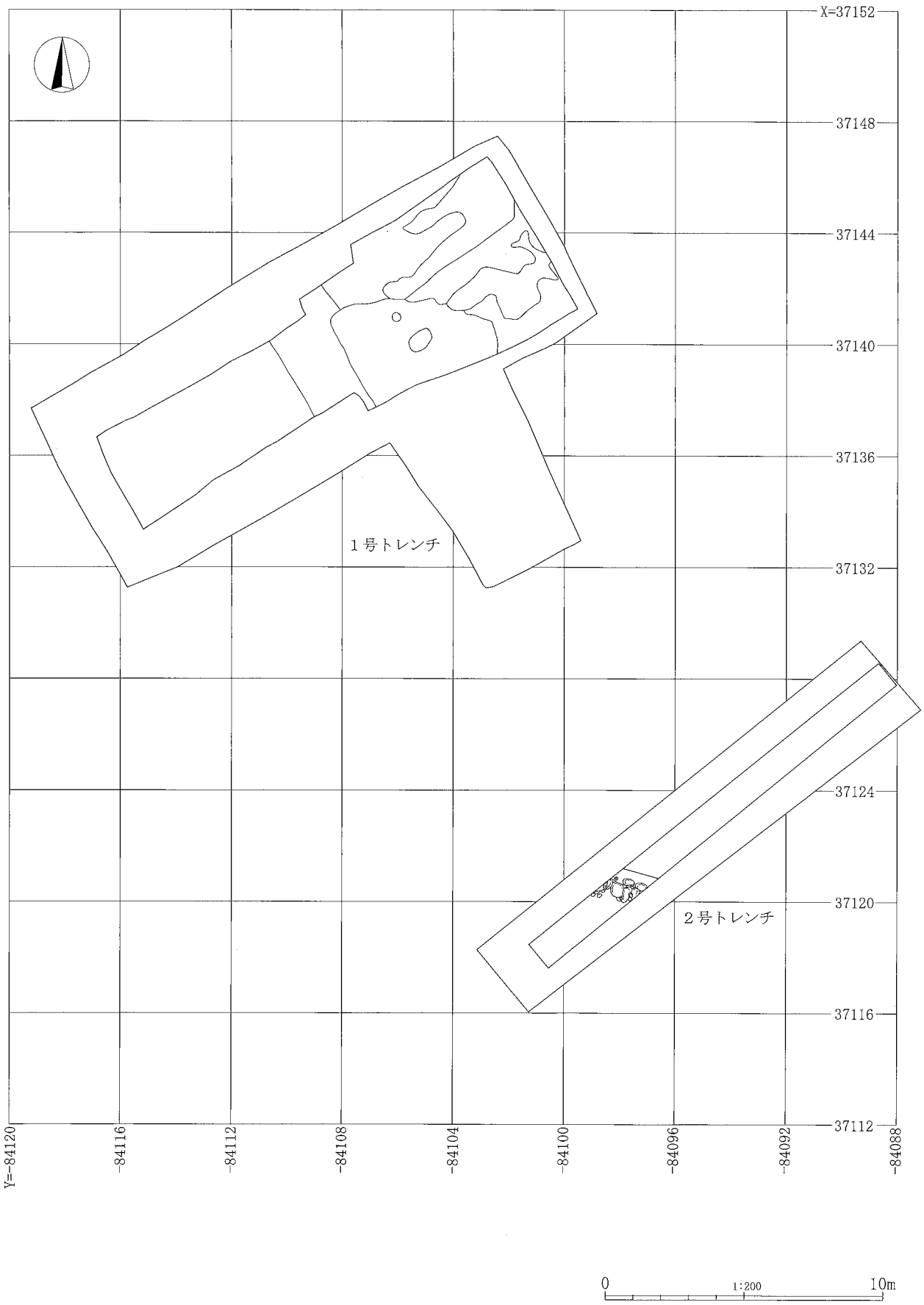
（安中城Ⅰ）

第１節　概要

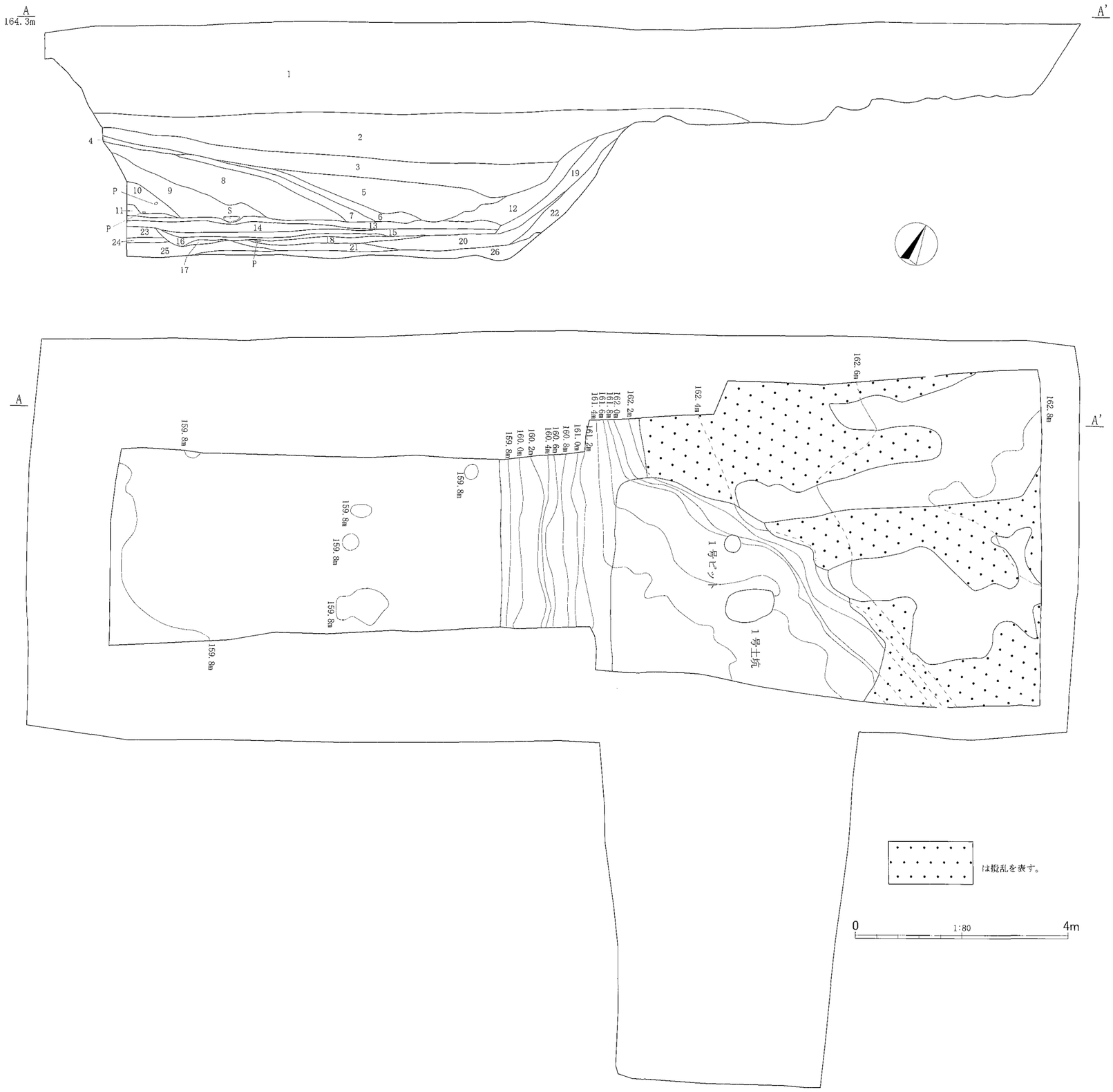
確認調査であり、安中城に関連する堀の一部分をトレンチ状に掘削したのみである。そのため、出土遺物も少量である。

第２節　中世～近世

１号トレンチで大規模な堀が、２号トレンチで石組・土塁状遺構が検出された。


X=37152
37148
37144
37140
37136
37132
37124
37120
37116
37112
Y=-84120
-84116
-84112
-84108
-84104
-84100
-84096
-84092
-84088
1号トレンチ
2号トレンチ
0
1:200
10m

第４図　安中城Ⅰ全体図



A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物								(備考)
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	
1層	10YR4/1	褐灰色土		△	△	△	△	※	△	※	※	※	※	最近の盛土。
2層	10YR2/2	黒褐色土	2>12	△	△	※	※	※	△	※	※	※	※	
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	3>10>19	△	○	○	○	△	※	※	※	※	※	
4層	10YR5/6	黄褐色土		○	○	○	◎	△	※	※	※	※	※	
5層	10YR4/2	灰黄褐色土	5<7<11	△	△	△	△	△	※	※	※	※	※	
6層	10YR5/4	にぶい黄褐色土		△	○	○	○	△	※	※	※	※	※	
7層	10YR4/2	灰黄褐色土	11>7>5	△	△	△	△	△	※	※	※	※	※	
8層	10YR4/4	褐色土		△	○	○	◎	△	※	※	※	※	※	こぶし大～人頭大の礫が少量混入する。
9層	10YR3/4	暗褐色土		△	△	△	△	△	※	※	※	※	※	こぶし大～人頭大の礫が多く混入する。
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	19<10<3	△	△	○	△	△	※	※	※	※	※	こぶし大～人頭大の礫が混入する。
11層	10YR4/2	灰黄褐色土	11>7>5	△	△	△	※	※	※	※	※	※	※	こぶし大～人頭大の礫が混入する。
12層	10YR2/2	黒褐色土	12<2	△	△	※	※	※	△	※	※	※	※	
13層	10YR3/2	黒褐色土	13>14	△	○	※	※	※	※	※	※	△	※	本層上位に炭化物が混入する。
14層	10YR3/2	黒褐色土	14<13	△	※	※	※	※	※	※	※	※	※	砂質でもろい。水性堆積？
15層	10YR3/1	黒褐色土	15>26>21	△	○	※	※	※	※	※	※	※	※	部分的に鉄分沈着。
16層	7.5YR4/3	褐色土		○	○	△	△	△	※	※	※	※	※	部分的に鉄分沈着。
17層	7.5YR3/4	暗褐色土		○	○	※	※	※	※	※	※	※	※	部分的に鉄分沈着。
18層	7.5YR3/2	黒褐色土		○	○	※	※	△	※	※	※	※	※	
19層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	19<10<3	△	△	△	※	※	※	※	※	※	※	
20層	7.5YR4/4	褐色土		○	○	△	○	△	※	※	※	※	※	
21層	10YR3/1	黒褐色土	21<26<15	○	△	※	※	△	※	△？	※	※	※	褐色パミス(As-B？)混入。こぶし大の礫少量混入。
22層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		○	○	△	※	△	※	※	※	※	※	
23層	7.5YR4/2	灰褐色土		△	△	※	※	※	※	※	※	※	※	
24層	7.5YR4/1	褐灰色土		△	○	※	※	※	※	※	※	※	※	
25層	7.5YR5/4	にぶい褐色土		○	○	※	○	※	※	※	※	※	※	
26層	10YR3/1	黒褐色土	21<26<15	◎	○	※	※	※	※	△？	※	※	※	褐色パミス(As-B？)混入。こぶし大の礫少量混入。

第５図　１号トレンチ実測図

第６図　２号トレンチ実測図（１）

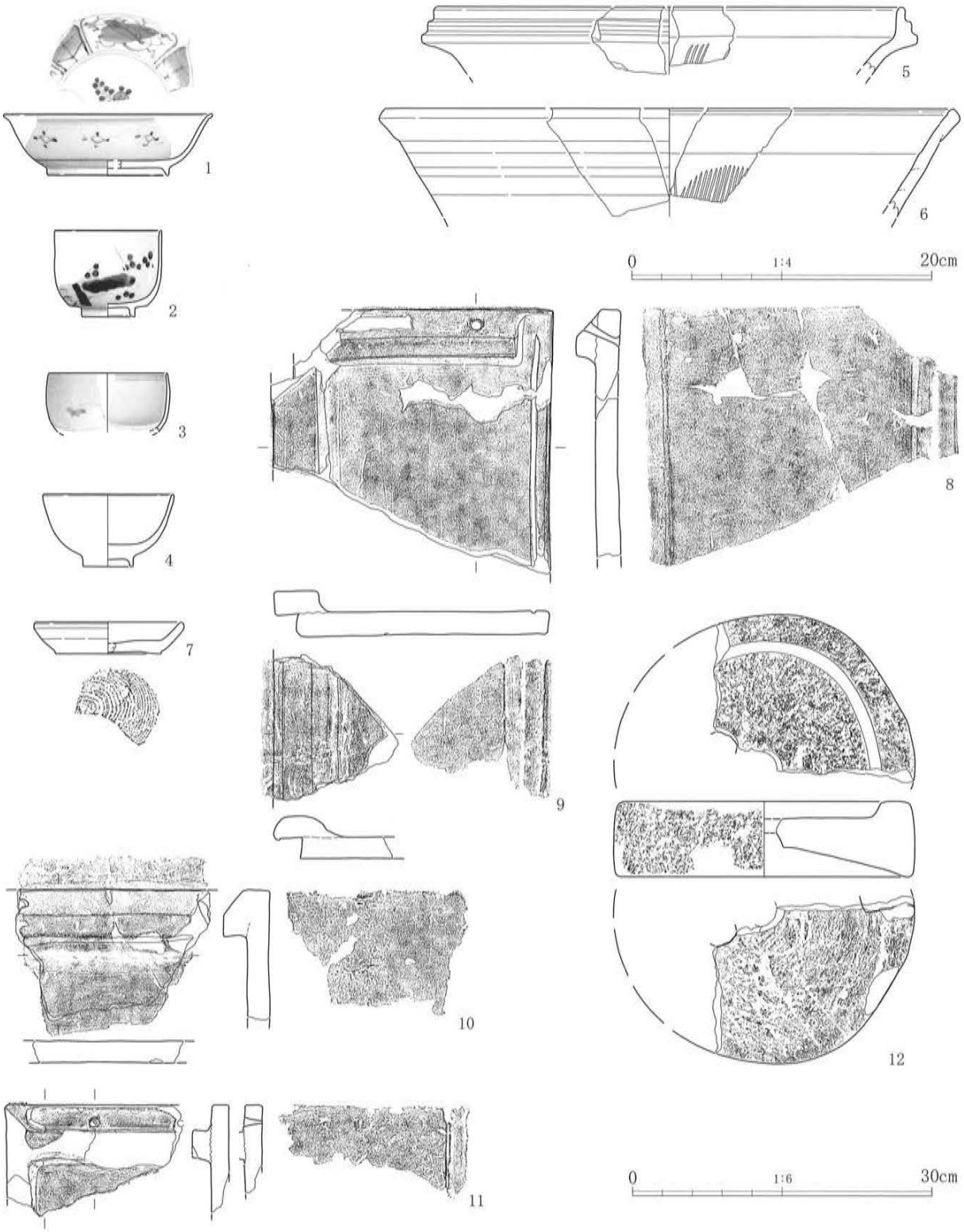
A～A'　B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物						(備考)
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	
1層	10YR4/1	褐灰色土	1>49	△	△	△	△	※	△	※	※	最近の盛土。
2層	10YR2/2	黒褐色土	2>23	△	△	※	※	※	△	※	※	
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	5<3<10<7	△	○	△	△	※	※	※	※	
4層	10YR4/2	灰黄褐色土	6>4>16	△	△	△	※	△	△	※	※	
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	5<3<10<7	△	△	△	※	△	※	※	※	
6層	10YR4/2	灰黄褐色土	6>4>16	△	△	△	※	△	△	※	※	
7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7>10>3>5	△	△	△	△	△	※	※	※	
8層	10YR3/4	暗褐色土	8>14>29>25>46	△	△	△	※	△	※	※	※	
9層	10YR4/6	褐色土	9>15	△	○	△	○	※	※	※	※	
10層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	7>10>3>5	△	△	△	※	※	※	※	※	
11層	10YR4/4	褐色土	13>11>38>27>30>48	△	△	△	△	※	※	※	※	
12層	10YR3/3	暗褐色土	12>47>26>28>18	△	△	△	△	△	※	※	※	
13層	10YR4/4	褐色土	13>11>38>27>30>48	△	○	△	○	△	※	※	※	
14層	10YR3/4	暗褐色土	8>14>29>25>46	△	△	△	△	※	※	※	※	
15層	10YR4/6	褐色土	15<9	△	○	△	○	△	※	※	※	
16層	10YR4/2	灰黄褐色土	16<4<6	○	△	△	※	※	※	※	※	
17層	10YR3/2	黒褐色土	17>24>19	△	△	※	※	※	△	※	※	
18層	10YR3/3	暗褐色土	18<28<26<47<12	△	○	※	※	△	※	※	※	
19層	10YR3/2	黒褐色土	19<24<17	△	△	※	※	※	△	※	※	
20層	10YR6/2	灰黄褐色土		△	※	×	×	×	◎	×	×	As-A一次堆積
21層	10YR2/3	黒褐色土	36>21>40	○	○	※	※	※	※	※	※	
22層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		○	△	△	※	※	×	※	※	
23層	10YR2/2	黒褐色土	23<2	○	○	※	※	△	×	※	※	
24層	10YR3/2	黒褐色土	17>24>19	△	△	※	※	※	△	※	※	
25層	10YR3/4	暗褐色土	8>14>29>25>46	△	△	△	※	※	※	※	※	
26層	10YR3/3	暗褐色土	12>47>26>28>18	△	△	※	※	※	※	※	※	
27層	10YR4/4	褐色土	13>11>38>27>30>48	○	△	△	※	※	×	※	※	
28層	10YR3/3	暗褐色土	12>47>26>28>18	○	△	※	※	※	×	※	※	
29層	10YR3/4	暗褐色土	8>14>29>25>46	○	△	※	※	※	×	※	※	
30層	10YR4/4	褐色土	13>11>38>27>30>48	○	○	△	※	※	×	※	※	
31層	10YR3/1	黒褐色土	31<34<33<35	◎	△	※	※	※	×	※	※	
32層	7.5YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	※	※	
33層	10YR3/1	黒褐色土	31<34<33<35	○	△	※	※	※	×	※	※	
34層	10YR3/1	黒褐色土	31<34<33<35	○	△	※	※	※	×	※	※	
35層	10YR3/1	黒褐色土	35>33>34>31	◎	△	※	※	※	×	※	※	
36層	10YR2/3	黒褐色土	36>21>40	○	△	△	※	※	×	※	※	
37層	7.5YR2/3	極暗褐色土		○	△	※	※	※	×	※	※	
38層	10YR4/4	褐色土	13>11>38>27>30>48	○	△	※	※	※	×	※	※	
39層	10YR2/1	黒色土	39>41	○	△	※	※	※	×	※	※	
40層	10YR2/3	黒褐色土	40<21<36	○	△	※	※	※	×	※	※	
41層	10YR2/1	黒色土	41<39	○	△	※	※	※	×	※	※	
42層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	42>44	○	○	○	◎	※	×	※	※	
43層	7.5YR3/3	暗褐色土		◎	△	※	※	※	×	※	※	
44層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	44<42	○	○	○	◎	※	×	※	※	
45層	7.5YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	※	×	※	※	
46層	10YR3/4	暗褐色土	46<25<29<14<8	○	○	※	※	※	×	※	※	
47層	10YR3/3	暗褐色土	12>47>26>28>18	△	○	※	※	※	×	※	※	
48層	10YR4/4	褐色土	48<30<27<38<11<13	△	○	※	※	※	×	※	※	
49層	10YR4/1	褐灰色土	49<1	△	○	※	※	※	×	※	※	

C～C

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物						(備考)
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	
1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		△	△	△	△	△	※	※	※	
2層	10YR3/2	黒褐色土	5>2>4	△	△	※	※	※	△	※	※	
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	3>15>19	△	○	○	※	※	※	※	※	
4層	10YR3/2	黒褐色土	4<2<5	△	△	※	※	※	△	※	※	
5層	10YR3/2	黒褐色土	5>2>4	○	△	※	※	△	※	※	※	
6層	10YR6/2	灰黄褐色土		△	※	×	×	×	◎	※	※	As-A一次堆積。
7層	10YR3/3	暗褐色土	7>28	△	△	※	※	※	×	※	※	
8層	10YR3/4	暗褐色土	26>8>12>29	△	○	※	※	※	×	※	※	
9層	10YR3/1	黒褐色土	9<22	◎	△	※	※	※	×	※	※	
10層	7.5YR4/3	褐色土		◎	△	△	※	△	×	※	※	
11層	7.5YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	※	※	
12層	10YR3/4	暗褐色土	26>8>12>29	○	△	※	※	△	×	※	※	
13層	10YR5/6	黄褐色土		○	○	○	○	△	×	※	※	
14層	7.5YR3/3	暗褐色土		○	△	※	※	※	×	※	※	
15層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	3>15>19	○	○	△	※	△	×	※	※	
16層	10YR2/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	※	※	
17層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	21>17>25	○	○	○	○	△	×	※	※	
18層	10YR4/2	灰黄褐色土	18<20	○	△	※	※	※	×	※	※	版築
19層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	19<15<3	○	△	△	※	△	×	※	※	
20層	10YR4/2	灰黄褐色土	20>18	○	△	※	※	※	×	※	※	
21層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	21>17>25	○	○	○	○	△	×	※	※	
22層	10YR3/1	黒褐色土	22>9	○	△	※	※	※	×	※	※	
23層	10YR6/6	明黄褐色土		○	○	△	※	△	×	※	※	
24層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		○	△	※	※	※	×	※	※	
25層	10YR6/4	にぶい黄橙色土	25<17<21	○	○	○	○	△	×	※	※	
26層	10YR3/4	暗褐色土	26>8>12>29	○	○	△	※	△	×	※	※	
27層	10YR4/6	褐色土		○	○	△	△	△	×	※	※	
28層	10YR3/3	暗褐色土	28<7	○	△	※	※	※	×	※	※	
29層	10YR3/4	暗褐色土	29<12<8<26	○	△	※	※	※	×	※	※	

第7図　2号トレンチ実測図（2）



第８図　１号トレンチ出土遺物

1号トレンチ

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	磁器 皿		口径(13.8) 底径 (8.0) 器高　4.1	①普通　②白色　④2/5	染付。端反皿。体部外面菱形文、腰部・底面に圏線。内面見込み部に二重圏線と草花文、体部区画文、吉祥文。肥前、17世紀後半か。
2	磁器 小碗	覆土下位	口径 (7.1) 底径　3.5 器高　5.7	①普通　②白色　④2/5	底部～高台部削り出し、高台端部はほぼ平坦に作る。体部外面山呉須による松竹梅文。 肥前。
3	磁器 小碗	底面直上	口径 (7.9) 底径　－ 器高　－	①普通　②白色　④口縁部～体部下位1/6	口縁部は内彎気味で体下部を丸く作る。体部外面花蝶文。口縁部内面二重圏線。 肥前18世紀後半。

第２表　１号トレンチ出土遺物観察表（１）

1号トレンチ

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
4	磁器 小丸碗		口径 (8.7) 底径 3.3 器高 4.8	①普通 ②白色 ④2/5	透明釉。体部下位～底部に厚みあり。 肥前18世紀。
5	陶器 擂鉢		口径(31.0) 底径 － 器高 －	①普通 ②灰黄色、釉-暗赤褐色 ③白色粒混入 ④口縁部破片	外面 轆轤成形。 内面 轆轤成形。 丹波。
6	陶器 擂鉢		口径(38.0) 底径 － 器高 －	①普通 ②鈍い黄橙色、釉-赤褐色 ③黒色粒混入 ④口縁部破片	外面 轆轤成形。 内面 轆轤成形。 瀬戸・美濃。
7	カワラケ		口径 (9.7) 底径 (7.1) 器高 2.1	①普通 ②鈍い橙色 ③褐色粒・角閃石混入 ④2/5	外面 轆轤成形、底部左回転糸切り。 内面 轆轤成形。
8	土製品 塼瓦	底面直上	幅 27.6 厚さ 2.35	①普通 ②黄灰色 ③白色粒・黒色粒混入 ④2/3	角桟付き塼瓦。瓦尻部の水返しは台形、釘穴2箇所残存。 重さ2,440ｇ。
9	土製品 塼瓦		厚さ 2.15	①普通 ②灰色 ③白色粒・黒色粒混入 ④破片	丸桟付き塼瓦。重さ453.4ｇ。
10	土製品 塼瓦		厚さ 2.2	①普通 ②灰黄色 ③白色粒・黒色粒混入 ④2/3	瓦尻部の水返しは台形、釘穴2箇所残存。重さ1,012ｇ。
11	土製品 塼瓦		厚さ 1.8	①普通 ②灰色 ③白色粒混入 ④破片	桟部分は剥落。瓦尻部の水返しは方形、釘穴2箇所残存。 重さ437.9ｇ。
12	石製品 石臼		直径(30.1) 厚さ 7.5	上臼1/4。軸受け穴、もの入れ穴、引き手穴一部残存。重さ2,195ｇ。	

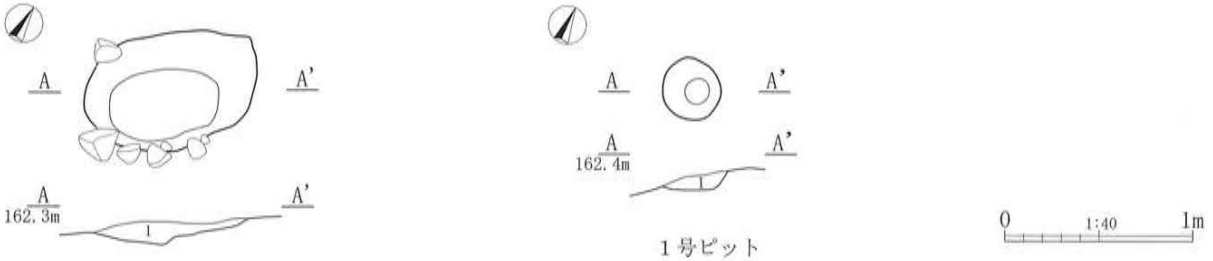
第３表　１号トレンチ出土遺物観察表（２）

第９図　２号トレンチ出土遺物

2号トレンチ

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	陶器 丸碗		口径(11.5) 底径 4.7 器高 7.2	①普通 ②白色 ④1/2	灰釉。高台端部を除いて全面施釉。 17世紀代か。
2	磁器 小碗		口径 (9.7) 底径 － 器高 －	①普通 ②白色 ④口縁部～体部下位1/4	染付。口縁部がやや広がる小碗。体部外面に松竹梅を主体とする草花文。 肥前18世紀。

第４表　２号トレンチ出土遺物観察表



１号土坑　　１号ピット

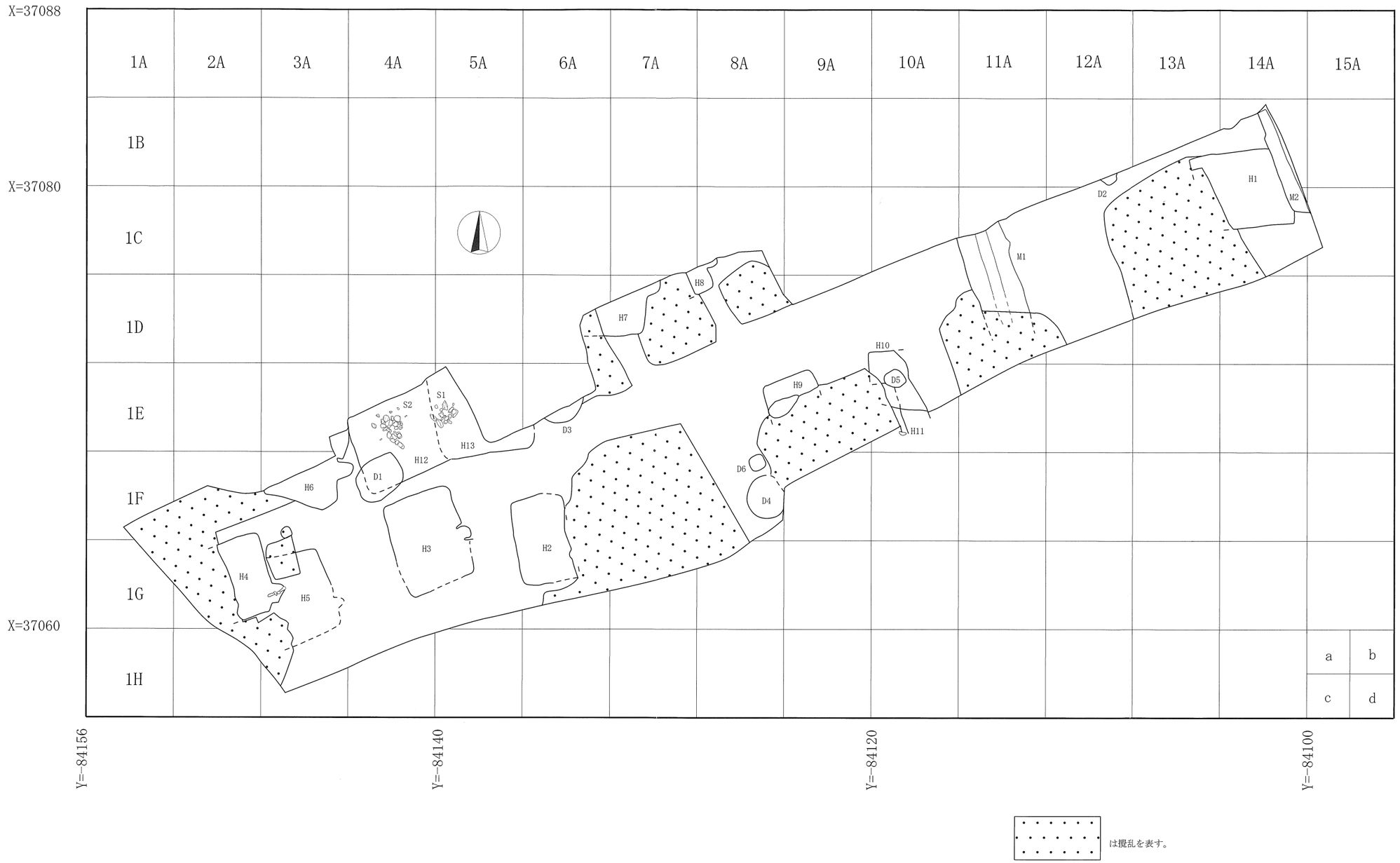
1号土坑

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR2/3	黒褐色土		○	△	△	△	※	×	×	※	※	※

1号ピット

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR2/2	黒褐色土		○	△	※	△	※	×	×	※	※	※

第10図　１号土坑・１号ピット実測図



第11図　安中城Ⅱ全体図・グリッド設定図

0　1:200　10m

（安中城Ⅱ）

第１節　概要

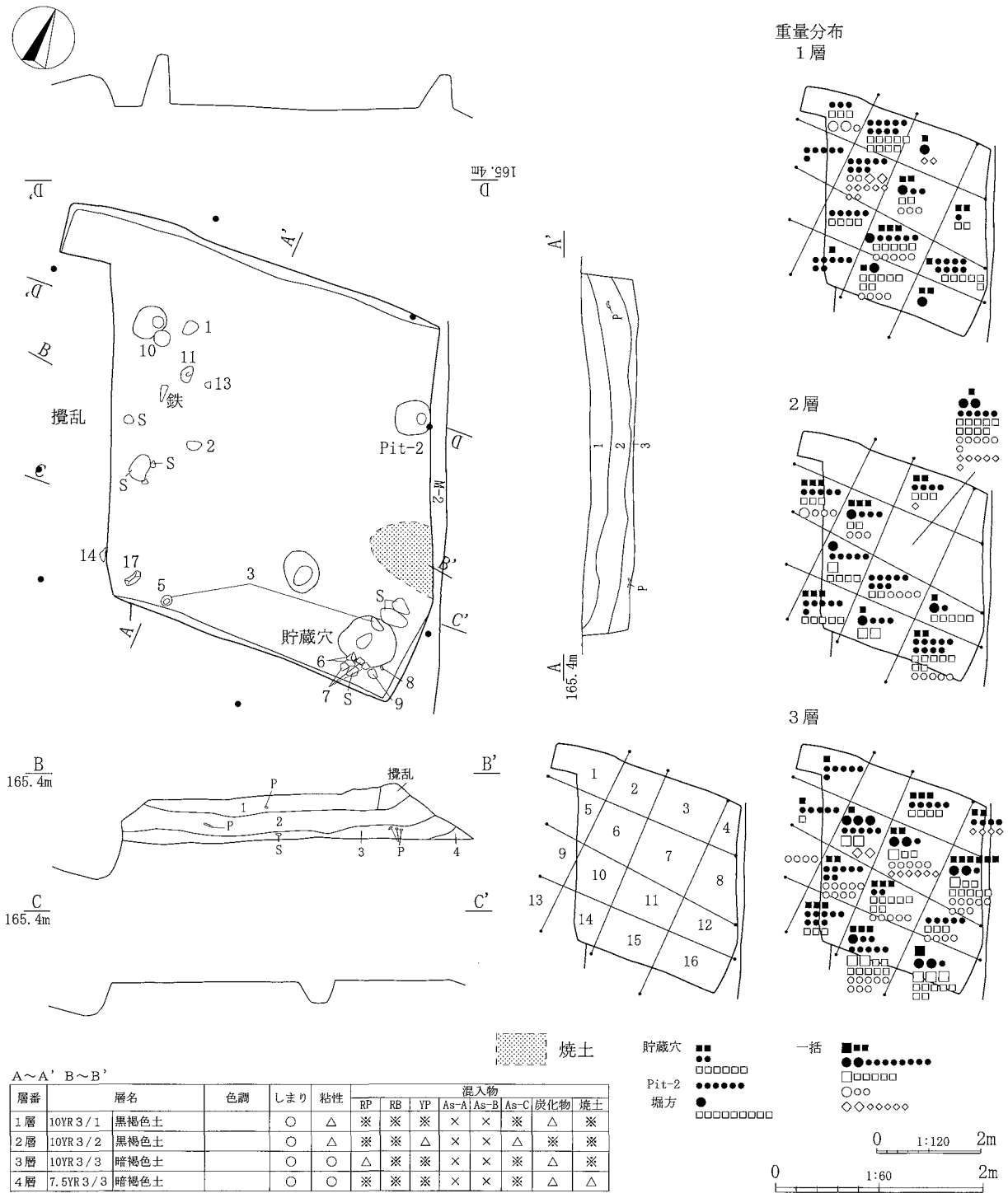
縄文時代では、前期～中期にかけての土器片・石器が少量出土したが、遺構の検出には至っていない。

古代では、奈良時代を中心とする住居址13軒が検出された。しかし、旧校舎の基礎部分及びその周辺は、遺構が破壊されている場合が多く、遺存状況は全体的に不良である。

中世～近世では、安中城に関連すると考えられる堀・土坑等が検出された。

以下、遺構が検出された古代・中世～近世について詳述する。なお、縄文時代の遺物については、代表的なものを「遺構外出土遺物」とし報告する。

第２節　古代



層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/1	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	△	※
2層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	×	△	※	※
3層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	△	※
4層	7.5YR3/3	暗褐色土		○	○	※	※	※	×	×	※	△	△

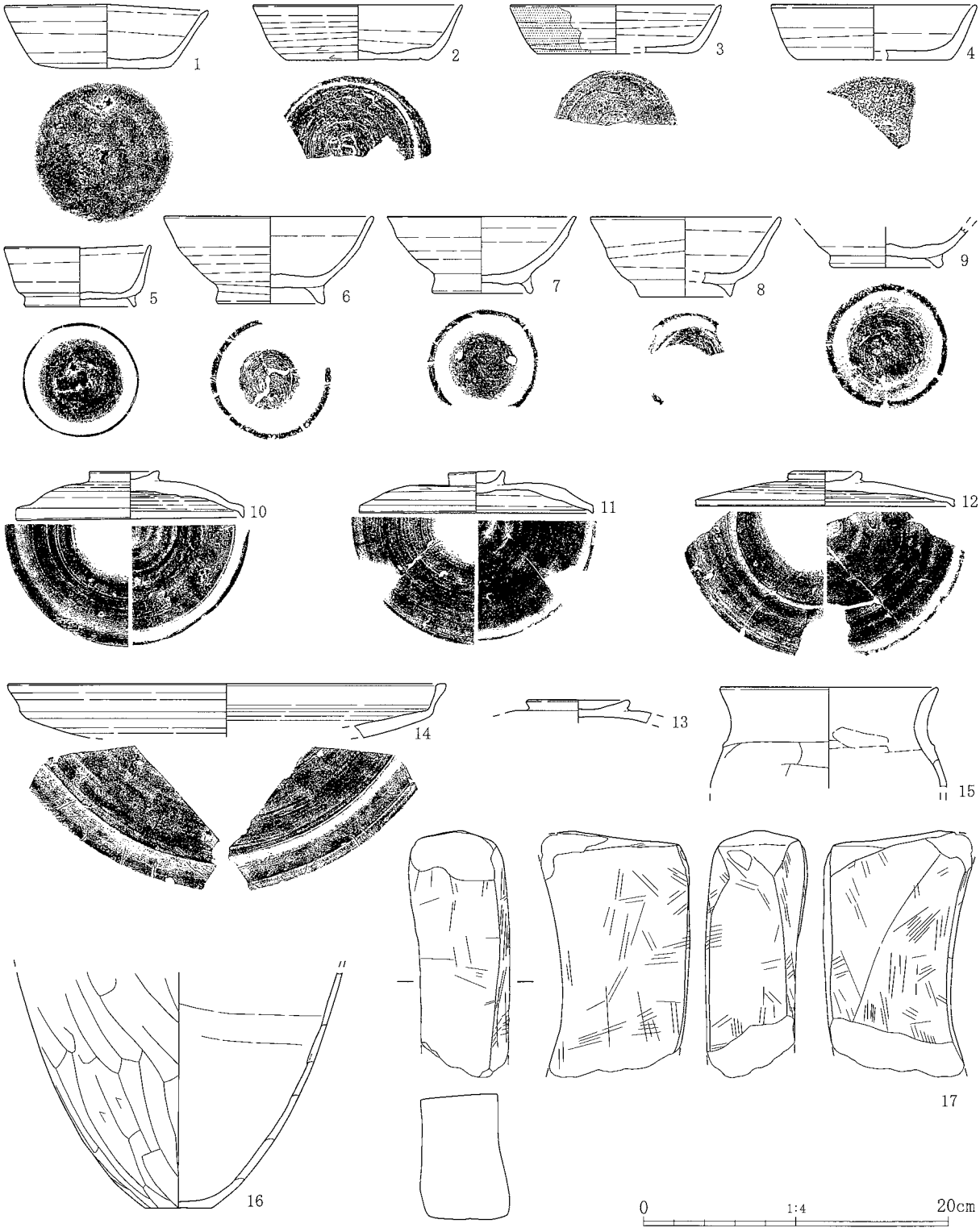
第12図　Ｈ１号住居址実測図

（1）竪穴住居址

①Ｈ１号住居址（第12・13図、第５表、PL. ２）

位置　調査区東端、14Ａグリッド他に位置する。東側の一部を２号溝に、西側の一部を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　長方形と考えられる。東西4.60m（推定）×南北3.60m×深さ0.55m。

カマド　東部に焼土が集中する部分がある。南東コーナー付近には貯蔵穴と考えられる土坑も確認されており、東壁やや南寄りに付設されていた可能性が高い。　**遺物**　須恵器碗・蓋等が、西半及び土坑付近を中心に出土している。　**時期**　８世紀後半と考えられる。



第13図　Ｈ１号住居址出土遺物

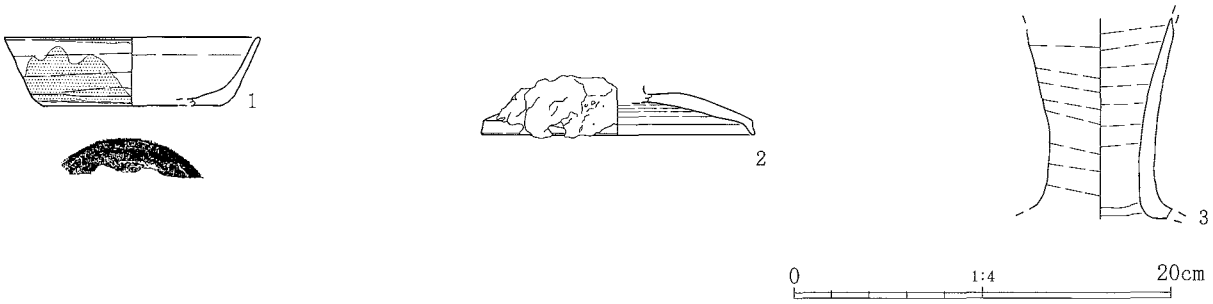
H-1号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏		口径 13.3 底径　8.8 器高　4.2	①普通／還元　②灰黄褐色　③砂粒、黒色粒、石英微量混入　④4/5	外面　轆轤成形、底部回転篦起こし後、篦撫で？。 内面　轆轤成形。
2	須恵器 坏		口径(14.6) 底径 (9.3) 器高　3.6	①やや不良／還元　②灰白色　③砂粒、石英微量混入　④1/3	外面　轆轤成形、体部下位回転篦削り。底部回転篦起こし。 内面　轆轤成形。
3	須恵器 坏		口径(13.8) 底径(10.2) 器高　3.2	①普通／還元　②褐灰色　③砂粒、黒色粒、石英若干混入　④2/5	外面　轆轤成形、体部下位～底部回転篦削り。一部に自然釉付着。 内面　轆轤成形。
4	須恵器 坏	2区1層	口径(13.4) 底径　3.6 器高(10.0)	①普通／還元　②褐灰色　③砂粒混入　④1/5	外面　轆轤成形、体部下位～底部摩滅のため不明瞭。 内面　轆轤成形。
5	須恵器 碗		口径　9.6 底径　7.2 器高　4.0	①良好／還元　②褐灰色　③砂粒、石英微量混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、底部篦起こし？後篦撫で。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。
6	須恵器 碗	15区3層	口径 13.7 底径　7.2 器高　5.7	①やや不良／還元　②灰白色　③砂粒、石英・雲母微量混入　④2/3	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。 流れ込みか。
7	須恵器 碗		口径(12.4) 底径 (6.5) 器高　5.0	①やや不良／弱還元　②にぶい黄橙色　③砂粒・白色粒混入　④1/3	外面　轆轤成形、底部撫で（切り離し法不明）。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。 流れ込みか。
8	須恵器 碗		口径(12.4) 底径 (6.0) 器高　5.2	①やや不良／酸化　②淡橙色　③砂粒・礫混入　④1/4	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。 流れ込みか。
9	須恵器 碗		口径　― 底径　6.9 器高 <3.2>	①やや不良／還元　②灰白色　③砂粒、礫、石英・雲母微量混入　④体部下位～底部 1/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。 流れ込みか。
10	須恵器 蓋		口径(15.0) 摘み径 4.6 器高　3.2	①良好／還元　②暗灰色　③砂粒混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、甲部篦削り。摘み貼り付け。 内面　轆轤成形。
11	須恵器 蓋		口径 15.4 摘み径 3.6 器高　2.8	①普通／還元　②灰色　③砂粒、雲母微量混入　④2/3	外面　轆轤成形、甲部上半篦削り。摘み貼り付け。 内面　轆轤成形。
12	須恵器 蓋	8区3層 一括	口径 17.0 摘み径 4.8 器高　2.3	①普通／還元　②灰白色　③砂粒、石英微量混入　④1/4	外面　轆轤成形、甲部上半篦削り。摘み貼り付け。 内面　轆轤成形。
13	須恵器 蓋		口径　― 摘み径(6.8) 器高 <1.2>	①良好／還元　②灰色　③砂粒・黒色粒混入　④摘み部破片	外面　轆轤成形。摘み貼り付け。 内面　轆轤成形。
14	須恵器 盤		口径(28.6) 底径　― 器高 <3.5>	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④口辺部破片	外面　轆轤成形。 内面　轆轤成形、口辺部に１条の沈線。 内外面に指頭圧痕有り。
15	土師器 甕	堀方一括	口径(14.2) 底径　― 器高 <6.6>	①普通　②にぶい赤褐色　③砂粒、白色粒・雲母微量混入　④口縁部～胴部上位破片	外面　口辺部横撫で、胴部篦削り。 内面　口辺部横撫で、胴部篦撫で。
16	土師器 甕	6区2層 6区3層 7区3層	口径　― 底径　4.4 器高<15.4>	①普通　②にぶい橙色　③砂粒混入　④胴部中位～底部 1/8	外面　篦削り。 内面　篦撫で。
17	砥石		長さ16.2　幅6.7　厚さ8.25　重さ1,348g		

第５表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表

②Ｈ２号住居址（第14・15図、第６表、PL. ２）

位置　調査区西寄り、６Ｆグリッド他に位置する。東側の一部を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　南北に長い長方形と考えられる。東西2.60m（推定）×南北4.15m×深さ0.1m。　**カマド**　東壁に付設されていた可能性が高いが、詳細は不明。　**遺物**　須恵器長頸壺・蓋等が出土している。　**時期**　８世紀と考えられる。

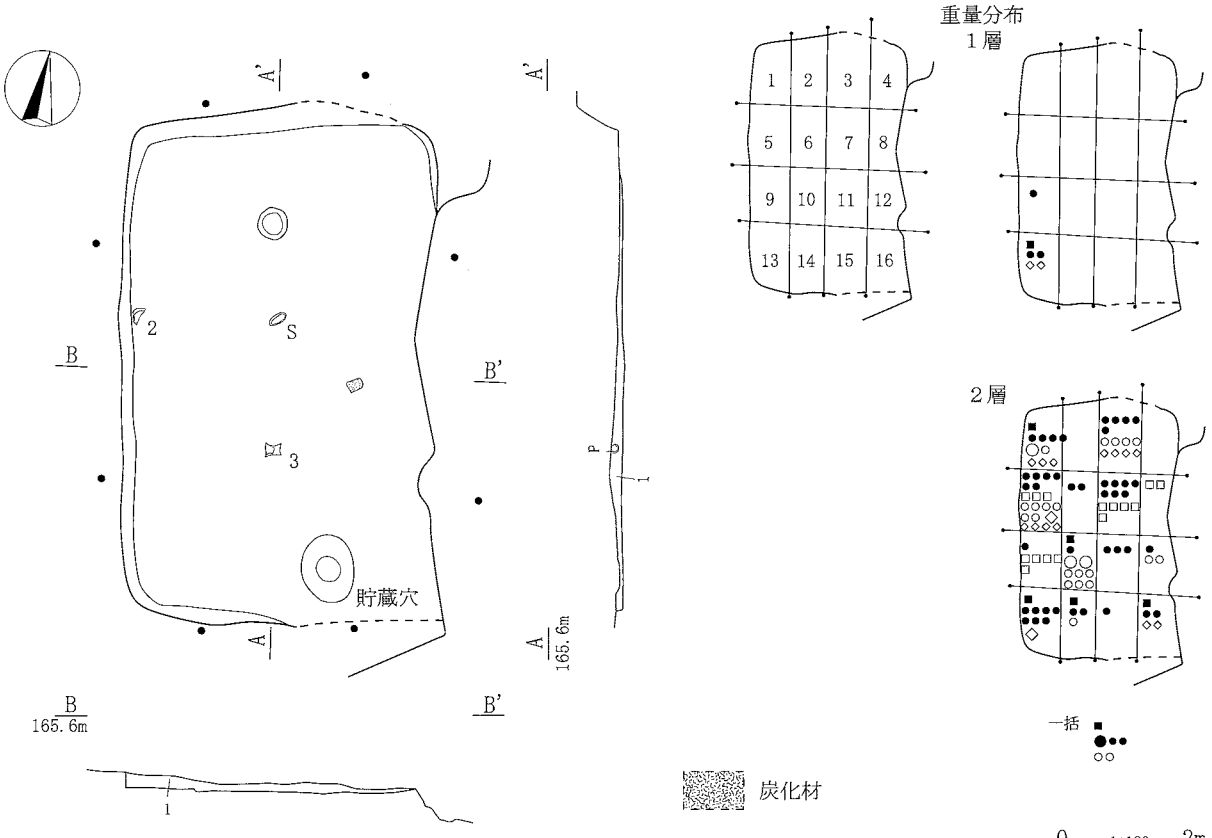


第14図　Ｈ２号住居址出土遺物

H-2号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	9区2層	口径(13.4) 底径 (9.6) 器高　4.1	①良好／還元　②灰色　③砂粒、黒色粒・白色粒若干混入 ④1/5	外面　轆轤成形、体部下位～底部篦削り。一部に自然釉付着。 内面　轆轤成形。
2	須恵器 蓋		口径(14.4) 摘み径　－ 器高　－	①還元　②灰色　③白色粒、黒色粒混入　④甲部～口縁部 1/3	外面　轆轤成形、甲部回転篦削り。溶滓付着。 内面　轆轤成形。
3	須恵器 壺		口径　－ 底径　－ 器高〈10.6〉	①普通／還元　②灰白色　③砂粒・黒色粒混入　④頸部破片	外面　轆轤成形。 内面　轆轤成形。

第６表　Ｈ２号住居址出土遺物観察表



A～A'　B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	△	※	×	×	※	△	※	

第15図　Ｈ２号住居址実測図

③Ｈ３号住居址（第16・17・18図、第７表、PL.　2）

位置　調査区西寄り、４Ｆグリッド他に位置する。　**形状・特徴**　南北に長い長方形。東西3.45m×南北4.45m×深さ0.15m。　**カマド**　東壁中央付近に付設されている。　**遺物**　須恵器坏等が、北半を中心に出土している。　**時期**　８世紀半ばと考えられる。

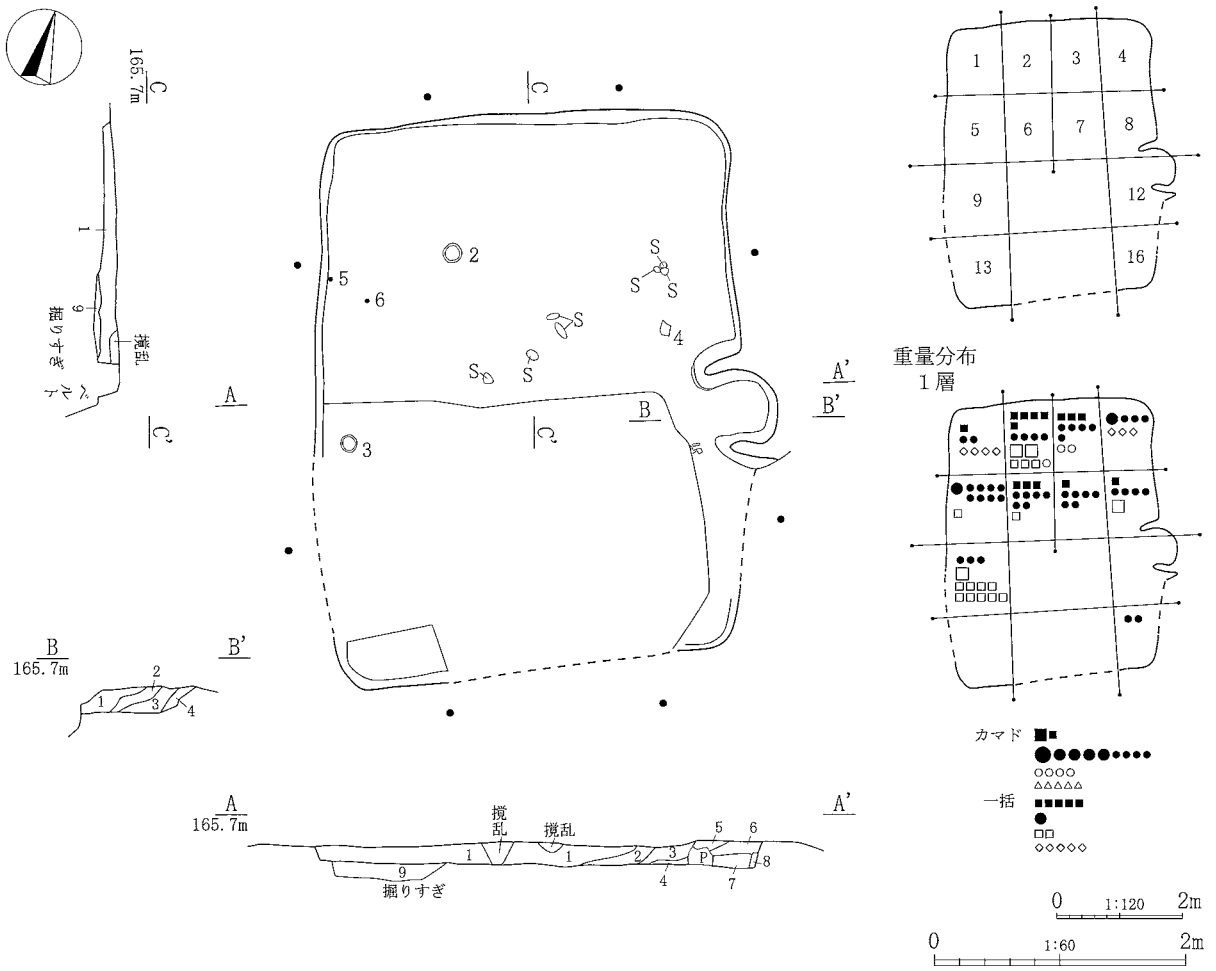
A～A'　C～C'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/2	黒褐色土	1＞9	○	○	※	※	△	×	×	※	△	※	
2層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	※	
3層	10YR4/2	灰黄褐色土		○	○	△	○	※	×	×	※	△	※	
4層	7.5YR3/2	黒褐色土		△	○	※	※	※	×	×	※	※	△	
5層	7.5YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	△	
6層	7.5YR4/3	褐色土		○	○	△	△	※	×	×	※	※	△	
7層	5YR3/3	暗赤褐色土		△	○	○	△	△	×	×	※	△	○	
8層	7.5YR3/1	黒褐色土		○	○	※	△	※	×	×	※	※	※	
9層	10YR3/1	黒褐色土	9＜1	○	○	※	※	△	×	×	※	※	※	掘りすぎ、本層上面が床

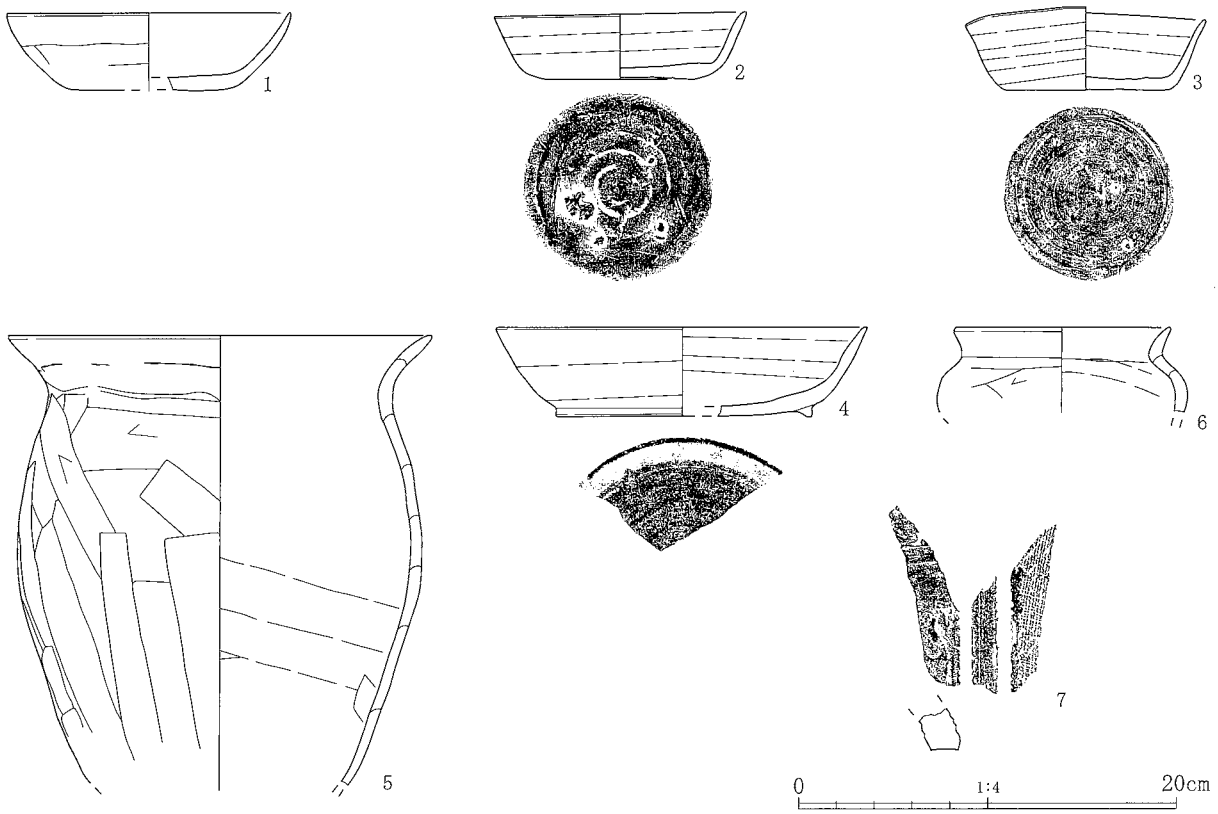
B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR4/2	灰黄褐色土		○	○	△	△	△	×	×	※	※	※
2層	10YR5/4	にぶい褐色土		○	○	△	○	※	×	×	※	△	△
3層	5YR4/3	にぶい赤褐色土		△	○	○	※	※	×	×	※	△	○
4層	5YR3/2	暗赤褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	△

第16図　Ｈ３号住居址実測図（１）



第17図　Ｈ３号住居址実測図（２）



第18図　Ｈ３号住居址出土遺物

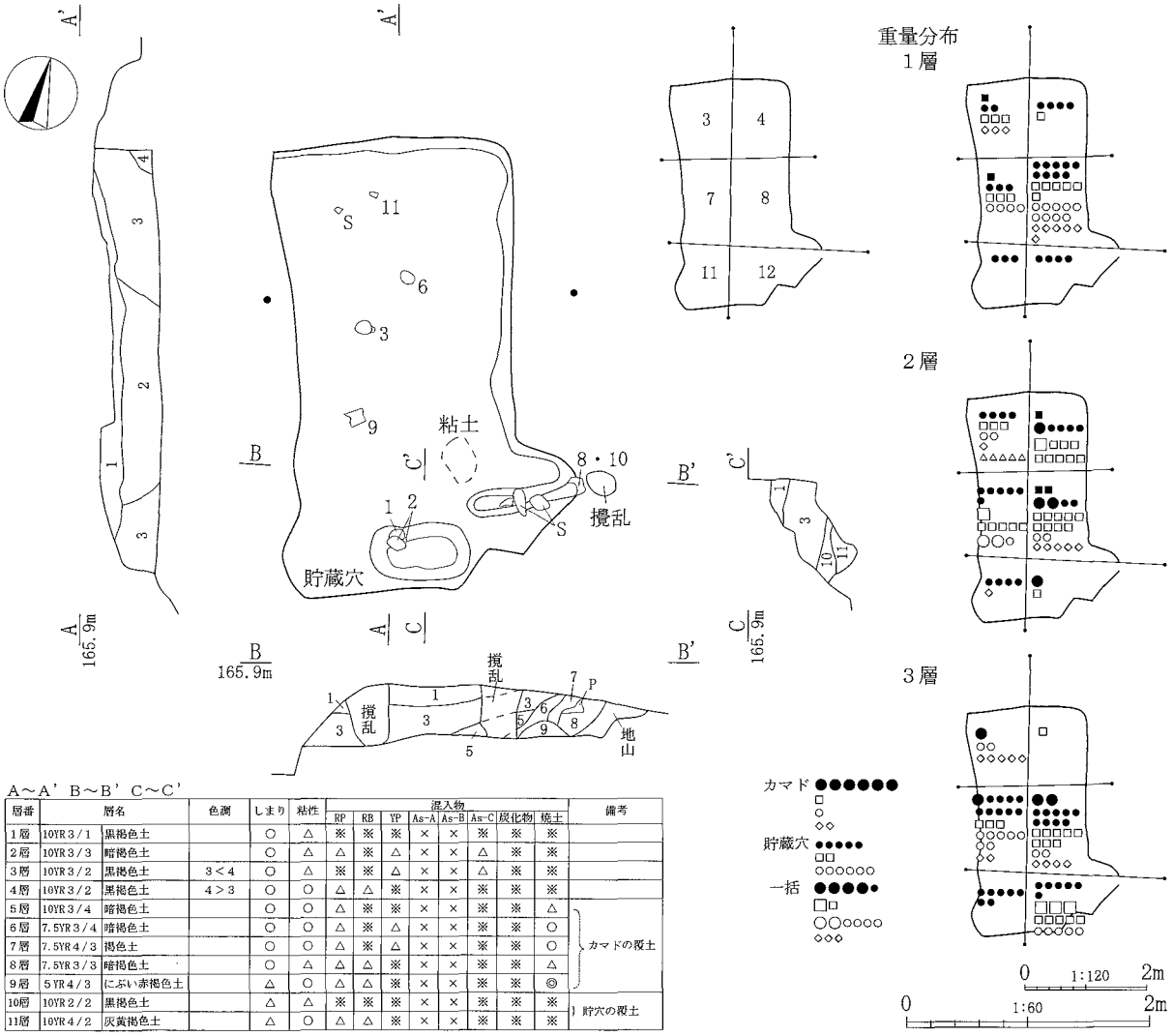
H-3号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	竈袖	口径 15.0 底径 － 器高 4.1	①普通 ②橙色 ③砂粒、白色粒・雲母混入 ④1/3	外面 口辺部横撫で、体部～底部篦削り。 内面 篦撫で？（不明瞭）。
2	須恵器 坏		口径 13.4 底径 8.0 器高 3.6	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、白色粒微量混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、体部下位～底部篦削り後一部篦撫で。 内面 轆轤成形。
3	須恵器 坏		口径 12.8 底径 8.7 器高 4.4	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、体部下位～底部篦削り。 内面 轆轤成形。 内外面とも一部に自然釉付着。全体に歪み有り。
4	須恵器 碗		口径(19.6) 底径(13.6) 器高 4.7	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、白色粒微量混入 ④1/5	外面 轆轤成形、底部回転篦削り。高台貼り付け。 内面 轆轤成形。
5	土師器 甕	竈袖	口径 22.4 底径 － 器高<24.1>	①普通 ②橙色 ③砂粒、白色礫微量混入 ④口縁部～胴部下位 3/4	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
6	土師器 甕		口径(11.4) 底径 － 器高 <4.5>	①普通 ②にぶい褐色 ③砂粒・雲母微量混入 ④口縁部～胴部上位破片	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
7	瓦 丸瓦	竈	長さ<11.3> 幅 <3.8> 厚さ 1.4	①良好／弱還元 ②灰白色 ③黒色粒混入 ④破片	上面 篦撫で。 下面 布目。 重さ 41.6g。

第７表　Ｈ３号住居址出土遺物観察表

④Ｈ４号住居址（第19・20図、第８表、PL. ２）

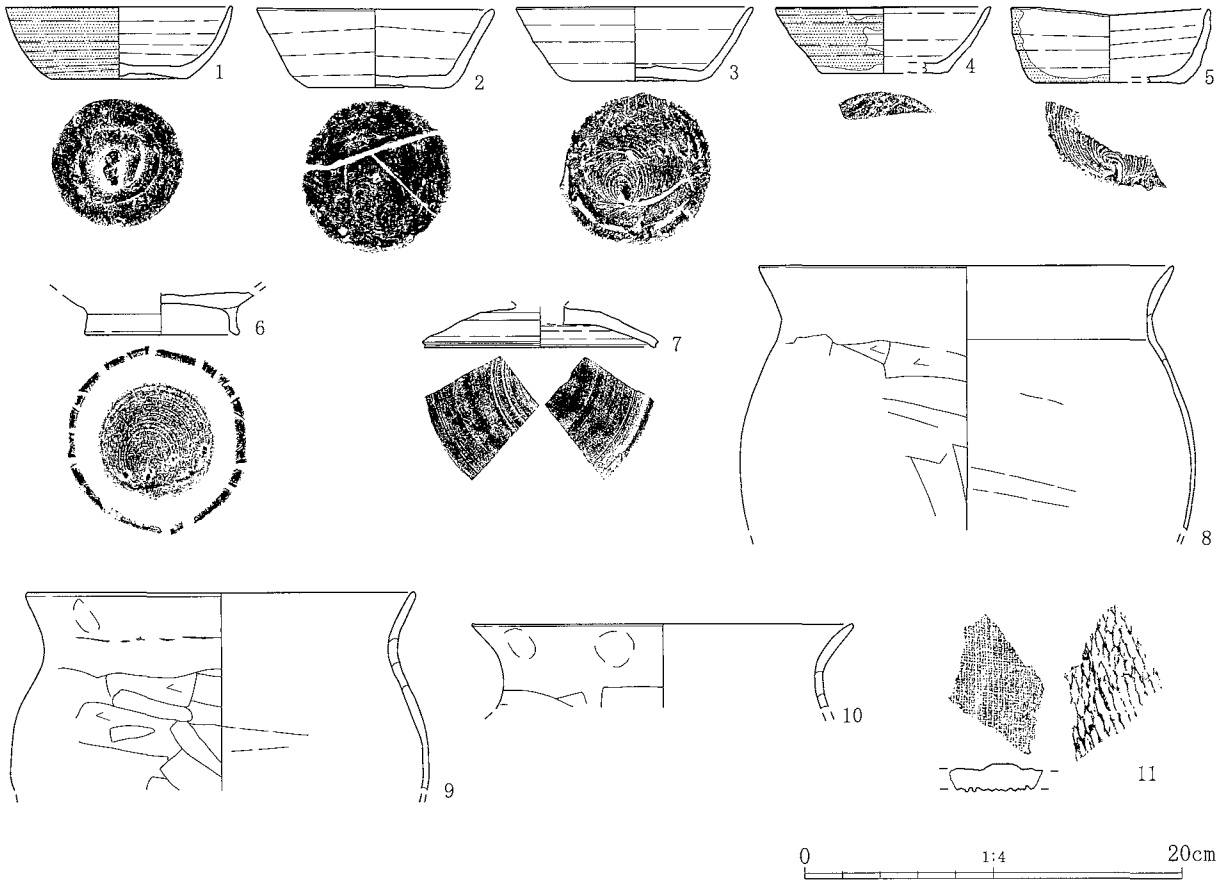
位置　調査区西端、２Ｇグリッド他に位置する。南東部分がＨ５住と重複する（本住居址が新しい）。西側の一部を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。東西不明×南北3.80m（推定）×深さ0.5m。　**カマド**　東壁南寄りに付設されている。　**遺物**　須恵器坏・砥石・布目瓦等、比較的多くの遺物が遺存部全体より出土している。　**時期**　８世紀後半から９世紀初頭と考えられる。



A～A' B～B' C～C'

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/1 黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	※	※	
2層	10YR3/3 暗褐色土		○	△	△	※	△	×	×	△	※	※	
3層	10YR3/2 黒褐色土	3＜4	○	△	※	※	△	×	×	△	※	※	
4層	10YR3/2 黒褐色土	4＞3	○	○	△	△	※	×	×	※	※	※	
5層	10YR3/4 暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	△	カマドの覆土
6層	7.5YR3/4 暗褐色土		○	○	△	※	△	×	×	※	※	○	
7層	7.5YR4/3 褐色土		○	○	△	※	△	×	×	※	※	○	
8層	7.5YR3/3 暗褐色土		○	△	△	△	※	×	×	※	※	△	
9層	5YR4/3 にぶい赤褐色土		△	○	△	△	※	×	×	※	※	◎	
10層	10YR2/2 黒褐色土		△	△	※	※	※	×	×	※	※	※	貯穴の覆土
11層	10YR4/2 灰黄褐色土		△	○	△	△	※	×	×	※	※	※	

第19図　Ｈ４号住居址実測図



第20図　Ｈ４号住居址出土遺物

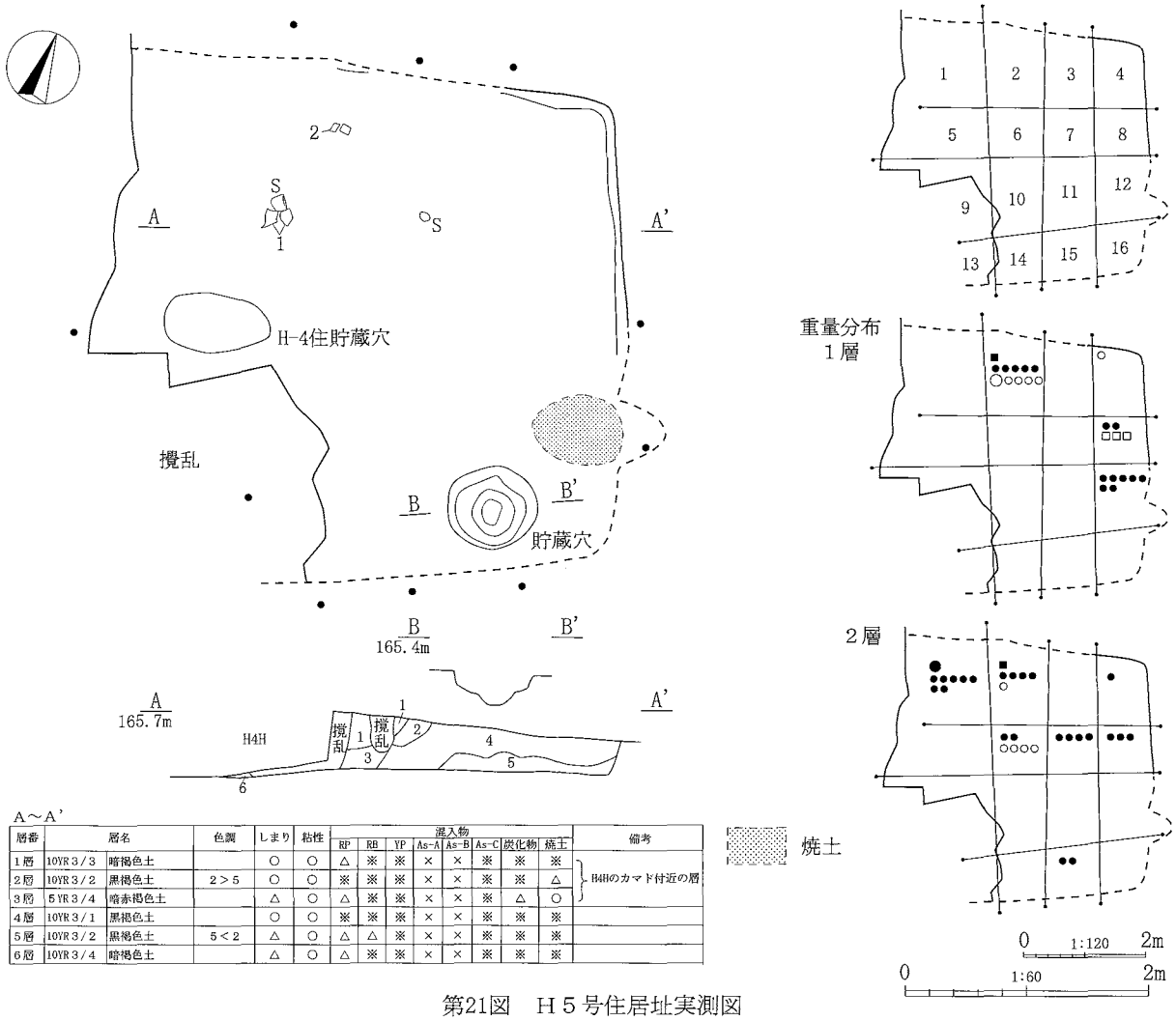
H-4号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏		口径 12.0 底径　7.2 器高　3.8	①良好／還元　②灰色　③砂粒、白色粒若干混入　④完形	外面　轆轤成形、底部篦起こし。 内面　轆轤成形。 やや歪み有り。
2	須恵器 坏	12区2層	口径 12.6 底径　7.6 器高　4.2	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、底部回転糸切り後篦撫で？（不明瞭）。 内面　轆轤成形。
3	須恵器 坏		口径(12.5) 底径　6.8 器高　3.9	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④2/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。 内面　轆轤成形。
4	須恵器 坏	8区2層	口径(11.8) 底径 (6.7) 器高　3.5	①良好／還元　②灰色　③砂粒混入　④1/8	外面　轆轤成形、底部篦削り？。 内面　轆轤成形。
5	須恵器 坏	8区1層	口径(10.4) 底径 (7.9) 器高　4.0	①普通／還元　②灰色　③砂粒混入　④1/5	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。 内面　轆轤成形。
6	須恵器 碗		口径　－ 底径　8.2 器高 〈2.2〉	①良好／還元　②灰色　③砂粒、白色粒若干混入　④底部1/8	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。
7	須恵器 蓋	8区2層	口径(12.4) 摘み径　－ 器高 〈2.1〉	①普通／還元　②灰色　③砂粒混入　④甲部破片	外面　轆轤成形、甲部上半回転篦削り。 内面　轆轤成形。
8	土師器 甕		口径(22.0) 底径　－ 器高〈13.9〉	①普通　②橙色　③砂粒、白色粒若干、雲母微量混入　④口縁部～胴部中位 1/10	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
9	土師器 甕		口径(20.6) 底径　－ 器高〈10.4〉	①普通　②橙色　③砂粒、雲母若干混入　④口縁部～胴部中位 1/10	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。口辺部に指頭圧痕有り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
10	土師器 甕	竈	口径(20.2) 底径　－ 器高 〈4.4〉	①普通　②にぶい橙色　③砂粒、雲母微量混入　④口縁部～胴部破片	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
11	瓦 平瓦		長さ 〈7.4〉 幅　〈5.2〉 厚さ　1.3	①良好／還元　②灰色　③白色粒混入　④破片	上面　布目。 下面　縄目叩き。 重さ　49.3ｇ。

第８表　Ｈ４号住居址出土遺物観察表

⑤Ｈ５号住居址（第21・22図、第９表、PL. ３）

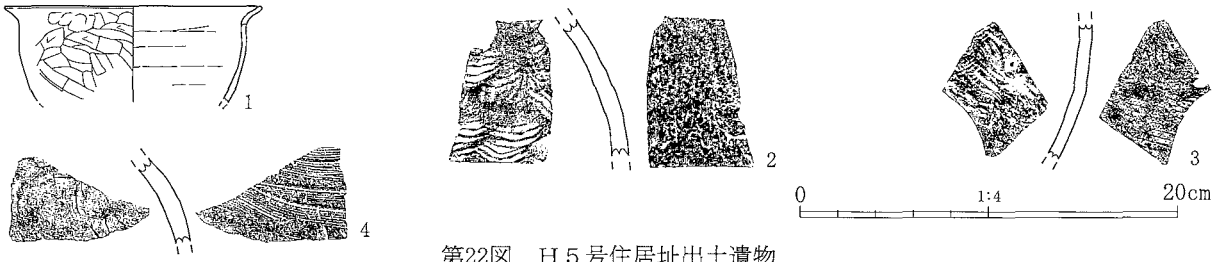
位置　調査区西端、３Ｇグリッド他に位置する。西側を後出するＨ４住に、南北を攪乱に壊されており、遺存状況は不良である。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。東西不明×南北4.00m（推定）×深さ0.45m。床面は著しく硬化している。　**カマド**　東部に焼土が集中する部分があり、南東コーナー付近には貯蔵穴と考えられる土坑も確認されているため、東壁やや南寄りに付設されていた可能性が高い。　**遺物**　遺存状況が不良であり、遺物出土量は少ない。　**時期**　８世紀と考えられる。



A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	※	
2層	10YR3/2	黒褐色土	2＞5	○	○	※	※	※	×	×	※	※	△	H4Hのカマド付近の層
3層	5YR3/4	暗赤褐色土		△	○	△	※	※	×	×	※	△	○	
4層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	※	×	×	※	※	※	
5層	10YR3/2	黒褐色土	5＜2	△	○	△	△	※	×	×	※	※	※	
6層	10YR3/4	暗褐色土		△	○	△	※	※	×	×	※	※	※	

第21図　Ｈ５号住居址実測図



第22図　Ｈ５号住居址出土遺物

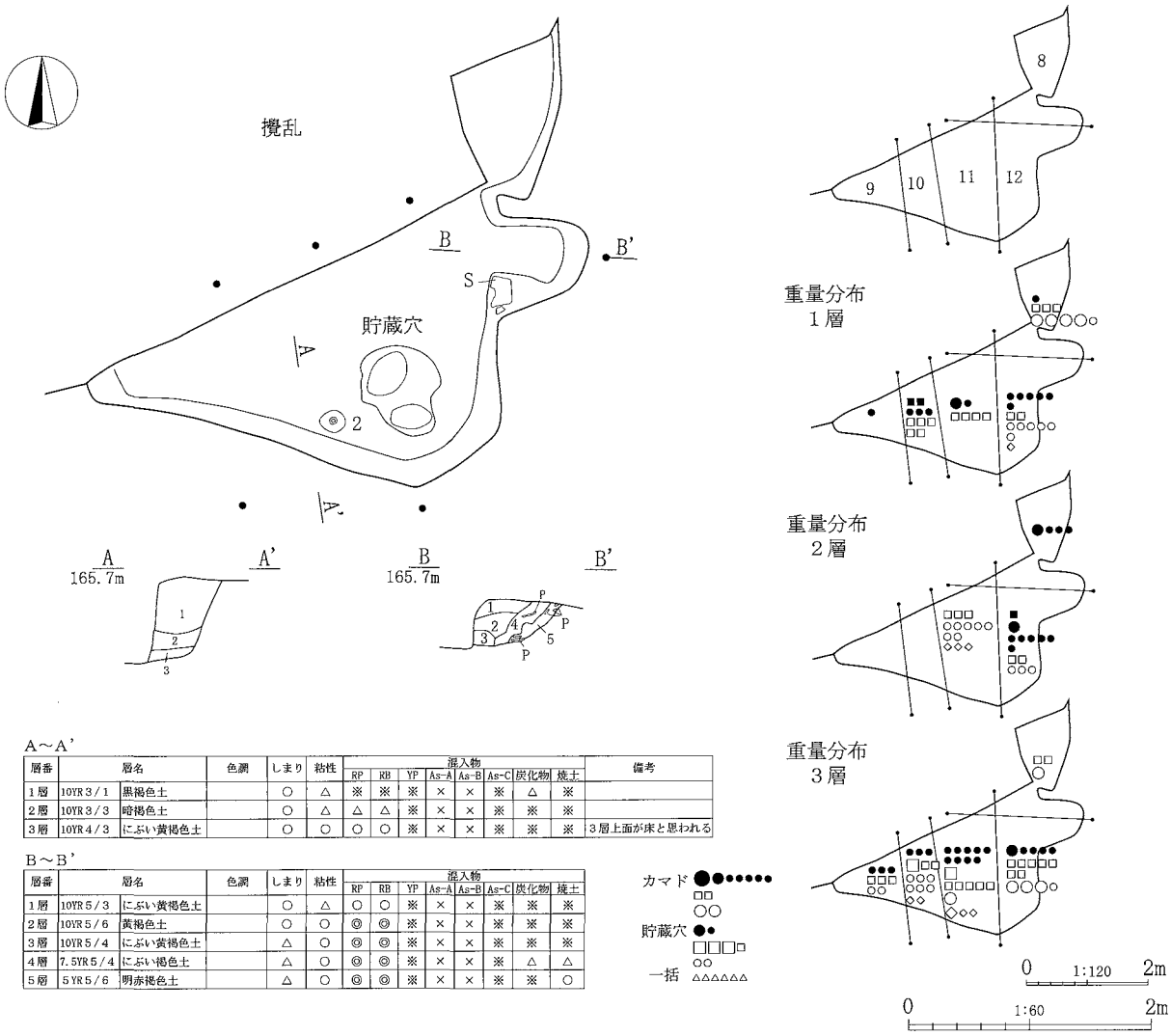
H-5号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 鉢		口径(27.2) 底径 － 器高<10.1>	①普通 ②橙色 ③砂粒、雲母・片岩若干混入 ④口縁部～体部中位 1/8	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 口辺部横撫で、体部篦撫で。
2	須恵器 甕		口径 － 底径 － 器高 －	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、黒色粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き？自然釉付着。 内面 青海波文。
3	須恵器 甕	4区1層	口径 － 底径 － 器高 －	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 平行叩き。
4	須恵器 甕	2区1層	口径 － 底径 － 器高 －	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、黒色粒微量混入 ④胴部破片	外面 掻き目。 内面 撫で？。

第９表　Ｈ５号住居址出土遺物観察表

⑥Ｈ６号住居址（第23・24・25図、第10表、PL. ３）

位置　調査区西寄り、３Ｆグリッド他に位置する。旧校舎のコンクリート基礎により、北西部分が大きく壊されている。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。規模は不明。深さ0.7m。　**カマド**　東壁に付設されている。　**遺物**　遺存状況が不良であり、遺物出土量は少ない。カマド及び南東コーナー付近より須恵器皿・甕、土師器甕等が出土している。　**時期**　８世紀末から９世紀前半と考えられる。



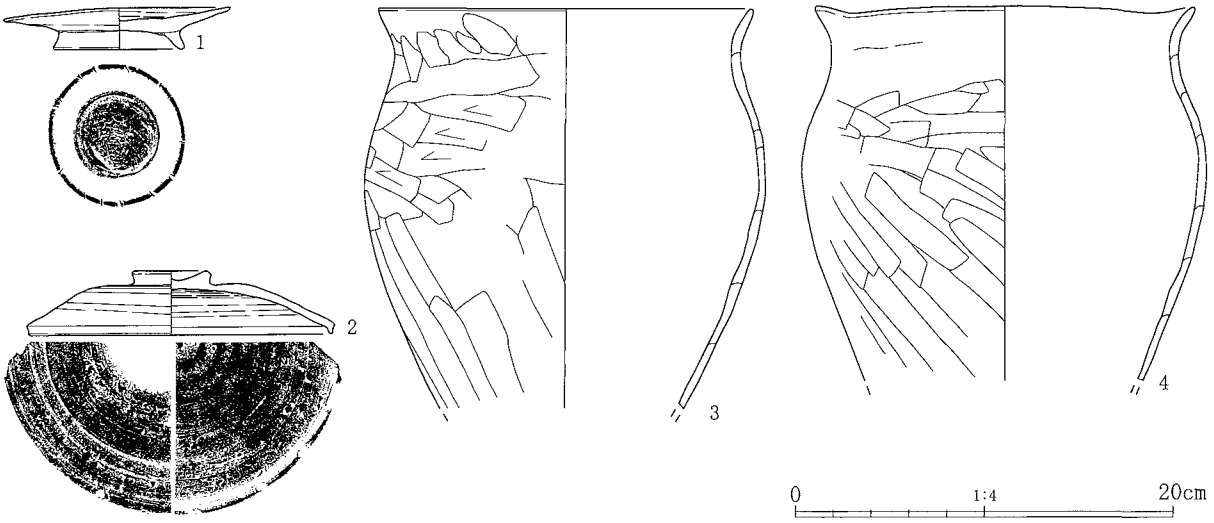
A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/1	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	△	※	
2層	10YR3/3	暗褐色土		○	△	△	△	※	×	×	※	※	※	
3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		○	○	○	○	※	×	×	※	※	※	3層上面が床と思われる

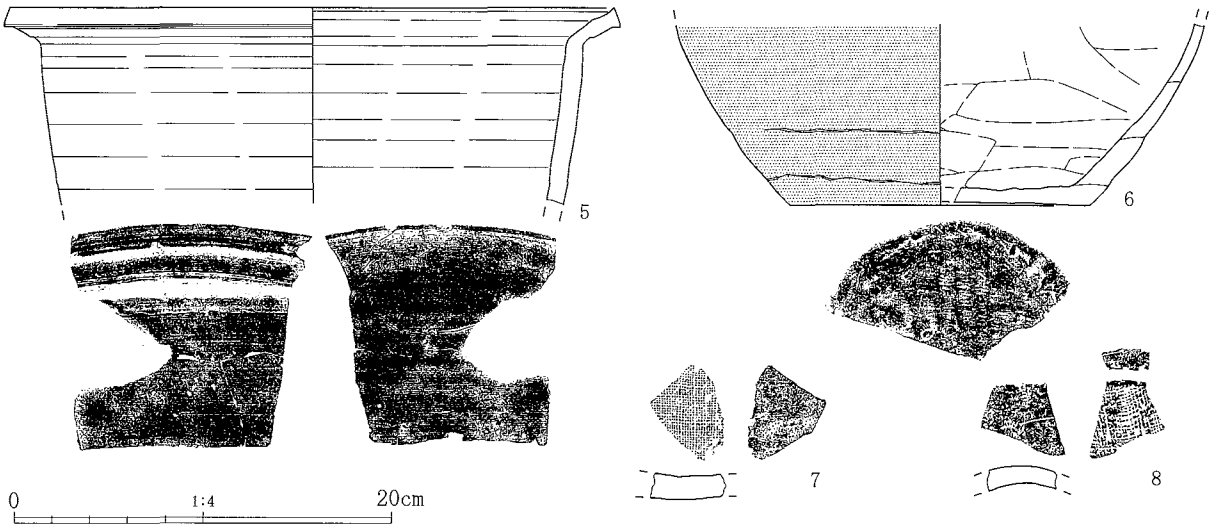
B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		○	△	○	○	※	×	×	※	※	※
2層	10YR5/6	黄褐色土		○	○	◎	◎	※	×	×	※	※	※
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土		△	○	◎	◎	※	×	×	※	※	※
4層	7.5YR5/4	にぶい褐色土		△	○	◎	◎	※	×	×	※	△	△
5層	5YR5/6	明赤褐色土		△	○	◎	◎	※	×	×	※	※	○

第23図　Ｈ６号住居址実測図



第24図　Ｈ６号住居址出土遺物（１）

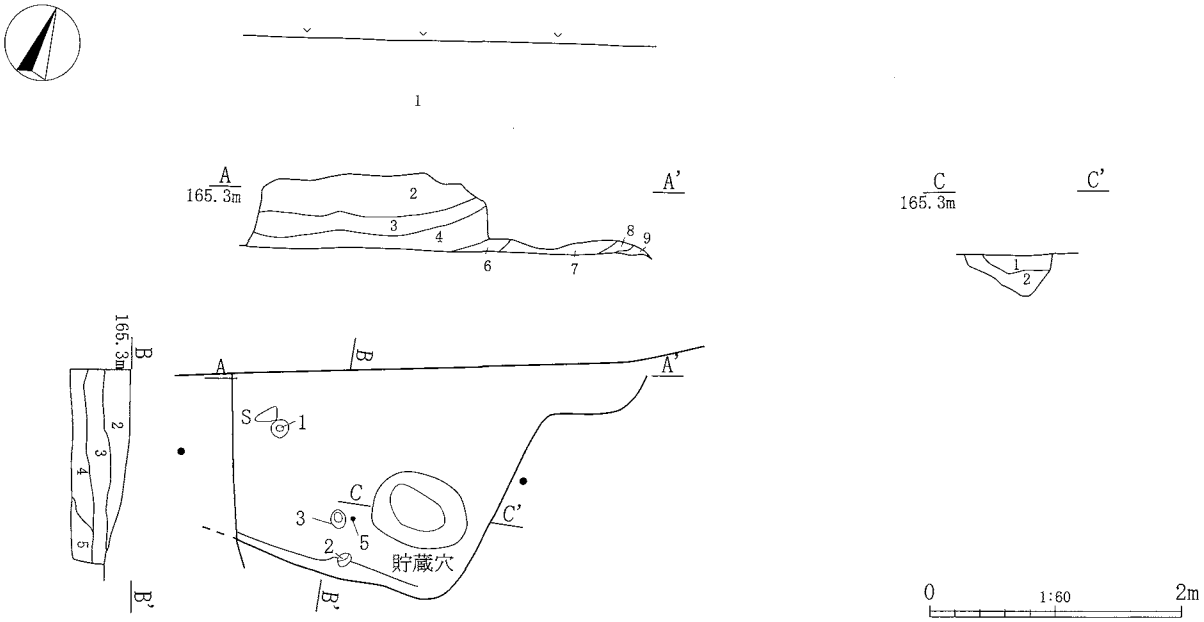


第25図　Ｈ６号住居址出土遺物（２）

H-6号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 皿	貯蔵穴 12区3層	口径 12.0 底径　7.0 器高　2.2	①普通／還元　②灰色　③砂粒、白色粒・石英微量混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。 流れ込みか。
2	須恵器 蓋		口径(16.2) 摘み径 4.2 器高　3.4	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④3/4	外面　轆轤成形、甲部上半篦削り。摘み貼り付け。 内面　轆轤成形。
3	土師器 甕	竈	口径 19.8 底径　－ 器高〈21.2〉	①普通　②橙色　③砂粒混入　④口縁部～胴部下位 2/5	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
4	土師器 甕	竈	口径 20.0 底径　－ 器高〈19.8〉	①普通　②橙色　③砂粒、礫若干混入　④口縁部～胴部下位 2/5	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
5	須恵器 甕	竈	口径(32.0) 底径　－ 器高〈10.3〉	①普通／還元　②灰白色　③砂粒、黒色粒若干混入　④口縁部～胴部上位破片	外面　轆轤成形。 内面　轆轤成形。
6	須恵器 甕	8区1層	口径　－ 底径(15.9) 器高〈9.6〉	①普通／還元　②灰色　③砂粒・黒色粒、礫若干混入　④胴部下位～底部破片	外面　胴部遺存部全面に自然釉付着、底部調整不明。 内面　篦撫で。
7	瓦 平瓦	一括	長さ〈5.6〉 幅　〈4.2〉 厚さ　1.2	①良好／還元　②灰色　③黒色粒若干混入　④破片	上面　布目。 下面　篦撫で。 重さ　32.0ｇ。
8	瓦 丸瓦	一括	長さ〈4.2〉 幅　〈4.6〉 厚さ　1.0	①良好／還元　②灰色　③黒色粒若干混入　④狭端部破片	上面　篦撫で。 下面　布目。 重さ　22.0ｇ。

第10表　Ｈ６号住居址出土遺物観察表



第26図　Ｈ７号住居址実測図（１）

⑦Ｈ７号住居址（第26・27・28図、第11表、PL. 3）

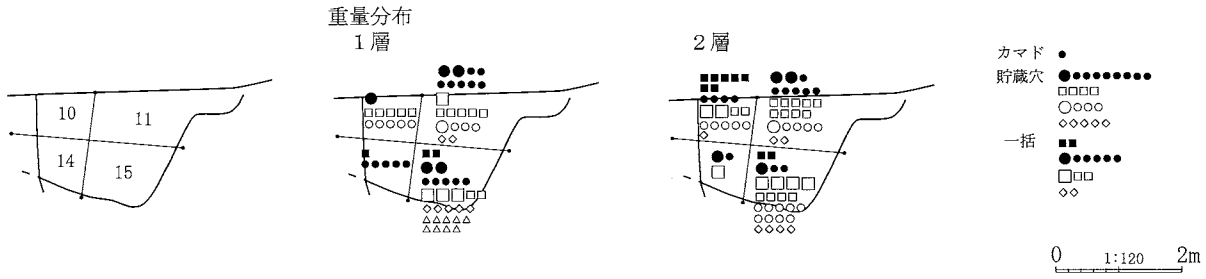
位置　調査区中央北、７Ｄグリッド他に位置する。東西を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　方形基調と考えられるが、詳細は不明である。深さ0.45m。　**カマド**　東壁に付設されている。　**遺物**　須恵器坏・碗等が出土している。　**時期**　８世紀末から９世紀初頭と考えられる。

A～A’ B～B’

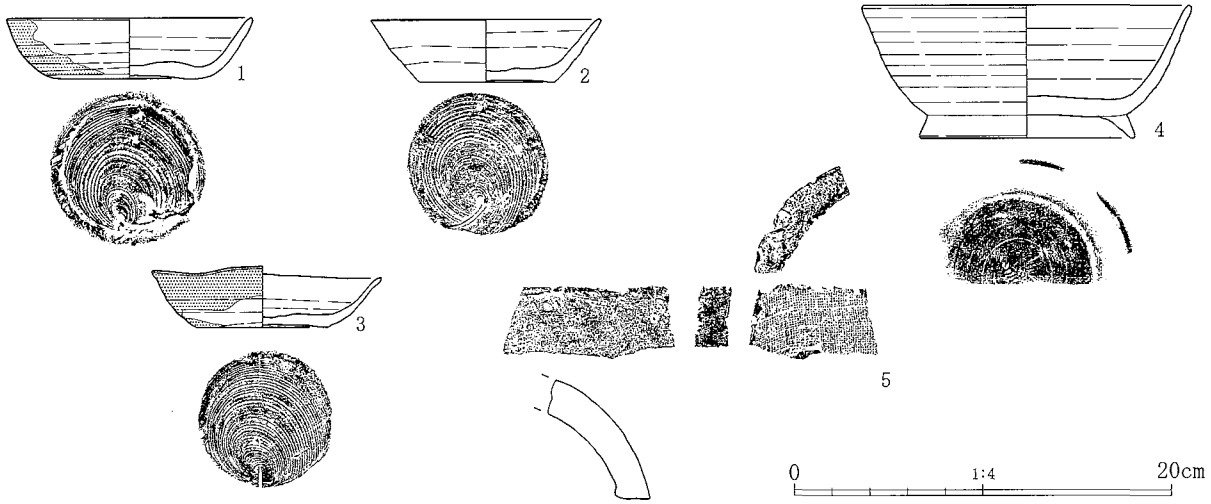
層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物								備考
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	
1層	10YR4/1	褐灰色土		△	※	※	※	※	※	※	※	※	※	コンクリート片を多数含む
2層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	×	※	※	※	
3層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	△	×	×	※	△	※	
4層	7.5YR3/3	暗褐色土		○	○	△	△	△	×	×	※	△	△	
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		○	○	△	○	※	×	×	※	※	※	
6層	7.5YR3/2	黒褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	△	△	
7層	5YR3/3	暗赤褐色土		△	○	△	※	△	×	×	※	△	△	カマド覆土
8層	2.5YR4/4	にぶい赤褐色土		△	○	○	△	※	×	×	※	△	○	
9層	2.5YR5/6	明赤褐色土		△	○	○	△	※	×	×	※	※	◎	

C～C’

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/1	黒褐色土		○	△	△	△	△	×	×	※	△	※
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		△	○	○	○	△	×	×	※	※	※



第27図　Ｈ７号住居址実測図（２）



第28図　Ｈ７号住居址出土遺物

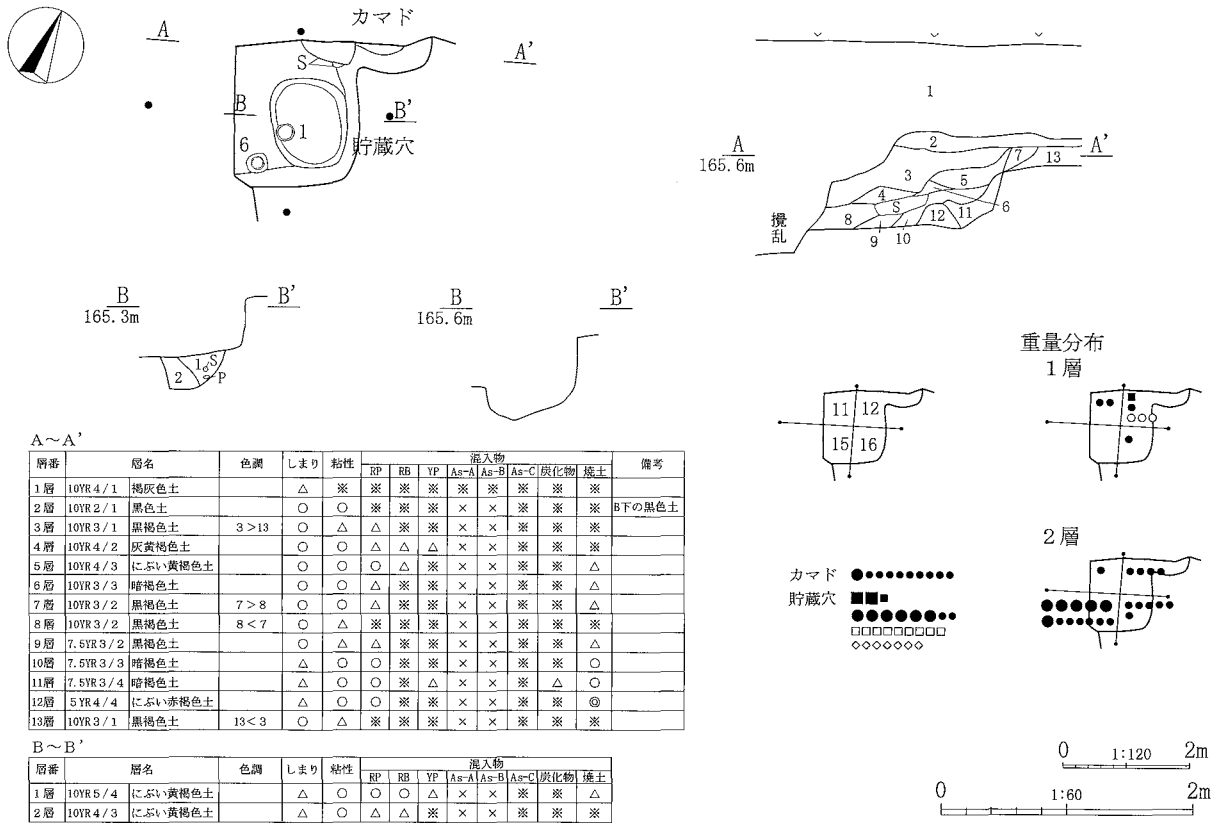
H-7号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏		口径 13.0 底径 7.0 器高 3.2	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、礫若干混入 ④完形	外面 轆轤成形、底部回転糸切り。 内面 轆轤成形。
2	須恵器 坏		口径(12.2) 底径 7.5 器高 3.3	①普通／還元 ②灰白色 ③砂粒、黒色粒若干混入 ④3/5	外面 轆轤成形、底部回転糸切り。 内面 轆轤成形。
3	須恵器 坏		口径 12.2 底径 7.0 器高 3.2	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、底部回転糸切り。一部に自然釉付着。 内面 轆轤成形。
4	須恵器 碗	15区1層	口径(17.3) 底径(11.4) 器高 7.0	①普通／還元 ②灰色 ③砂粒、黒色粒混入 ④1/4	外面 轆轤成形、底部回転篦切り？。高台貼り付け。一部に自然釉付着。 内面 轆轤成形。
5	瓦 丸瓦		長さ 〈4.0〉 幅 〈8.8〉 厚さ 1.7	①良好／還元 ②灰色 ③白色粒若干・砂粒混入 ④狭端部破片	上面 篦撫で。 下面 布目。 重さ 84.3g。

第11表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表

⑧Ｈ８号住居址（第29・30図、第12・13表、PL. ３）

位置　調査区中央北、８Ｄグリッド他に位置する。西側の一部を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　方形基調と考えられるが、詳細は不明。深さ0.55m。　**カマド**　東壁に付設されている。焚き口の構築に用いられたと考えられる砂岩が出土している。　**遺物**　須恵器坏・蓋、土師器坏・甕等が出土している。　**時期**　７世紀後半と考えられる。



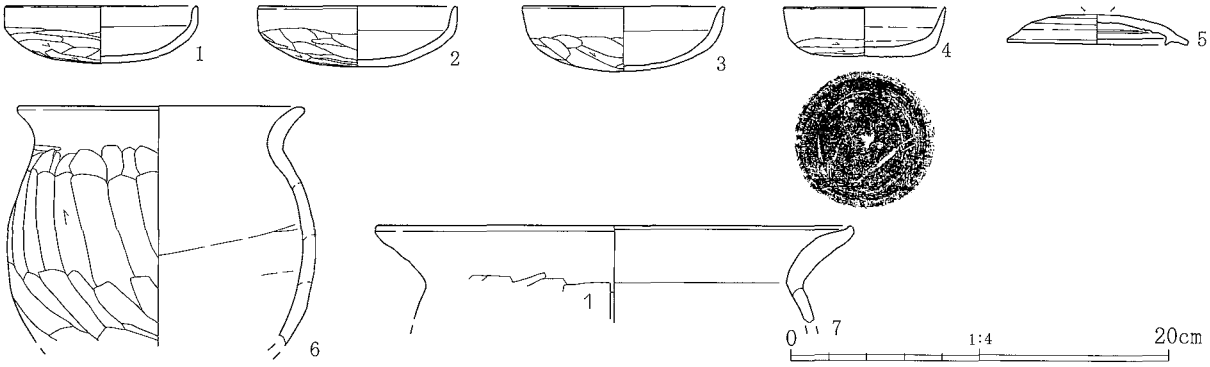
A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR4/1	褐灰色土		△	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
2層	10YR2/1	黒色土		○	○	※	※	※	×	×	※	※	※	B下の黒色土
3層	10YR3/1	黒褐色土	3＞13	○	△	△	※	※	×	×	※	※	※	
4層	10YR4/2	灰黄褐色土		○	○	△	△	△	×	×	※	※	※	
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		○	○	○	△	※	×	×	※	※	△	
6層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	△	
7層	10YR3/2	黒褐色土	7＞8	○	○	△	※	※	×	×	※	※	△	
8層	10YR3/2	黒褐色土	8＜7	○	△	※	※	※	×	×	※	※	※	
9層	7.5YR3/2	黒褐色土		○	△	△	※	※	×	×	※	※	△	
10層	7.5YR3/3	暗褐色土		△	○	○	※	※	×	×	※	※	○	
11層	7.5YR3/4	暗褐色土		△	○	○	※	△	×	×	※	△	○	
12層	5YR4/4	にぶい赤褐色土		△	○	○	※	※	×	×	※	※	◎	
13層	10YR3/1	黒褐色土	13＜3	○	△	※	※	※	×	×	※	※	※	

B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土		△	○	○	○	△	×	×	※	※	△
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		△	○	△	△	※	×	×	※	※	※

第29図　Ｈ８号住居址実測図



第30図　Ｈ８号住居址出土遺物

H-8号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏		口径 10.2 底径 ― 器高 3.0	①普通 ②橙色 ③砂粒、雲母微量混入 ④ほぼ完形	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 横撫で。
2	土師器 坏	貯蔵穴	口径 10.6 底径 ― 器高 3.2	①普通 ②にぶい橙色 ③砂粒混入 ④2/3	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 横撫で。
3	土師器 坏	貯蔵穴	口径(10.8) 底径 ― 器高 3.4	①普通 ②橙色 ③砂粒混入 ④1/2	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 横撫で。
4	須恵器 坏	貯蔵穴	口径 8.6 底径 ― 器高 2.6	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、石英若干混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、底部篦切り後、体部下位～底部外周付近回転篦削り。一部に自然釉付着。 内面 轆轤成形。

第12表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表（１）

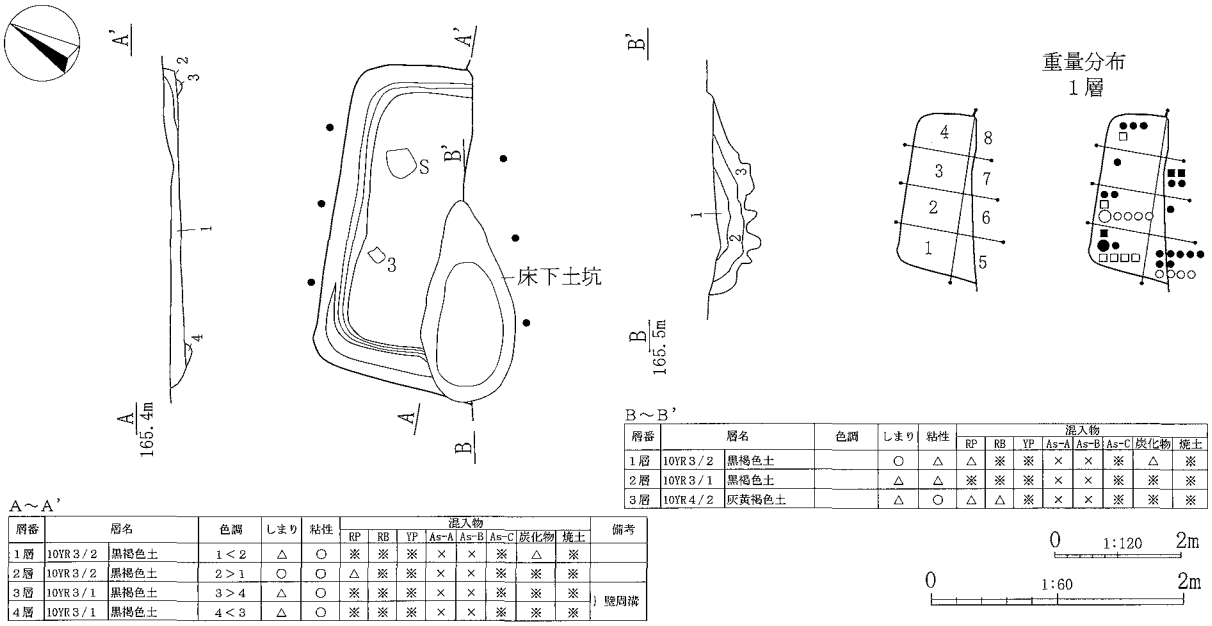
H-8号住居址

5	須恵器 蓋	貯蔵穴	口径 9.6 摘み径 ― 器高 1.6	①普通／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④ほぼ完形（摘み欠損）	外面 轆轤成形、甲部上半回転篦削り。 内面 轆轤成形。
6	土師器 甕		口径(15.0) 底径 ― 器高〈12.6〉	①普通 ②にぶい橙色 ③砂粒、片岩若干混入 ④口縁部～胴部下位 4/5	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
7	土師器 甕	竈	口径(25.2) 底径 ― 器高 〈5.1〉	①普通 ②にぶい橙色 ③砂粒、片岩・雲母少量混入 ④口縁部～胴部上位破片	外面 口辺部横撫で、胴部篦削り。 内面 口辺部横撫で、胴部篦撫で。

第13表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表（２）

⑨Ｈ９号住居址（第31・32図、第14表、PL. ３）

位置　調査区中央、９Ｅグリッド他に位置する。南側を攪乱に壊されている。　**形状・特徴**　方形基調と考えられるが、詳細は不明。遺存部分においては、浅い壁周溝が巡る。深さ0.1m。攪乱との境界で検出された土坑は本住居址に伴うものと判断した。　**カマド**　遺存部分においては検出されていない。　**遺物**　遺存状況が不良であり、全体的に遺物出土量は少ない。須恵器坏等の破片が少量出土している。　**時期**　８世紀と考えられる。



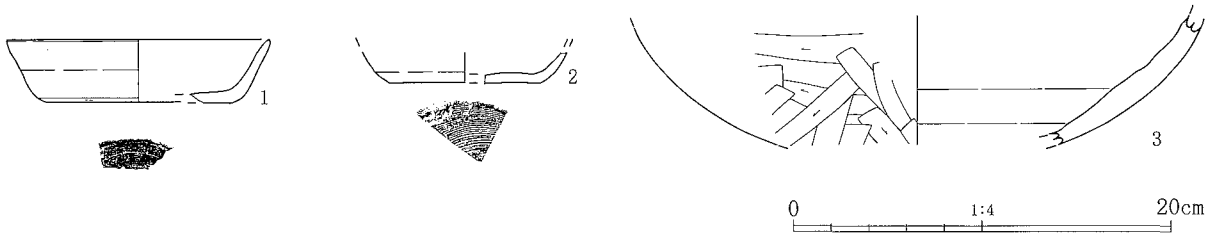
A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR3/2	黒褐色土	1＜2	△	○	※	※	※	×	×	※	△	※	
2層	10YR3/2	黒褐色土	2＞1	○	○	△	※	※	×	×	※	※	※	
3層	10YR3/1	黒褐色土	3＞4	△	○	※	※	※	×	×	※	※	※	壁周溝
4層	10YR3/1	黒褐色土	4＜3	△	○	※	※	※	×	×	※	※	※	

B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	△	※	※	×	×	※	△	※
2層	10YR3/1	黒褐色土		△	△	※	※	※	×	×	※	※	※
3層	10YR4/2	灰黄褐色土		△	○	△	△	※	×	×	※	※	※

第31図　Ｈ９号住居址実測図



第32図　Ｈ９号住居址出土遺物

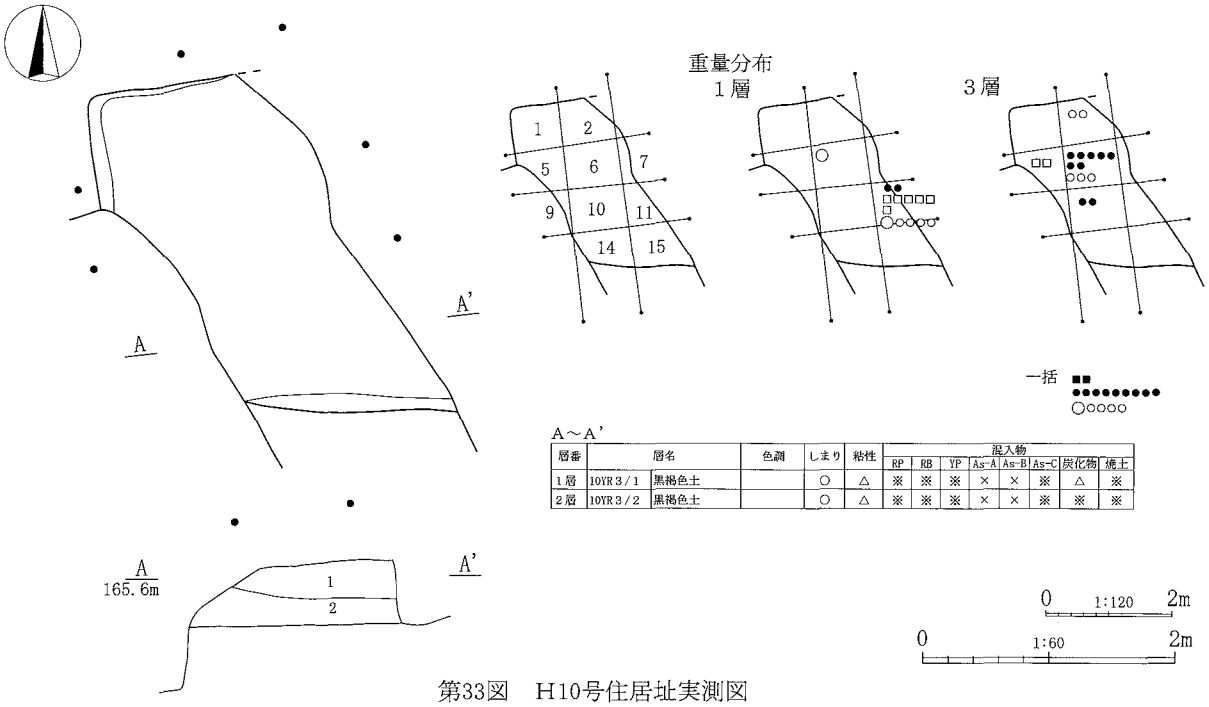
H-9号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	1区1層	口径(14.0) 底径 (9.8) 器高 〈3.3〉	①普通／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④1/10	外面 轆轤成形、体部下位～底部篦削り。 内面 轆轤成形。
2	須恵器 坏	1区1層	口径 ― 底径 (8.0) 器高 〈1.6〉	①普通／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④体部中位～底部破片	外面 底部回転糸切り。 内面 一部に自然釉付着。
3	須恵器 甕		口径 ― 底径 ― 器高 ―	①還元 ②灰色 ③白色粒・黒色粒混入 ④胴部破片	外面 篦削り。自然釉付着。 内面 轆轤成形。

第14表　Ｈ９号住居址出土遺物観察表

⑩H10号住居址（第33・34図、第15表、PL. 3）

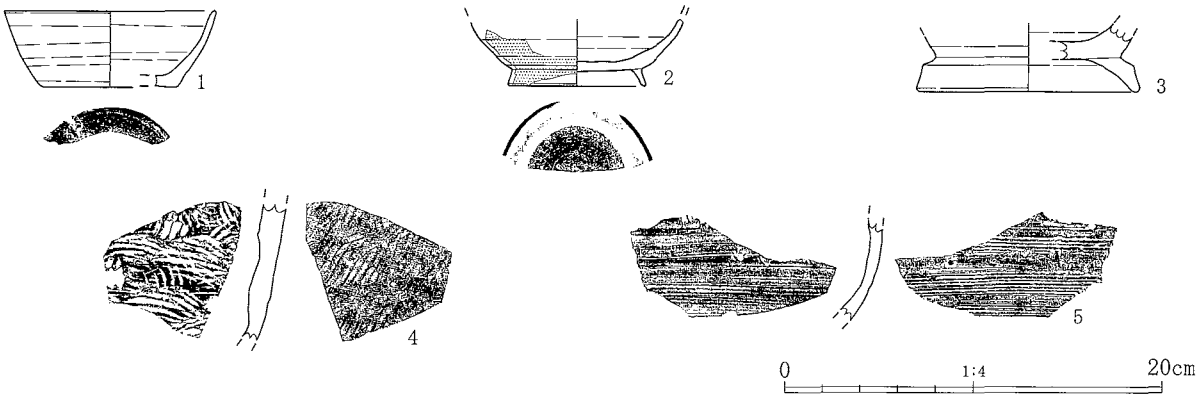
位置　調査区中央やや東寄り、10Eグリッド他に位置する。東西に攪乱があり、一部を調査したのみである。5号土坑・H11住と重複する。本住居址の方が5号土坑より旧い。H11住との新旧は不明。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。東西不明×南北3.15m×深さ0.5m。床面は比較的顕著に硬化が認められた。　**カマド**　遺存部分においては検出されていない。　**遺物**　遺存状況が不良であり、全体的に遺物出土量は少ない。須恵器坏・甕等が少量出土している。　**時期**　8世紀後半と考えられる。



A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/1	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	△	※
2層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	※	※

第33図　H10号住居址実測図



第34図　H10号住居址出土遺物

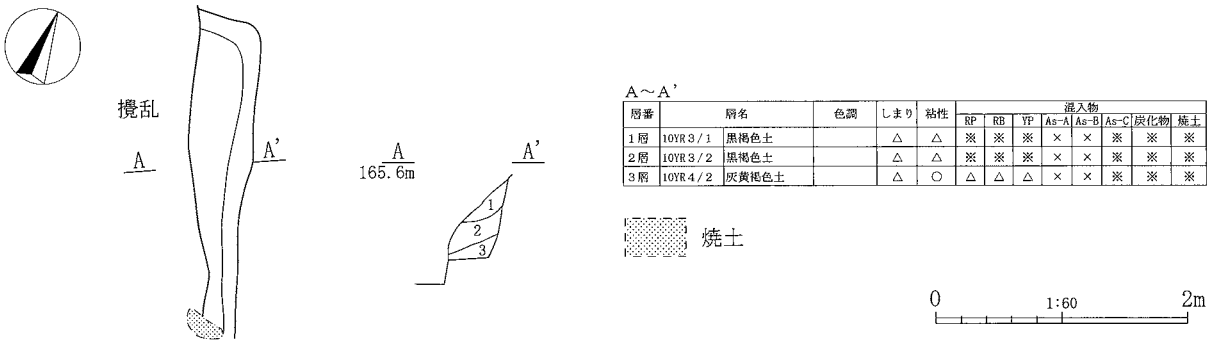
H-10号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	11区1層	口径(11.6) 底径 (9.2) 器高　4.0	①普通／還元　②灰色　③砂粒、黒色粒若干混入　④1/5	外面　轆轤成形、底部篦切り。一部に自然釉付着。 内面　轆轤成形。
2	須恵器 碗	11区1層	口径　－ 底径 (7.2) 器高 〈3.5〉	①良好／還元　②暗灰色　③砂粒混入　④体部中位～底部 1/4	外面　轆轤成形、底部篦切り。高台貼り付け。一部に自然釉付着。 内面　轆轤成形。
3	須恵器 長頸壺	11区1層	口径　－ 底径(11.5) 器高　－	①還元　②灰色　③白色粒・黒色粒混入　④底部～高台部 1/6	外面　轆轤成形、底部回転撫で。 内面　轆轤成形。
4	須恵器 甕	6区1層	口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通／還元　②灰色　③砂粒混入　④胴部破片	外面　平行叩き。 内面　青海波文。
5	須恵器 壷		口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④胴部破片	外面　掻き目。 内面　撫で。

第15表　H10号住居址出土遺物観察表

⑪H11号住居址（第35図、PL. 3）

位置　調査区中央やや東寄り、10Eグリッド他に位置する。西側に攪乱があり、大部分が壊されている。**形状・特徴**　方形基調と考えられるが、詳細は不明。深さ0.65m。　**カマド**　遺存部南端に焼土が認められる。東壁に付設されていた可能性がある。　**遺物**　出土遺物なし。　**時期**　出土遺物が無く不明であるが、古代の所産である可能性が考えられる。



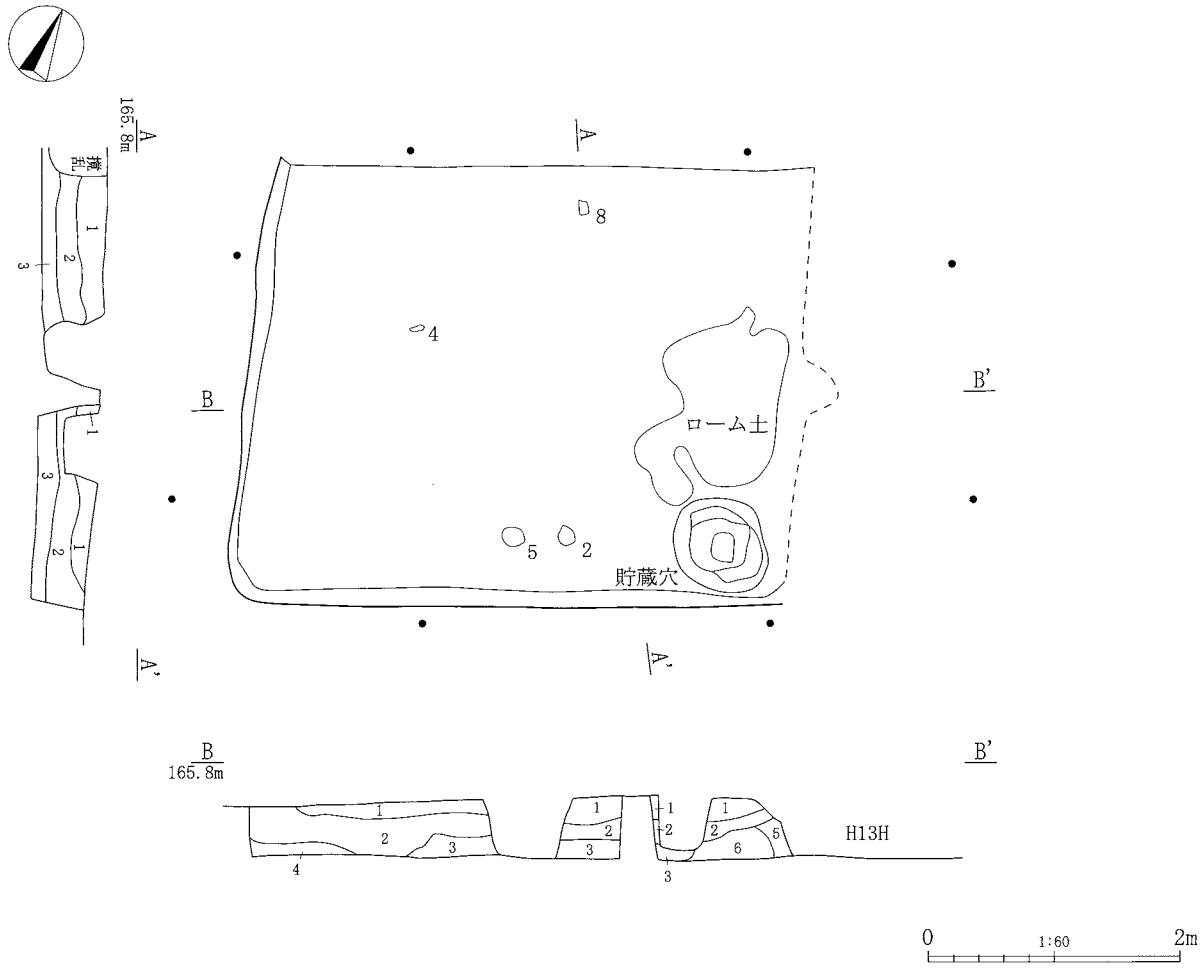
A～A'

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物							
					RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/1	黒褐色土		△	△	※	※	※	×	×	※	※	※
2層	10YR3/2	黒褐色土		△	△	※	※	※	×	×	※	※	※
3層	10YR4/2	灰黄褐色土		△	○	△	△	△	×	×	※	※	※

第35図　H11号住居址実測図

⑫H12号住居址（第36・37・38図、第16・17表、PL. 3）

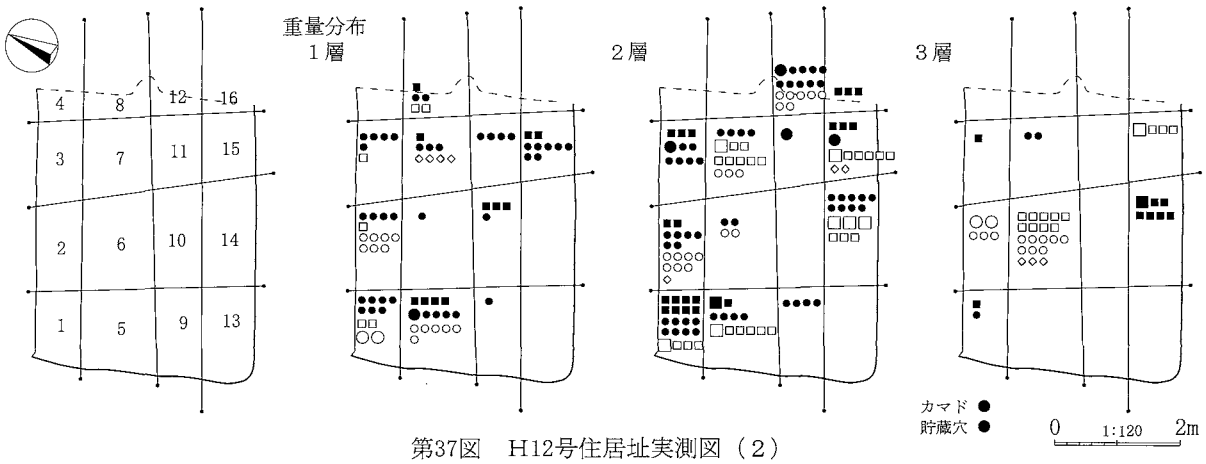
位置　調査区西寄り北端、4Eグリッド他に位置する。1号土坑・2号集石・H13住と重複し、いずれの遺構より本住居址が旧い。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。東西4.4m（推定）×南北不明×深さ0.45m。　**カマド**　東部に焼土・ローム土が集中する部分があり、その南東に貯蔵穴と考えられる土坑が確認されている。これらの点から、東壁に付設されていたものが、H13住により壊されたと推定される。　**遺物**　須恵器坏・碗、土師器坏・甕等が出土している。　**時期**　8世紀前半と考えられる。



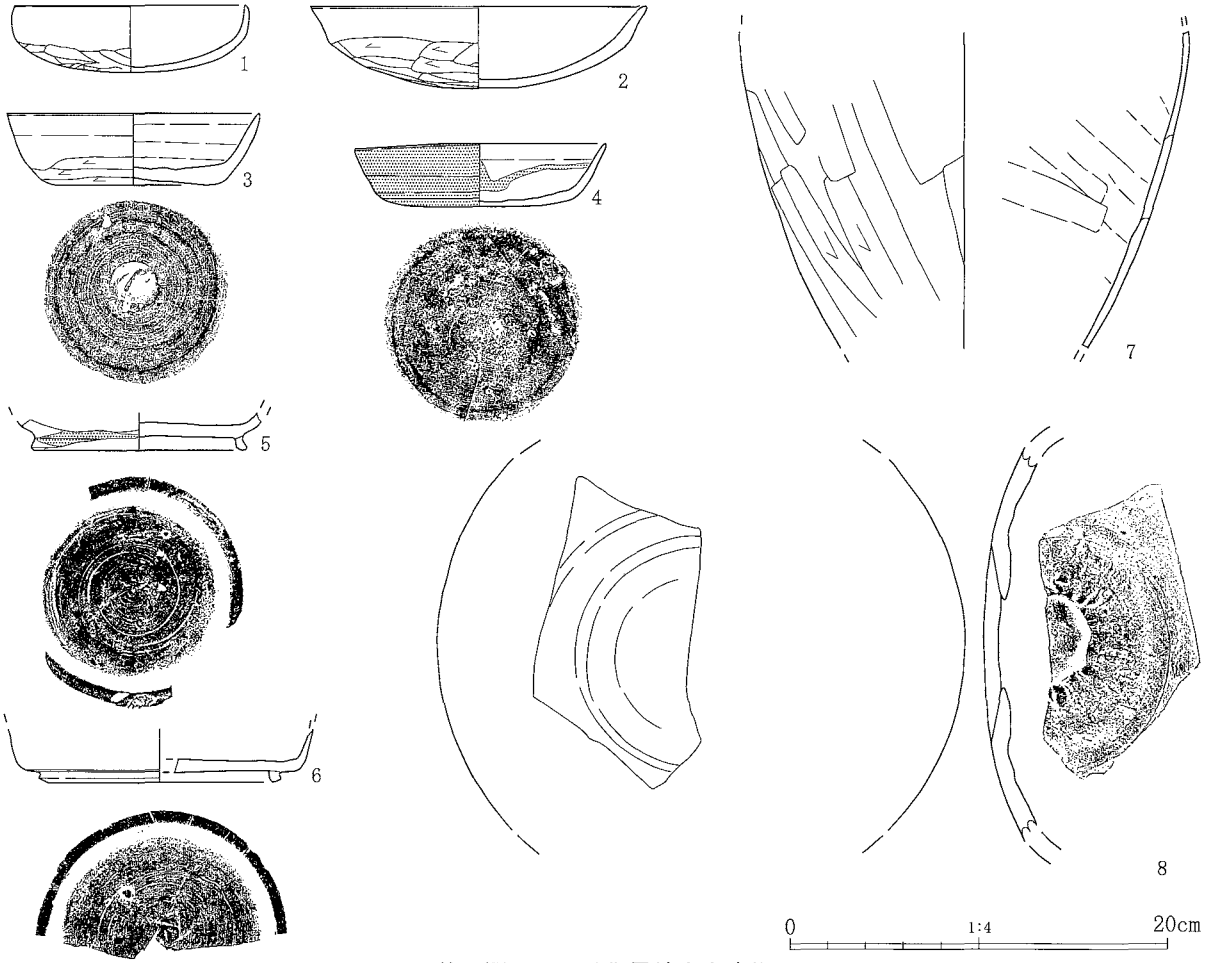
第36図　H12号住居址実測図（1）

A～A’ B～B’

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/3	暗褐色土	1＞3	○	△	△	△	※	×	×	※	※	※
2層	10YR3/1	黒褐色土		○	△	※	※	※	×	×	※	※	※
3層	10YR3/3	暗褐色土	3＜1	○	○	△	△	※	×	×	※	※	※
4層	10YR3/2	黒褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	※
5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		○	○	○	△	※	×	×	※	※	※
6層	10YR5/6	黄褐色土		◎	○	◎	◎	※	×	×	※	※	△



第37図　H12号住居址実測図（2）



第38図　H12号住居址出土遺物

H-12号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	1区2層 5区2層	口径 12.4 底径 ― 器高 3.5	①普通 ②橙色 ③砂粒混入 ④3/4	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 口辺部横撫で、体部篦撫で？。
2	土師器 坏		口径 17.8 底径 ― 器高 4.3	①普通 ②橙色 ③砂粒、黒色粒若干、雲母微量混入 ④1/2	外面 口辺部横撫で、体部篦削り。 内面 口縁部～体部中位横撫で、体部下位篦撫で。
3	須恵器 坏	14区2層 15区3層	口径 13.4 底径 9.5 器高 3.8	①普通／還元 ②灰白色 ③砂粒、黒色粒若干混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、篦起こし後、底部～体部下位回転篦削り。 内面 轆轤成形。

第16表　H12号住居址出土遺物観察表（1）

H-12号住居址

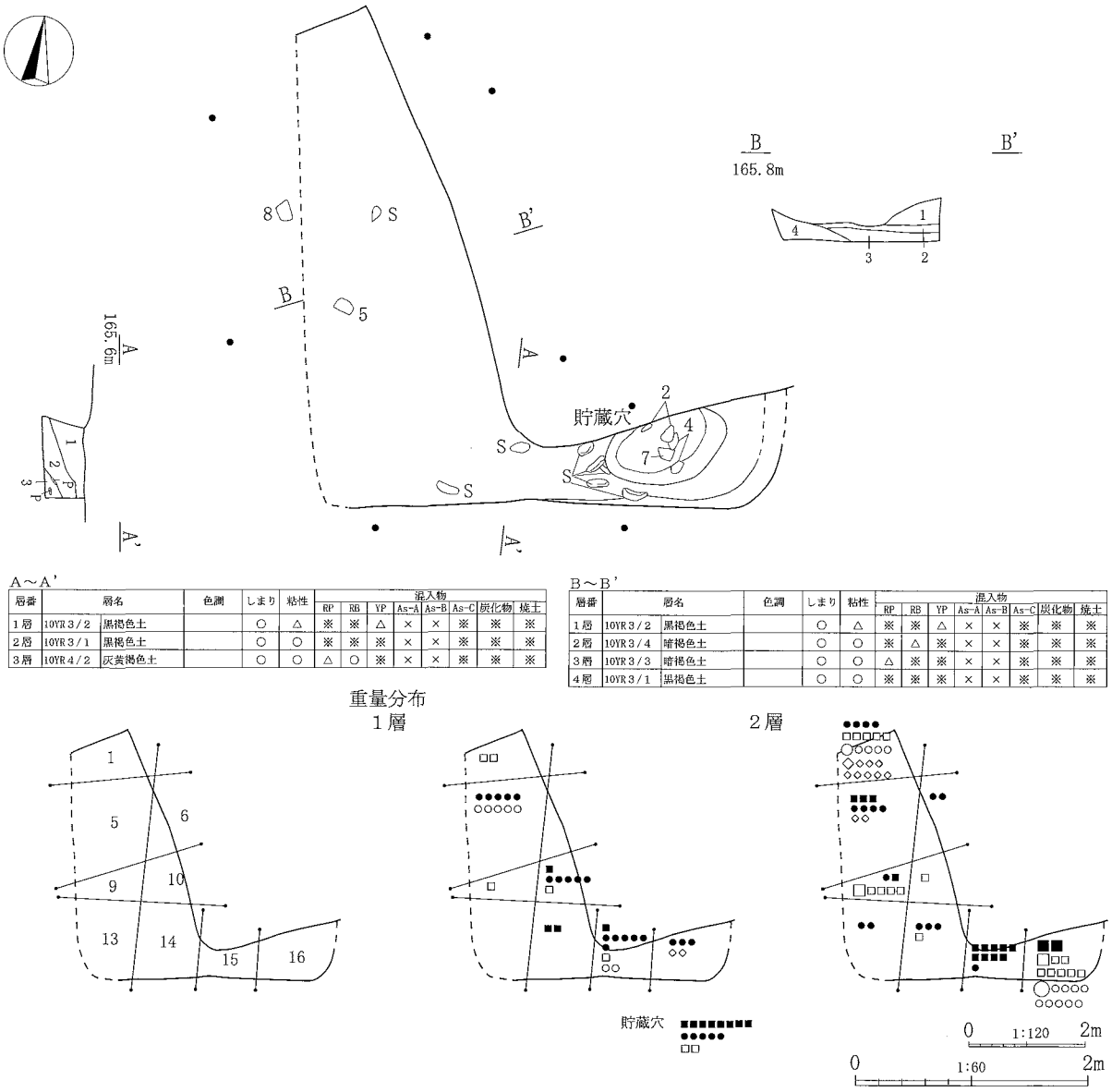
4	須恵器 坏	1区2層	口径 13.3 底径 9.7 器高 3.4	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、黒色粒・白色粒若干混入 ④ほぼ完形	外面 轆轤成形、体部下位～底部篦削り。 内面 轆轤成形。
5	須恵器 碗		口径 — 底径 11.4 器高 〈2.0〉	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒混入 ④体部下位～底部 1/4	外面 轆轤成形、底部篦削り。高台貼り付け。 内面 轆轤成形。
6	須恵器 碗	1区1層 2区1層	口径 — 底径 12.8 器高 〈2.8〉	①良好／還元 ②灰色 ③砂粒、白色粒微量混入 ④体部下位～底部 1/5	外面 轆轤成形、底部篦削り。高台貼り付け。 内面 轆轤成形。
7	土師器 甕	竈 4Fグリッド	口径 — 底径 — 器高〈16.7〉	①普通 ②橙色 ③砂粒混入 ④胴部中位～下位 1/10	外面 篦削り。 内面 篦撫で。
8	須恵器 提瓶		口径 — 底径 — 器高 —	①還元 ②灰色 ③白色粒混入 ④胴部破片	外面 轆轤成形。 内面 轆轤成形。

第17表　H12号住居址出土遺物観察表（2）

⑬H13号住居址（第39・40図、第18表、PL. 4）

位置　調査区西寄り北端、5Eグリッド他に位置する。H12住・1号集石と重複し、本住居址が1号集石より旧く、H12住より新しい。　**形状・特徴**　方形基調と考えられる。東西4.5m（推定）×南北不明×深さ0.4m。

カマド　遺存部分においては検出されていない。　**遺物**　須恵器坏・蓋・甕、土師器坏等が比較的多く出土している。また、南壁中央付近では編み物石がまとまって出土している。　**時期**　8世紀前半と考えられる。



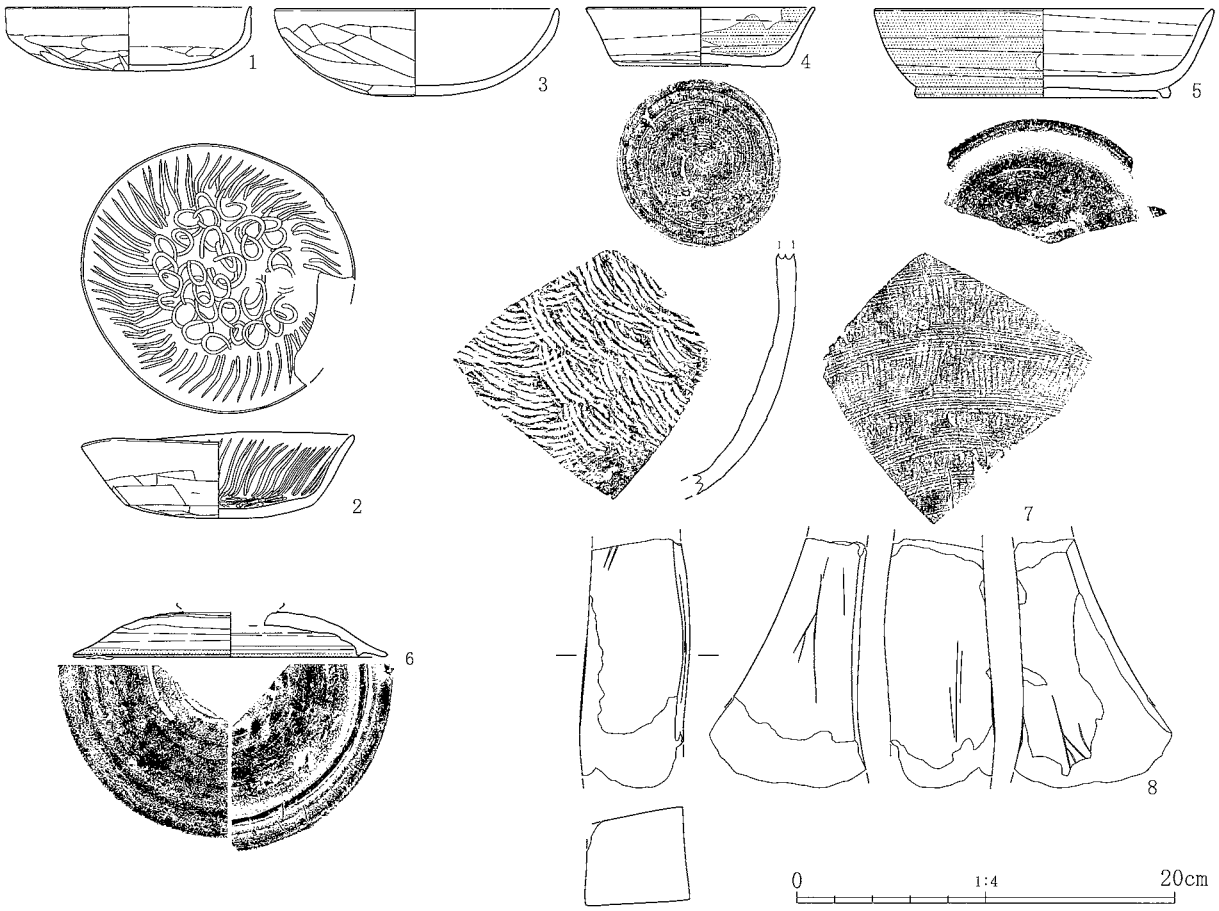
A～A'

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	※	※	※
2層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	※	×	×	※	※	※
3層	10YR4/2	灰黄褐色土		○	○	△	○	※	×	×	※	※	※

B～B'

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR3/2	黒褐色土		○	△	※	※	△	×	×	※	※	※
2層	10YR3/4	暗褐色土		○	○	※	△	※	×	×	※	※	※
3層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	△	※	※	×	×	※	※	※
4層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	※	×	×	※	※	※

第39図　H13号住居址実測図



第40図　H13号住居址出土遺物

H-13号住居址

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	貯蔵穴	口径(13.0) 底径　－ 器高　3.4	①普通　②橙色　③砂粒混入 ④1/2	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口辺部横撫で、体部篦撫で。
2	土師器 坏		口径 14.3 底径　9.9 器高　4.5	①普通　②橙色　③白色粒混入 ④9/10	外面　口部横撫で、体部～底部篦削り。 内面　口縁部～体部横撫で後放射状暗文、底部螺旋状暗文。
3	土師器 坏	14区1層 15区2層 1号集石	口径 15.0 底径　－ 器高　4.6	①普通　②橙色　③砂粒混入 ④3/5	外面　口辺部横撫で、体部篦削り。 内面　口縁部～体部上位横撫で、体部中位～下位撫で。
4	須恵器 坏		口径 12.2 底径　8.6 器高　3.1	①良好／還元　②灰色　③砂粒、黒色粒若干混入　④ほぼ完形	外面　轆轤成形、体部下位～底部篦削り。 内面　轆轤成形。一部に自然釉付着。
5	須恵器 碗	9区1層	口径 17.8 底径 13.6 器高　4.7	①良好／還元　②灰色　③砂粒、黒色粒・礫若干混入 ④1/4	外面　轆轤成形、底部篦削り。高台貼り付け。一部に自然釉付着。 内面　轆轤成形。
6	須恵器 蓋	1区2層	口径(16.6) 摘み径　－ 器高〈2.5〉	①普通／中性　②にぶい橙色 ③砂粒混入　④1/3	外面　轆轤成形、甲部上半篦削り。 内面　轆轤成形。
7	須恵器 甕		口径　－ 底径　－ 器高　－	①普通／還元　②灰白色　③砂粒混入　④胴部破片	外面　平行叩き後、掻き目。 内面　青海波文。
8	砥石		長さ13.2　幅5.6　厚さ5.2　重さ669.9g		

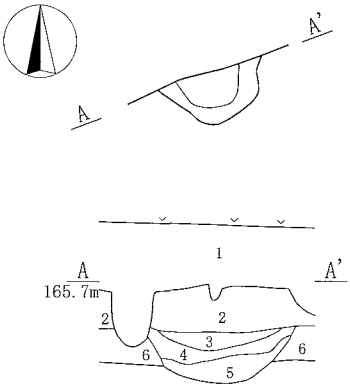
第18表　H13号住居址出土遺物観察表

（2）土坑

古代の所産と推定される土坑は２基検出された。

①２号土坑（第41・42図、第19表、PL.　4）

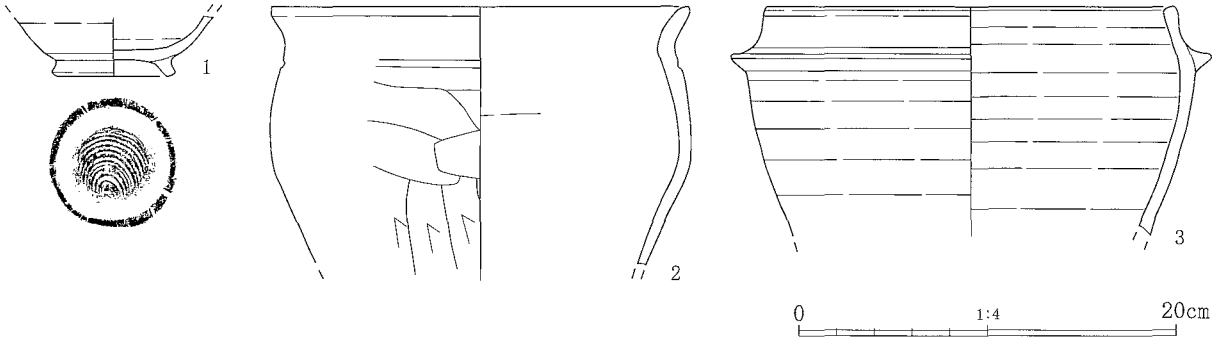
調査区東寄り12Ｂグリッドに位置する。北半が調査区外となるため、詳細については不明。検出部分は半円形であり、北壁断面より深さは0.4m程と推定される。断面は椀状を呈する。出土遺物より10世紀代の所産と考えられる。



A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物								備考
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	
1層	10YR4/1	褐灰色土		△	※	※	※	※	※	△	※	※	※	コンクリート片等含む
2層	10YR3/1	黒褐色土	2＞3	○	○	※	※	△	×	×	※	※	※	
3層	10YR3/1	黒褐色土	3＜2	△	△	※	※	※	×	×	※	※	※	
4層	10YR3/2	黒褐色土	4＜5	△	△	※	※	※	×	×	※	△	※	
5層	10YR3/2	黒褐色土	5＞4	△	△	※	※	※	×	×	※	△	※	乳白色の粘土を含む
6層	10YR3/3	暗褐色土		○	○	※	※	※	×	×	※	※	※	

第41図　２号土坑実測図



第42図　２号土坑出土遺物

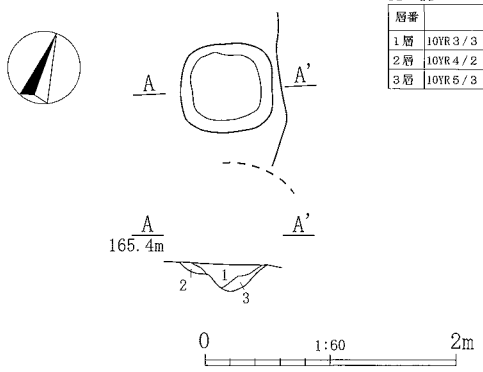
2号土坑

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 碗	一括	口径　－ 底径　6.5 器高 〈3.1〉	①やや良好／還元　②灰白色 ③砂粒混入　④体部下位～底部	外面　轆轤成形、底部回転糸切り。高台貼り付け。 内面　轆轤成形。
2	土師器 甕	一括	口径(22.2) 底径　－ 器高〈14.4〉	①普通　②にぶい橙色　③砂粒、礫若干混入　④口縁部～胴部中位破片	外面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り。 内面　口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で。
3	須恵器 羽釜	一括	口径(21.6) 底径　－ 器高〈12.1〉	①普通／酸化　②にぶい橙色 ③砂粒、石英若干混入　④口縁部～胴部破片	外面　轆轤成形、鍔貼り付け。 内面　轆轤成形。

第19表　２号土坑出土遺物観察表

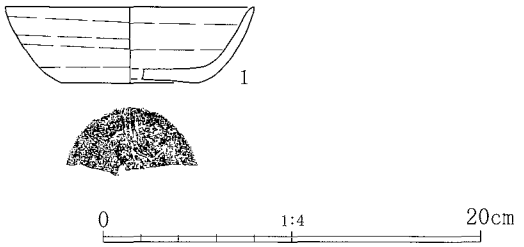
②６号土坑（第43・44図、第20表、PL.　４）

調査区中央付近８Ｆグリッドに位置する。平面は一辺0.7m程の隅丸方形を呈する。断面は不整形であり、深さは最大約0.25mである。出土遺物より８世紀後半の所産と推定される。



A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物								
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	
1層	10YR3/3	暗褐色土		△	△	△	※	△	×	×	※	△	△	
2層	10YR4/2	灰黄褐色土		△	○	△	△	※	×	×	※	※	※	
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		△	○	○	○	※	×	×	※	※	※	



第43図　６号土坑実測図

第44図　６号土坑出土遺物

6号土坑

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	一括	口径(13.2) 底径 (7.2) 器高　4.0	①良好／還元　②灰色　③砂粒混入　④1/2	外面　轆轤成形、底部篦削り。 内面　轆轤成形。一部に自然釉付着。

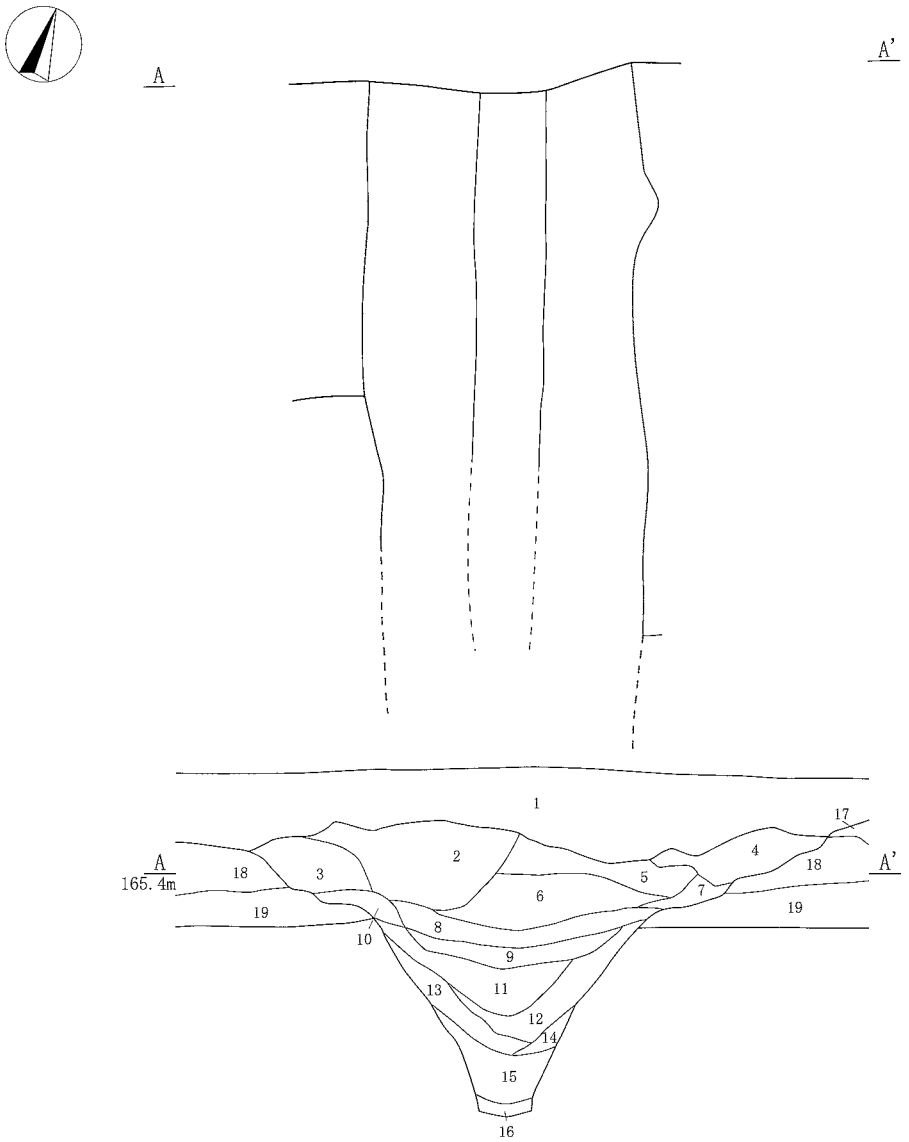
第20表　６号土坑出土遺物観察表

第３節 中世～近世

（１）溝

①１号溝（第45図、PL. ４）

調査区中央東寄り11Ｃグリッド他に位置する。南側が攪乱により壊されているので、検出されたのは約５ｍである。北壁土層断面では上幅4.6m、深さ2.3mを計る大規模な溝である。断面は逆三角形（薬研堀状）を呈する。覆土中位以下にロームブロックが混入する。人為的に埋められている可能性が考えられる。出土遺物・覆土より中世～近世の所産と考えられる。



A～A'

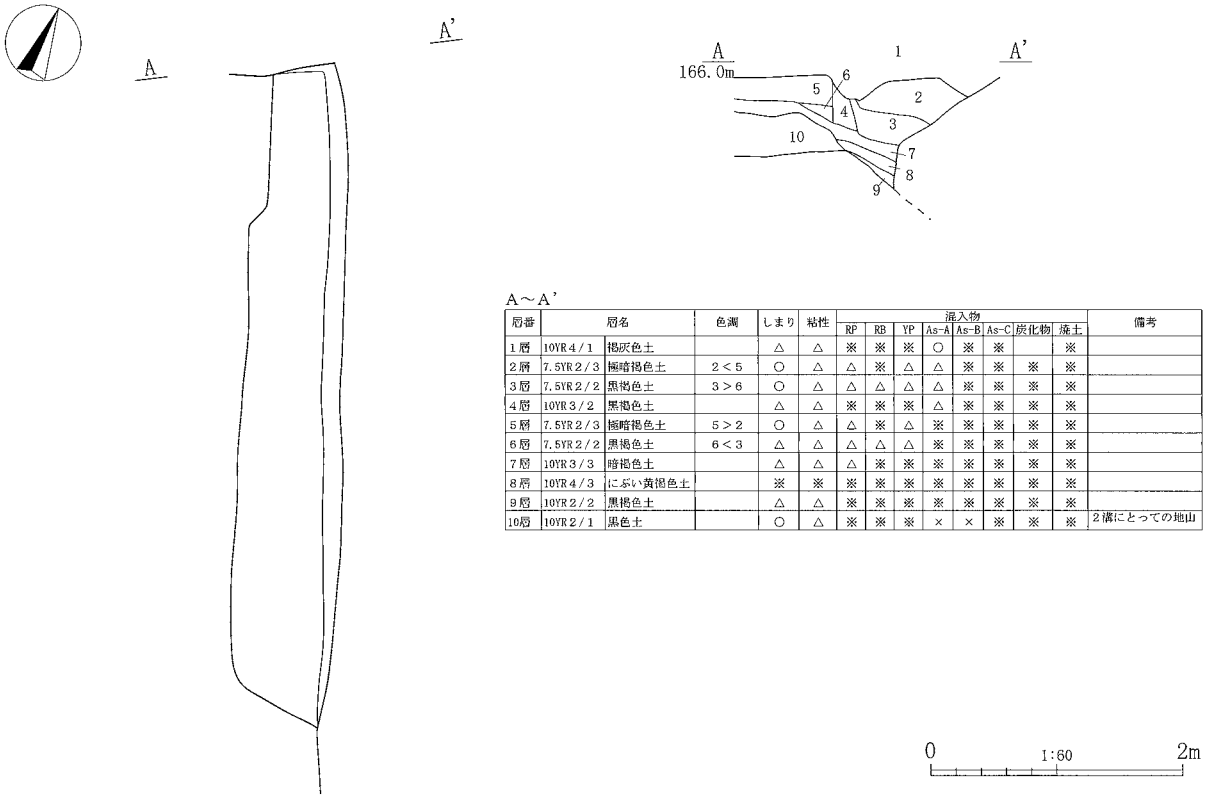
層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	硬土	備考
１層	10YR４/１	褐灰色土	１＞17	△	△	※	※	※	△	※	※	※	※	コンクリート片等含む
２層	10YR３/３	暗褐色土	２＞７＞19	△	△	△	※	△	△	※	※	※	※	
３層	10YR３/２	黒褐色土	３＜６	△	△	※	※	※	△	△	※	※	※	
４層	10YR４/４	褐色土		△	△	△	△	△	※	※	※	※	※	
５層	5YR４/４	にぶい赤褐色土		△	△	△	※	△	※	※	※	○	△	
６層	10YR３/２	黒褐色土	６＞３	△	△	※	※	※	△	※	※	※	※	
７層	10YR３/３	暗褐色土	２＞７＞19	△	△	△	※	※	※	※	※	※	※	
８層	10YR４/３	にぶい黄褐色土		△	△	※	△	△	△	△	※	△	※	
９層	10YR６/６	明黄褐色土		○	○	○	◎	※	※	※	※	※	※	
10層	10YR２/１	黒色土	10＞18	△	△	※	※	※	※	※	※	※	※	
11層	10YR３/１	黒褐色土		○	○	※	※	※	※	△	※	※	※	
12層	10YR２/３	黒褐色土		○	△	△	△	※	※	△	※	※	※	
13層	10YR４/２	灰黄褐色土	13＜14	△	○	△	○	※	※	△	※	※	※	
14層	10YR４/２	灰黄褐色土	14＞13	△	○	△	△	※	※	△	※	※	※	
15層	10YR４/６	褐色土		△	○	○	○	※	※	△	※	※	※	
16層	10YR３/４	暗褐色土		○	○	△	△	※	※	※	※	※	※	
17層	10YR４/１	褐灰色土	17＜１	△	△	※	※	※	×	△	※	※	※	１溝にとっての地山
18層	10YR２/１	黒色土	18＜10	○	○	※	※	※	×	×	※	※	※	
19層	10YR３/３	暗褐色土	19＜７＜２	○	○	△	※	△	×	×	※	※	※	

0　1:60　2m

第45図　１号溝実測図

②２号溝（第46図、PL. ４）

調査区東端14Ｂグリッド他に位置する。Ｈ１住と重複し、本遺構が新しい。一部を調査したのみであり、形状・深さ等の詳細は不明。覆土・重複関係より中世～近世の所産と考えられる。



A～A'

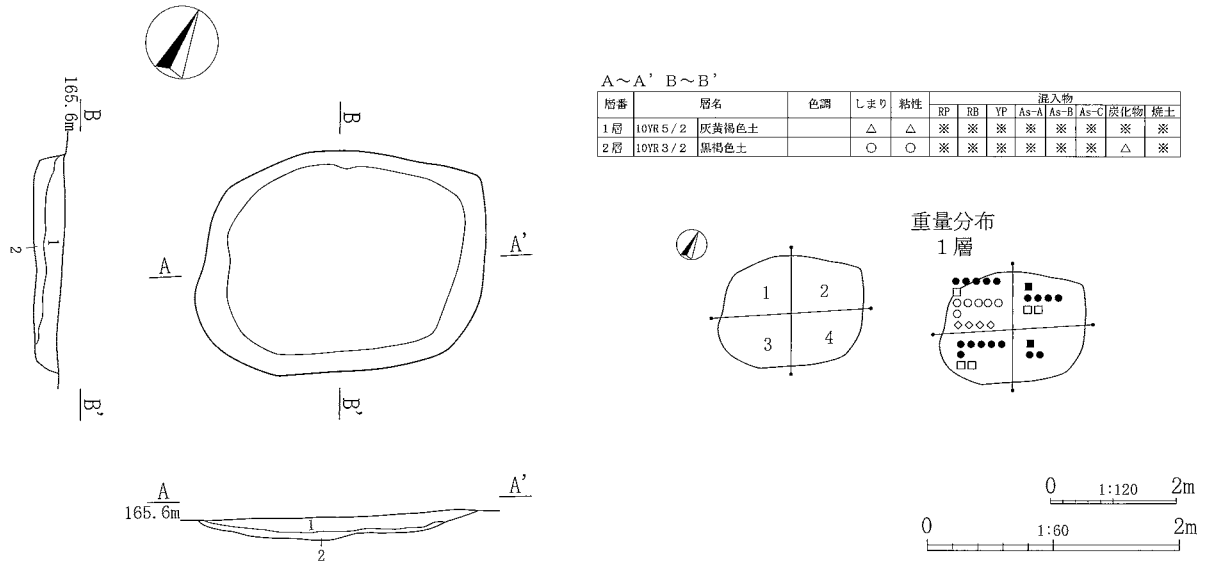
層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物								備考
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	
1層	10YR4/1	褐灰色土		△	△	※	※	※	○	※	※		※	
2層	7.5YR2/3	極暗褐色土	2＜5	○	△	△	※	△	△	※	※	※	※	
3層	7.5YR2/2	黒褐色土	3＞6	○	△	△	△	△	△	※	※	※	※	
4層	10YR3/2	黒褐色土		△	△	※	※	※	△	※	※	※	※	
5層	7.5YR2/3	極暗褐色土	5＞2	○	△	△	※	△	※	※	※	※	※	
6層	7.5YR2/2	黒褐色土	6＜3	△	△	△	△	△	※	※	※	※	※	
7層	10YR3/3	暗褐色土		△	△	△	※	※	※	※	※	※	※	
8層	10YR4/3	にぶい黄褐色土		※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
9層	10YR2/2	黒褐色土		△	△	※	※	※	※	※	※	※	※	
10層	10YR2/1	黒色土		○	△	※	※	※	×	×	※	※	※	２溝にとっての地山

第46図　２号溝実測図

（２）土坑

①１号土坑（第47図、PL. ４）

調査区西寄り４Ｆグリッドに位置する。Ｈ12住と重複し、本遺構の方が新しい。平面は隅丸長方形を呈し、長軸2.2m、短軸1.25m、深さ0.25mである。断面は皿状又は箱状を呈する。覆土・重複関係より中世～近世の所産と推定される。



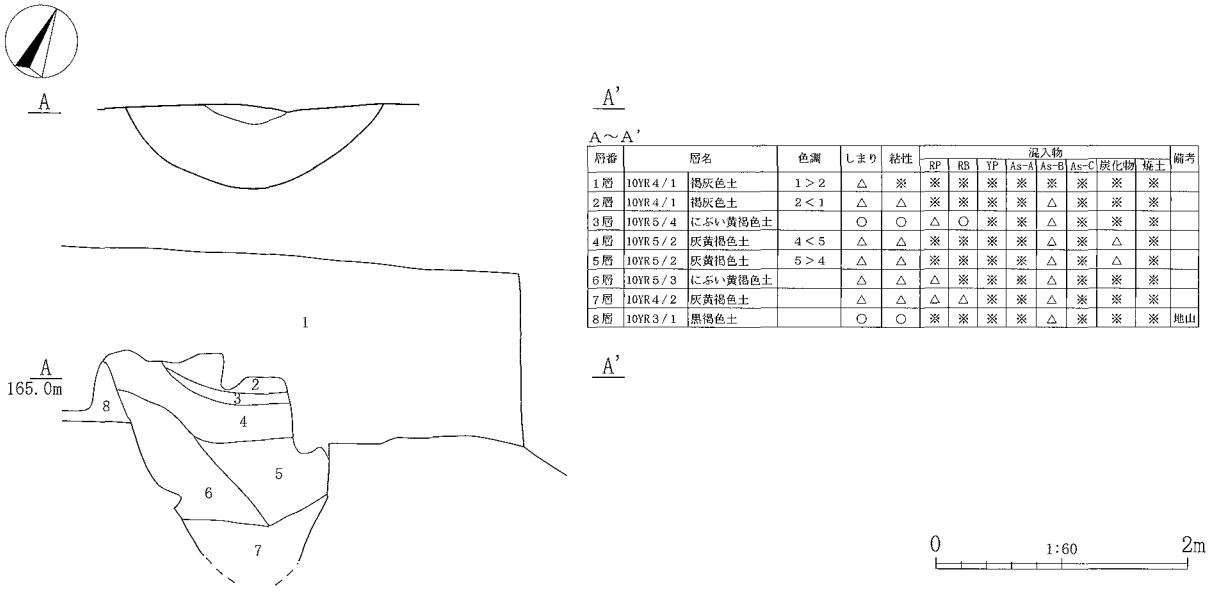
A～A' B～B'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物							
						RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土
1層	10YR5/2	灰黄褐色土		△	△	※	※	※	※	※	※	※	※
2層	10YR3/2	黒褐色土		○	○	※	※	※	※	※	※	△	※

第47図　１号土坑実測図

②３号土坑（第48図）

調査区中央西寄り６Ｅグリッドに位置する。調査区の関係上一部分のみの調査である。また、底面まで完掘していないので詳細については不明。覆土より中世～近世の所産と推定される。４号土坑と規模・断面形状・覆土等が近似しているので、同時期の所産である可能性が考えられる。



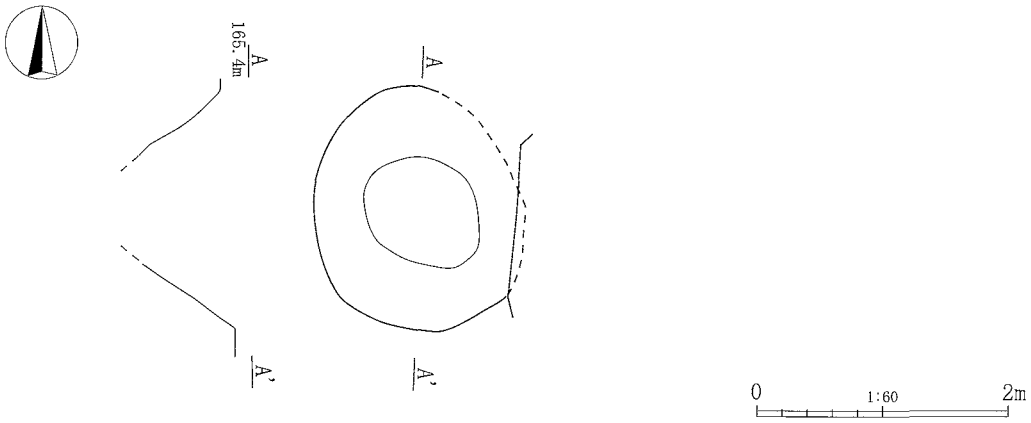
A～A'

層番	層名		色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	As-C	炭化物	焼土	備考
1層	10YR4/1	褐灰色土	1＞2	△	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
2層	10YR4/1	褐灰色土	2＜1	△	△	※	※	※	※	△	※	※	※	
3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土		○	○	△	○	※	※	△	※	※	※	
4層	10YR5/2	灰黄褐色土	4＜5	△	△	※	※	※	※	△	※	△	※	
5層	10YR5/2	灰黄褐色土	5＞4	△	△	※	※	※	※	△	※	△	※	
6層	10YR5/3	にぶい黄褐色土		△	△	△	※	※	※	△	※	※	※	
7層	10YR4/2	灰黄褐色土		△	△	△	△	※	※	△	※	※	※	
8層	10YR3/1	黒褐色土		○	○	※	※	※	※	△	※	※	※	地山

第48図　３号土坑実測図

③４号土坑（第49図、PL. ４）

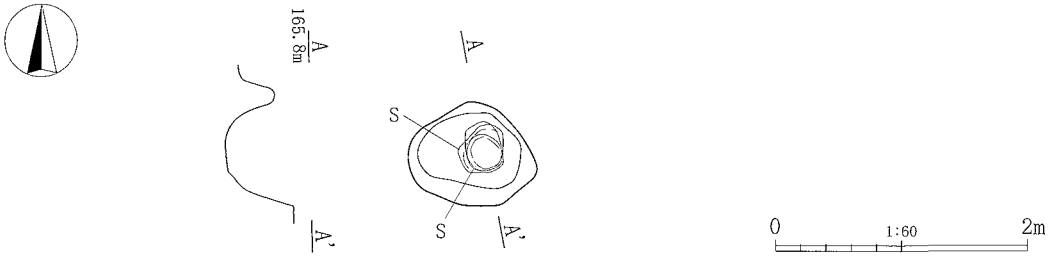
調査区中央南寄り８Ｆグリッドに位置する。調査区・攪乱の関係より、一部分が未調査である。また、時間の関係上、底面まで完掘していない。平面は直径2m弱の円形、断面は確認部分においては擂鉢状を呈し、３号土坑と規模・形状等近似する。覆土より中世～近世の所産と推定される。



第49図　４号土坑実測図

④５号土坑（第50図）

調査区中央東寄り10Ｅグリッドに位置する。H10・H11住と重複し、いずれの遺構より本遺構が新しい。底部中央に扁平な礫２点が重なるように出土した。直径１ｍ弱のほぼ円形を呈し、深さは約0.4m。覆土にAs-B軽石を含むため、中世～近世の所産と推定される。

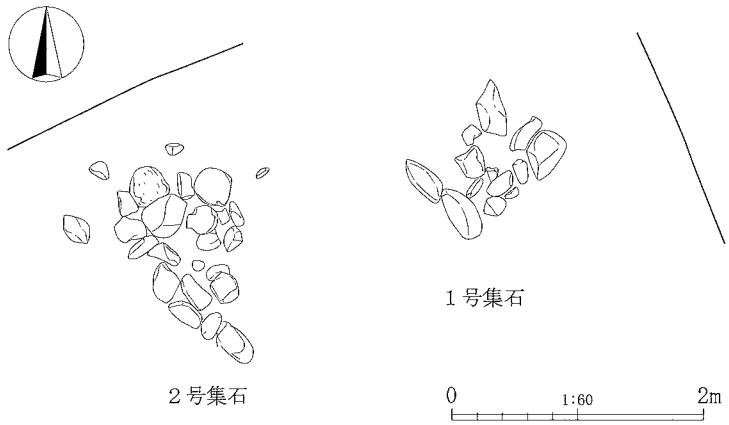


第50図　５号土坑実測図

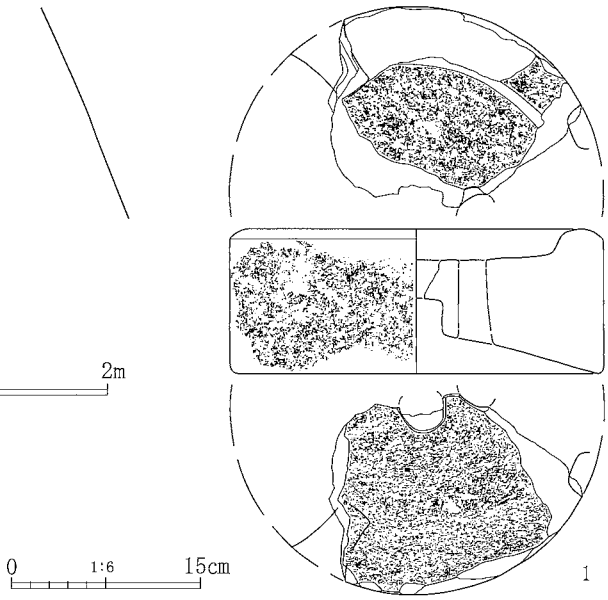
（3）集石

①１号集石・２号集石（第51・52図、第21表、PL. 4）

１号集石は５Ｅグリッド、２号集石は４Ｅグリッドに位置する。どちらも直径２m程の範囲内に人頭大の礫が集中して検出された。１号集石はH13住と、２号集石はH12住と重複し、いずれも集石遺構が新しい。両遺構とも集石下に掘り込みは確認できなかった。１号集石から石臼の破片が出土している。覆土・出土遺物より中世～近世の所産と推定される。



第51図　１号・２号集石実測図



第52図　１号集石出土遺物

1号集石

番号	器　種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	石製品 石臼		直径(29.6) 厚さ 11.4	上臼1/3。軸受け穴、もの入れ穴、引き手穴一部残存。重さ3,600ｇ。

第21表　１号集石出土遺物観察表

第４節　遺構外出土遺物

（1）縄文時代

前期～中期の所産と考えられる土器が出土している。これらの土器の大半は、前期中葉の所産と考えられる。以下、個別に説明する。

１～21の胎土には繊維が混入している。

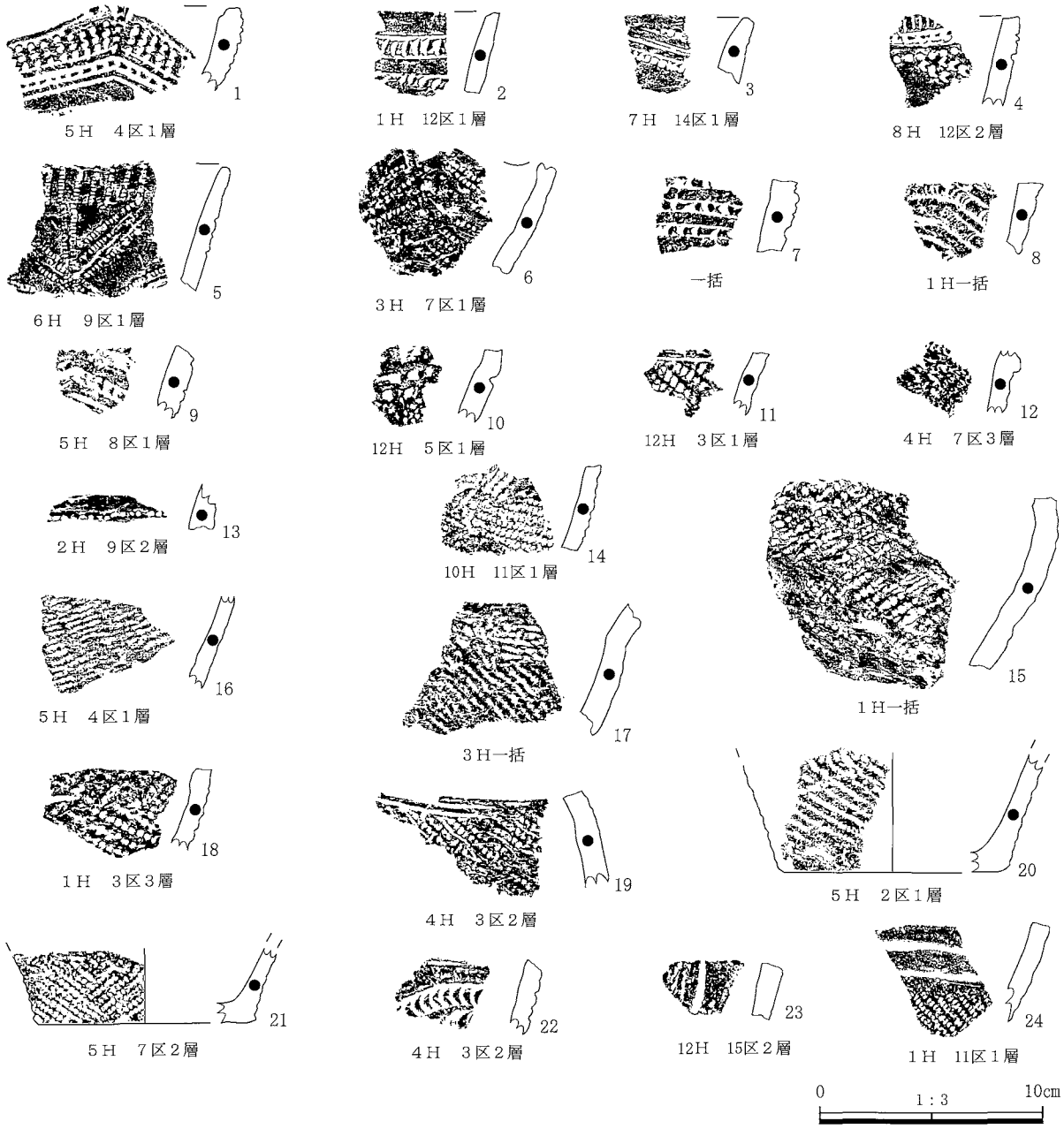
１～６は深鉢の口縁部である。１は波状口縁の深鉢である。口縁に並行するように、半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線を巡らし、その上位に櫛歯状工具による縦位連続刺突を施している。２は口縁部文様帯に半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線を巡らしている。３は半截竹管による平行沈線と櫛歯状工具により斜位区画している。４は半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線と、櫛歯状工具又は棒状工具による刺突文を横位に巡らしている。その下位には半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線を斜位に施す。口唇部には半截竹管による縦位連続平行短沈線を施している。５・６は櫛歯状工具により口縁部文様帯を区画している。５は縦位・斜位を組み合わせ、６は斜位に区画している。

７～19は深鉢の胴部である。７～９は半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線により、横位・斜位の区画を施している。８・９は菱形の文様構成となる可能性がある。10は半截竹管による連続刺突と縄文が施されている。11はＲＬ縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線で横位に区画している。12はＬＲとＲＬによる羽状縄文を施し、その上位を半截竹管と隆帯により区画している。13は一部に櫛歯状工具による刺突（？）

を施している。14にはＬＲとＲＬの羽状縄文が施されている。15～18には縄文が施されている。15はＬＲ縄文、16・17はＬ縄文と思われる。18は摩滅により不明瞭だがＬＲとＲＬの羽状縄文か。19はＲＬ縄文を施し、その上位に半截竹管による平行沈線で横位に区画している。深鉢の口縁部文様帯最下位部分の破片と思われる。20・21は縄文を施している深鉢の底部付近である。20はＬ縄文、21はＬＲとＲＬの羽状縄文である。

22～24も深鉢の胴部であるが、胎土に繊維は含まれない。22はやや幅広の半截竹管による爪形刺突を伴う平行沈線を施している。23・24は地文に縄文を施し、浅く幅広の凹線で区画している。

これらの土器のうち、１～21は前期中葉のものであり、その大半は有尾式の範疇に収まると考えられる。22は前期後葉諸磯ｂ式か。23・24は中期後葉加曽利Ｅ式である。



第53図　遺構外出土遺物

第5章　まとめ

今回の調査は、調査範囲が狭小であったことや、安中城Ⅱの遺構遺存状況が不良であったことなどから、城の全容解明には遠く及ばなかった。しかし、初めての安中城本丸付近においての調査であり、一定の成果はあったと考えている。ここでは、今回の調査成果を時代ごとに総括し、若干の考察を加えながらまとめとする。

縄文時代

両遺跡とも遺構は検出されていないが、前期～中期の土器片が出土している。また、時期は断定できないが、当該期のものと推定される石器も少量出土している。出土土器の大半は前期中葉有尾式期のものである。九十九川を眼下に臨むこの段丘上は、縄文時代の人々にとっても生活しやすい場であったのだろう。過去の近隣地域における発掘調査でも前期～後期の遺物が一定量確認されており、一帯に小規模集落が存在していた可能性が考えられる。

古代

安中城Ⅱにおいて、奈良時代を中心とした住居址13軒が検出された。過去の周辺地域における調査（地尻・地尻Ⅱ遺跡、地尻Ⅲ遺跡、植松・地尻遺跡）でも、７～９世紀を中心とした住居址が一定の軒数確認されている。安中城の周辺地域は律令体制期の野後郷と想定されており、植松・地尻遺跡で確認された大型掘立柱建物址は郡家または駅家の可能性が指摘されている。今回の調査結果を併せみても、本遺跡の周辺地域が、野後郷における中心的集落であったことは確実であろう。

中世～近世

安中城Ⅰの調査では、東西方向に２本の試掘トレンチを入れた結果、大規模な堀・石組・土塁状遺構が確認された。

北に位置する１号トレンチで確認された堀はトレンチにほぼ直行するように北北西と南南東を結ぶ方向に構築されている。西側の立ち上がりが調査区外となるため全体規模は不明であるが、確認された部分のみで上幅約10m、現地表面からの深さは4.5mを測る。底部はほぼ平坦で、平坦部は確認されただけで7.3mを超える。覆土にはローム土が多量に混入し、土層断面より西側から人為的に埋め戻している可能性が考えられる。堀からは近世陶磁器のほか塀瓦・石臼・擂鉢等が出土している。また、中世の所産と考えられる遺物も若干確認されている。

南の２号トレンチは堀の確認面までの掘削にとどめたが、西側立ち上がり部分で径30～50㎝程度の石を規則的に配置した石組が確認された。そして石組に西接し、ローム土と黒色土の版築による土塁状遺構も検出されている。この石組・土塁状遺構の方向は、１号トレンチで検出された大規模な堀とは若干異なり、北西と南東を結ぶ方向に構築されている。この土塁状遺構は築地である可能性が考えられ、絵図等の資料より近世安中城の本丸東端部の区画をなすものと推測される。トレンチ内からは近世陶磁器等が出土している。

一方、安中城Ⅱの調査においては、溝２条・集石遺構２基・土坑４基が確認された。調査区東寄りで検出された１号溝は、上幅4.5m、深さ2.3mの断面Ｖ字状を呈し、堀と言える程の規模である。一方、２号溝は調査区東端で一部が検出されただけであり、規模・断面形状等不明である。両溝とも確認された部分は僅かであるが、ほぼ並行するものと考えられる。集石遺構・土坑は、その検出位置より近世安中城の本丸内に構築されたものと考えられるが、機能・性格等については不明である。

さらに、平成20年度に安中小学校仮設校舎建設に先立ち実施した試掘調査では、３条の溝・堀が確認されている。このうちトレンチ東端部で確認された堀は、底部まで完掘はしていないが非常に規模の大きい遺構であることが分かっている。また、この堀の覆土には、ローム土が多量に混入し、西側から人為的に埋め戻している様子が看取できた。つまり、安中城Ⅰの１号トレンチで確認された堀の覆土と、堆積状況が酷似しているのである。この覆土が酷似している堀を直線状に結んだ部分に、安中城Ⅱの東端部にある２号溝が位置している。その位置関係より、この３条の堀と溝は同一の遺構である可能性が

考えられる。換言すれば、安中小学校敷地東端部付近には、南北方向に大規模な直線状の堀が構築されていた可能性が考えられるのである。この堀の性格については、以下の理由から中世安中城の時代に機能した、東西に長い台地を分断するように構築された掘切である可能性が考えられる。

1　近世安中城絵図と、安中城Ⅱ２号トレンチで確認された石組・土塁状遺構を併せて考えてみると、第54図の位置付近に本丸の堀が存在すると推定される。この仮説が正しければ、南北方向の直線状の堀は本丸内部に位置することになるため、近世安中城のものとは考えにくい。

2　碓氷川・九十九川と、そこから台地にせり上がる急斜面に囲まれた要害の地に築かれた中世安中城であるが、西側は平坦な台地が続くため、主郭部西側にあたるこの部分に掘切を構築することは、城の防御上合理性が高い。

3　堀の覆土中から、少量ではあるが中世の遺物が出土している。

4　近世の堀とするには大規模すぎるという疑問が残る。

第54図　中世掘切・近世本丸堀推定位置図

おわりに

冒頭でも述べたように、今回の調査は調査範囲の関係等から、安中城に関する十分な資料が得られたとは言い難く、今後の周辺地域の発掘調査に委ねられた課題も多い。安中城周辺地域では、現在でも堀跡等の遺構が確認できる場所がある。今後は、過去の周辺地域における発掘調査成果の再検討とともに、詳細な現地踏査の必要性も認識している。

参考文献

山崎一　1978 『群馬県古城塁址の研究』 群馬県文化事業振興会
千田茂雄　1990 『西町・谷津遺跡』 安中市教育委員会
千田茂雄　1991 『地尻遺跡・地尻Ⅱ遺跡』 安中市教育委員会
安中市市史刊行委員会　2001 『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』 安中市
井上慎也・深町真　2005 『植松・地尻遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団
深町真　2009 『地尻Ⅲ遺跡』 安中市教育委員会
千田茂雄・有山径世　2010 『並木遺跡』 安中市教育委員会

写　真　図　版

調査区全景（上が北）

1号トレンチ掘削状況

1号トレンチで検出された堀

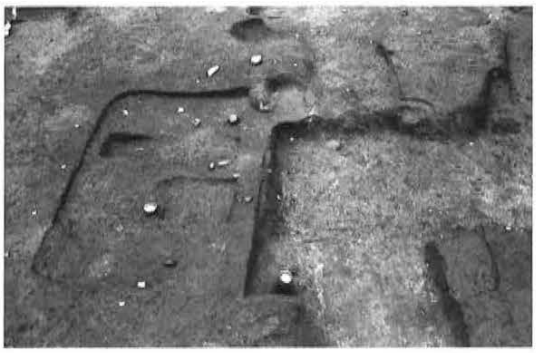
2号トレンチ石組と土塁状遺構

2号トレンチ土塁状遺構南壁セクション

調査区全景（上が北）

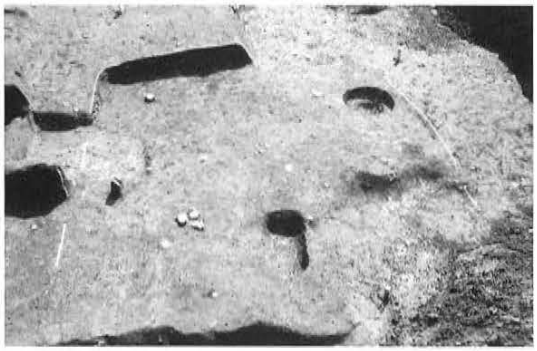
Ｈ１号住居址遺物出土状況（西より）

Ｈ２号住居址遺物出土状況（西より）



Ｈ３号住居址遺物出土状況（西より）

Ｈ４号住居址遺物出土状況（西より）

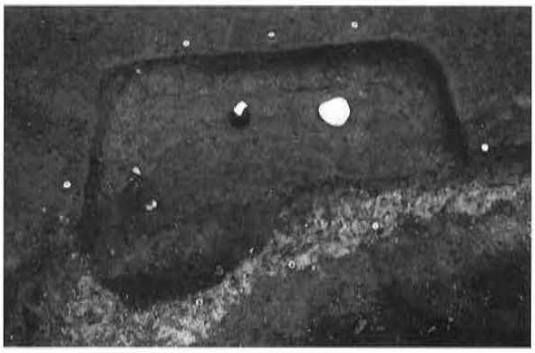


Ｈ５号住居址遺物出土状況（西より）

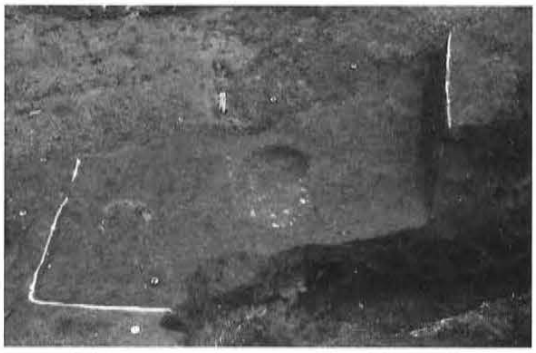
Ｈ６号住居址完掘状況（南より）

Ｈ７号住居址遺物出土状況（南より）

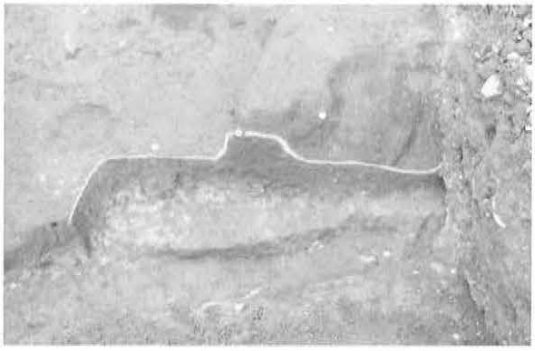
Ｈ８号住居址遺物出土状況（南より）



Ｈ９号住居址遺物出土状況（南より）

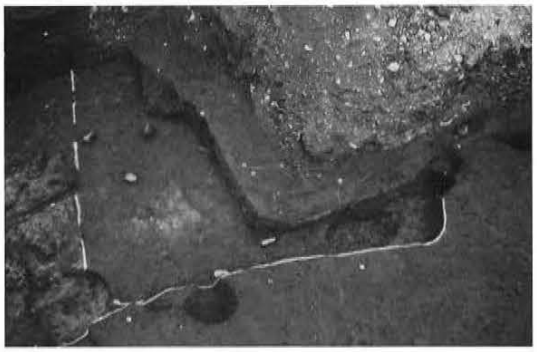


H10号住居址完掘状況（西より）



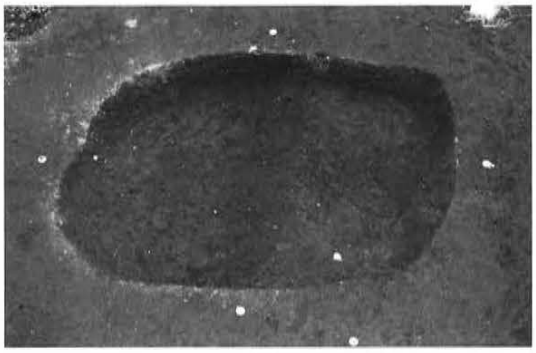
H11号住居址完掘状況（西より）

H12号住居址遺物出土状況（南より）



H13号住居址遺物出土状況（南より）

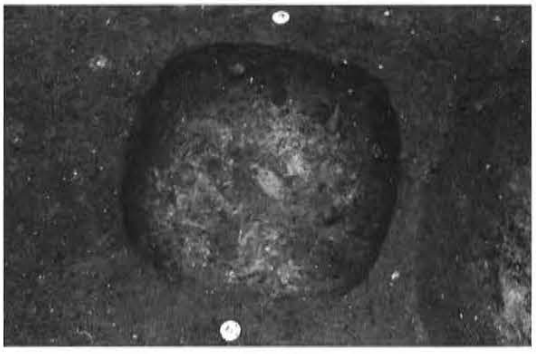
1号・2号集石礫出土状況（南より）



1号土坑完掘状況

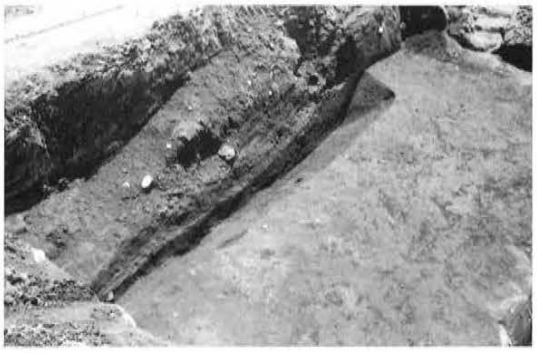
2号土坑遺物出土状況

4号土坑完掘状況



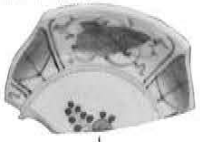
6号土坑完掘状況

1号溝セクション（南より）



2号溝完掘状況（西より）

安中城Ⅰ


1トレ－1

1トレ－4

1トレ－5

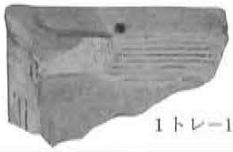
1トレ－2

1トレ－6

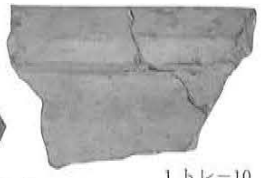
1トレ－3

1トレ－7

1トレ－8


1トレ－11

1トレ－9


1トレ－10

1トレ－12

2トレ－1

2トレ－2

安中城Ⅱ

1H－1

1H－2

1H－3

1H－4

1H－5

1H－6

1H－7

1H－8

1H－9

1H－10

1H－11

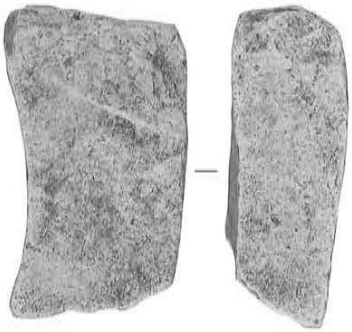
1H－12

1H－13

1H－14

1H－15

1H－16


1H－17

2H－1

2H－2

2H－3

3H－1

3H－2

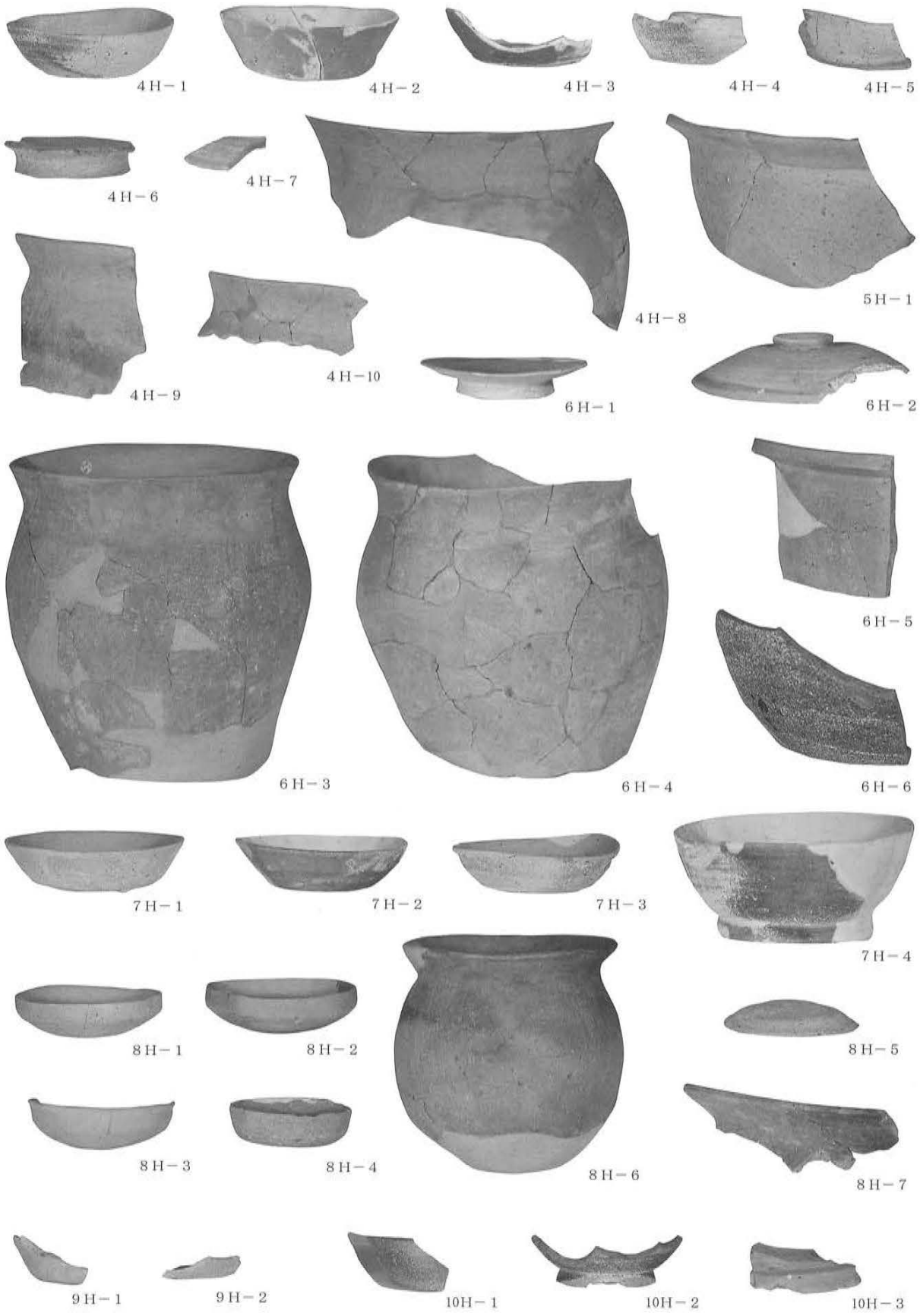
3H－5

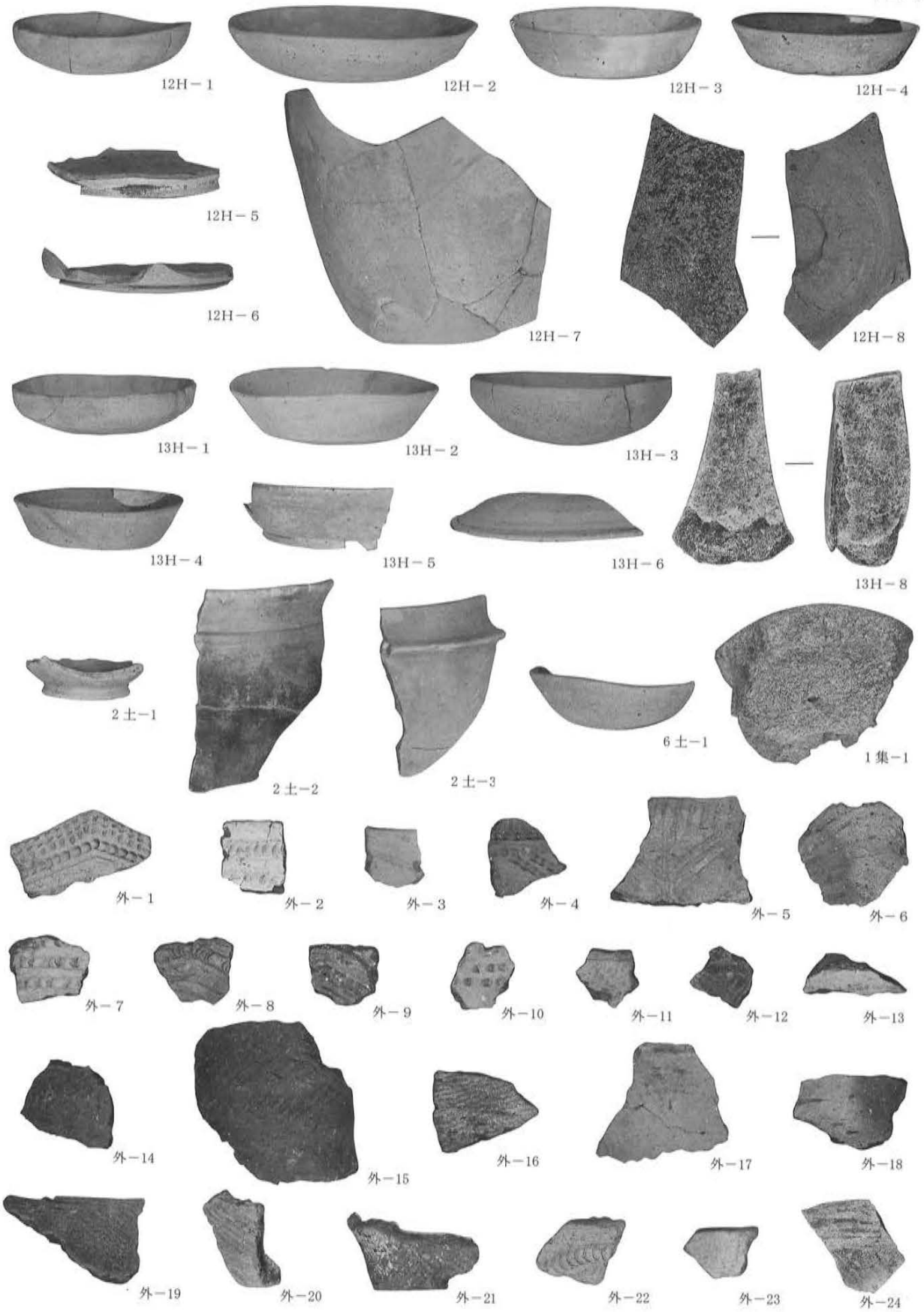
3H－3

3H－4

3H－6

PL. 6


4H−1
4H−2
4H−3
4H−4
4H−5
4H−6
4H−7
4H−8
5H−1
4H−9
4H−10
6H−1
6H−2
6H−3
6H−4
6H−5
6H−6
7H−1
7H−2
7H−3
7H−4
8H−1
8H−2
8H−5
8H−3
8H−4
8H−6
8H−7
9H−1
9H−2
10H−1
10H−2
10H−3


12H－1
12H－2
12H－3
12H－4
12H－5
12H－6
12H－7
12H－8
13H－1
13H－2
13H－3
13H－4
13H－5
13H－6
13H－8
2土－1
2土－2
2土－3
6土－1
1集－1
外－1
外－2
外－3
外－4
外－5
外－6
外－7
外－8
外－9
外－10
外－11
外－12
外－13
外－14
外－15
外－16
外－17
外－18
外－19
外－20
外－21
外－22
外－23
外－24

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	あんなかじょういち・に
書名	安中城Ⅰ・Ⅱ
副書名	安中市文化センター駐車場建設事業・安中市立安中小学校校舎建て替え事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	壁　伸明
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379－0292　群馬県安中市松井田町新堀245　　TEL 027－382－1111
発行年	西暦2011年（平成23年）3月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
安中城Ⅰ（あんなかじょういち）	安中市安中（あんなかしあんなか）222-1	102113	D-27	36°19′52″	138°53′47″	20090514～20090605	240㎡	安中市文化センター駐車場建設事業・安中市立安中小学校校舎建て替え事業
安中城Ⅱ（あんなかじょうに）	安中市安中（あんなかしあんなか）3-10-43	102113	D-28	36°19′49″	138°53′47″	20090717～20090731	470㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安中城Ⅰ	城館址	中近世	堀・石組・土塁状遺構	陶磁器、瓦	中世安中城掘切 近世安中城堀・築地 奈良時代を中心とする集落
安中城Ⅱ	集落 城館址	古代 中近世	住居址 堀・土坑・集石	土師器、須恵器 陶磁器	近世安中城本丸址

安中城Ⅰ・Ⅱ

～安中市文化センター駐車場建設事業・
安中小学校校舎建て替え事業に伴う埋蔵文化財
調査報告書～

発行日　平成23年3月25日

編集・発行　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245

印刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67